

平成 30 年度

モデルコアカリキュラム推進のための

---

ポートフォリオ教育実践プロジェクト

資

料

編

平成 31 年 3 月

徳山工業高等専門学校

# 目次

1. アンケート結果の概要(全回答記載) -----	3
2. 参考資料	
2.1 徳山高専(図 9)-----	49
2.2 佐世保高専(図 10、11、12) -----	50
2.3 岐阜高専(図 13) -----	53
2.4 石川高専(図 14) -----	54
2.5 豊田高専(図 15、16) -----	63
2.6 津山高専(図 17) -----	65
2.7 呉高専(図 18、19、20、21) -----	73
2.8 大分高専(図 22、23) -----	78
2.9 都城高専(図 24) -----	103
2.10 函館高専(図 25) -----	105
2.11 徳山高専(図 26) -----	108
2.12 阿南高専(図 27) -----	109

## 1. アンケート結果の概要(全回答記載)

今回のアンケート調査で得た全回答は下記の通りである。

### 問3. どのような学生単位で記録していますか?(複数回答可)

「その他」を選択された方の自由記述回答

---

- ・特別活動（ホームルームまたはアカデミックガイダンス）
- ・全学年に展開中

### 問4. 記録している学生単位・状況について、具体的にご記入ください。(自由記述)

---

#### 【授業・講義について】 33件

- ・材料科学（機械システム工学科 4年40名・2単位・前期15コマ）という授業で、講義の最後に各自に自身の到達度を確認させている。
- ・アクティブラーニング入門（1年・全員・1単位・前期1時間）という授業で、1人ずつ。
- ・倫理（40名×3学科=120名・2単位・通年2時間）の授業で、各学生に、授業のポイントや疑問点などを記録させている。
- ・情報基礎Ⅰ（1年全学科・40名・2単位・通年2時間）と情報基礎Ⅱ（2年電気情報工学科、物質工学科、建築学科・40名・2単位・通年2時間）という授業で、学生ごとに学生が記録している。
- ・卒業研究（機械工学科5年44名）という授業の、担当卒研生7名（一組1～2名）毎に記録している。
- ・設計製作課題演習（機械工学科4年45名）という授業の、担当学生4名（一組2名）毎に記録している。
- ・制御基礎（電気電子システム系2年46名・1単位・前期2時間）という授業で毎回、各人に記録させている。
- ・オペレーティングシステム（電子情報工学科3年40名・2単位）という授業の中で、Webシステム作成演習を実施している。この中でチーム(1チーム当たり3～4名)ごとに記録している。
- ・授業（課題演習・通年2単位）半期、研究室単位4～5人。
- ・国際3年と国際4年の英語の授業
- ・保健の授業（各クラス43名前後・2単位・通年）で授業用に予習 or 復習プリントを作成し、個人で解かせ、記録している。
- ・特別演習（専攻科・エコデザイン工学専攻1年20-30名・2単位・前期3コマ・週）という授業で、チーム(1チーム当たり4～5名)ごとに記録している。
- ・授業（測量学Ⅰ、水理学、環境衛生工学、・・・）で、個人に学習シート（毎回）として記録させている。
- ・全学実施のインキュベーションワーク授業で実施。
- ・技術者入門Ⅰ（図学の基礎、構造物の計測実習、図面制作(環境都市工学科1年42名・1単位・前期2時間)）という授業で、チーム(1チーム当たり5～6名)ごとに活動し、各自記録している。

- ・ 機械工作法(機械工学科 3 年 40 名・2 単位・通年 2 時間)という授業で、試験答案を返却するごとに学生自身の成績などを記録させている。工作実習(機械工学科 2 年 40 名・3 単位・通年 4 時間)という授業で、学年末試験答案を返却する時に学生自身の成績などを記録させている。
- ・ 一般科目の社会科の授業(「現代社会」「倫理」)で、個人で授業内容やそれを通して考えたことを記録させている。
- ・ 1 年、2 年の国語と、4 年の日本語表現において取り組む授業中の課題を回収し、他のクラスの学生も見ることができるように公開している。
- ・ 電気回路 I(電気情報工学科 2 年 44 名・4 単位・通年 4 時間) 全員
- ・ 電気材料工学(電気情報工学科 5 年 32 名・2 単位・前期 2 時間) 全員
- ・ 物理 I (総合理工学科 1 年生 41 名×4 クラス, 2 単位, 通年 2 時間)において、全学生個人毎に記録。
- ・ 機械材料(機械システム工学科 3 年 40 名・2 単位・通年 2 時間)の講義で個人ごとに記録している。
- ・ 分析化学(物質工学科 2 年 37 名・2 単位・通年 1 時間)、環境工学(物質工学科 4 年生物コース 16 名・2 単位・通年 1 時間)、工業熱力学(物質工学科 5 年物質コース 26 名・1 単位・前期 1 時間)、地球環境科学(全専攻 2 年生・23 名・2 単位・前期 1 時間)、水質環境化学(物質工学専攻・7 名・2 単位・後期 1 時間)。
- ・ 有機工業化学(生物応用化学科 5 年 40 名・2 単位・通年 2 時間)において、各自で記録している。
- ・ 電気機器 B
- ・ 実験と演習の科目で、各自で記録してもらっている。
- ・ 担当科目においてそれぞれの学生に定期試験ごとに取り組みを記録させている。
- ・ 3 年生から 5 年生の学生実験で、個人ごとに記録している。
- ・ 学生実験において、ラボノートの形で活動状況を記録し、定期的に教員で確認している。
- ・ 担当授業にて学生個人で記入・管理させている。
- ・ ソーシャルデザイン入門(1 学年 163 名・0.5 単位・通期 45 分)という授業で、ePF システム Mahara を用いて、授業や特別活動での学び、体験、それらからの収穫を記録させている。在学期間中、学生は ePF を利用することが可能。
- ・ 電気機器 B(電気コース)で自学自習記録シートを記入させている。
- ・ 創造工学科 160 名 1~5 学年、専攻科 1・2 学年

#### 【研究について】 10 件

- ・ 卒業研究(メディア情報工学科 5 年 2~5 名・8 単位・通年週 4 コマ)、特別研究(専攻科情報工学コース 1~2 年 1~3 名・6~8 単位・通年週 3~4 コマ)、創造研究(全学生希望者 1~3 名・1 単位・通年週半コマ)において研究室所属学生 1 人 1 人に研究進捗状況報告書、または同状況発表スライドを作成させ、週 1~2 回(H30 年度の例:特研生は木曜日、卒研生と創研生は金曜日)行っているゼミにて報告書、ないしスライドを基にした発表・議論を行わせている。
- ・ 専攻科生に日々の研究内容を記録させている。
- ・ 卒業研究(電子制御工学科 5 年)において、研究室配属の学生に記録させている。
- ・ 本研究室所属学生(5 年:4 名、4 年:4 名)に実験結果や卒業研究に伴い調べた結果を記録させている。

- ・ 共同研究等に参画してもらい状況を記録させている。
- ・ 卒業研究、準卒業研究、特別研究において、研究の取り組み状況を記録させている。
- ・ 卒業研究、特別研究において、活動記録を記録、週報で確認している。
- ・ 卒業研究において、最終提出締切前に設定している指導教員による複数回添削チェック日の記録。
- ・ 卒業研究、専攻科特別研究の記録簿をつけさせている。
- ・ 研究室（卒業研究・通年）半期単位で個人

#### 【課外活動について】 5件

- ・ 課外活動として、バスケットボール部員にトレーニング内容を記録させている。
- ・ 課外活動（弓道部）として試合記録（個人単位での的中数）を記録している。
- ・ 年間の課題活動を記録している。
- ・ 課外活動としてビジネスマインド育成を行っている。
- ・ テニス部員に課外活動時、月ごとにPDCA フォームを作成してもらっている。

#### 【全学年・学級・クラス】 38件

- ・ 各学生にクラス担任を通じて、年度初めと終わりに記載させている。年度初めには1年間の目標を、年度終わりには、到達状況を記載させている。勉学や研究、課外活動、資格の取得状況などが書けるようになっている。学年進行でレベルが向上しているかがわかるようにしている。
- ・ ホームルームで各学生に記録させている。
- ・ 各学年の特別活動（ホームルームまたはアカデミックガイダンス）等において、キャリア教育支援プログラムを実施した際に記録している。
- ・ ホームルームにおいて、学年ごとの取得単位状況一覧の記録。
- ・ 全学生にホームルームで年2回、ポートフォリオを記入させている。
- ・ LHRにおけるキャリア教育資料として記録、ファイリングさせている。
- ・ HRの時間に課外活動として記録させている。
- ・ HR（クラス、半期、40名）個人。／部活動（一ヶ月、部長）。
- ・ 担任するクラス（42名程度）に記録させている。
- ・ 石川高専では、全学生がキャリアデザインポートフォリオを、年4回ほど記入している。実施は、担任がクラス毎に記入する時間を設けている。
- ・ 全学生・目標設定・中間振り返り・達成度自己評価。
- ・ クラスごとに担任がLMS上で管理。学生支援ミーティング等で活用。
- ・ 3年生以上の学生（専攻科生を含む）に対して、個人の情報について記入し、クラスごとに集計している。
- ・ 学級指導において一年間を振り返って記録させている。
- ・ クラス全員を対象に、自分自身で自己PRを中心にしながら、学校での活動記録を記録し続けている。
- ・ 特活（環境都市工学科3年40名・前期1時間、後期1時間。）
- ・ 各学年、各クラスで特活の時間を利用し、担任の指示のもと専用の用紙に記入させる。（個人による記入）
- ・ 40名×5学科×(1~4学年)→800名
- ・ 全学生に対して記録している。

- ・ 成績の確認のため、各個人の成績を記録させている。
- ・ 年度当初に各学生の目標を策定してもらい、翌年度当初にその達成度合いを記録してもらっている。学生の目標は、学習、課外活動、学校生活等、幅広い分野から設定してもらっている。
- ・ キャリア学習履歴管理システム（略称：きやり Pi）にて、全学生に、キャリア教育支援プログラムの一環として入力をお勧めしている。
- ・ 履修科目について全学生に記録させている。
- ・ 本校では全学生の出欠状況が、オンラインで確認できるようになっています。
- ・ 昨年度入学生からは必須で高専機構のポートフォリオに入力している。その際、学生自身が長期目標と短期目標を入力するようにしており、折々で振り返りさせている。また一部の教員は保護者懇談会の三者面談の際にも保護者と目標の達成状況を確認している。MCCの達成状況も入力できるシステムではあるので、定期試験実施後に該当項目の達成状況を入力するようにしているが、スマホ連携が十分ではなかったのでごく一部にとどまっている。本来 KOREDA と連携すれば、定期試験の成績情報は自動で取り込まれるが現在はまだその機能は運用されていない。（KOREDA 側の問題）
- ・ デザイン能力を項目ごと学年ごと、キャリア能力を項目ごと学年ごとに学生個々に記録。
- ・ 本校では3学年の末になると、1学年から3学年までの授業科目の成績や特別活動等への取組状況から自己点検を実施し、卒業後の将来設計を立て、今後2年間の目標を設定して1年毎にその達成度を評価することになっている。
- ・ 特別活動の時間を利用して、担任をしているクラスの学生に記録させている。
- ・ 1年次は全教員が1年生対象で、3名程度に学習記録簿を管理し、2年からは学級担任ごとに同記録簿を管理している。
- ・ キャリア教育の一環で、1～4年次の各担任が LHR や講演会などにおける活動の記録を一つのファイルに閉じてクラスごとに記録している。
- ・ 全学生に「目標記録簿」を記入させている。
- ・ 1年生（3学科 120名）を対象に、スケジュール管理手帳（高専手帳）を用いて、学習及び課外活動を記録させている。
- ・ 担任によっては、定期的に確認し、コメントを記入する場合もある。保護者懇談にも利用している。
- ・ 発達障害の学生を対象に、学生相談室でも活用している。
- ・ 担任が年度開始時と年度末に特別活動として、各年度記録をさせている。
- ・ 1年機械工学科 42名担任のクラス。
- ・ 入学時に全学生にポートフォリオの冊子を配布し、成績管理や学習教育目標や学習科目に関する達成度チェックなどができるようにしている。学生各自でこの冊子に自己の学習歴をとじこむことを想定している。
- ・ 学校としてクラスごとに記録させている。

#### 【その他】 4件

- ・ 各種資格試験の合格（取得）やサイエンスボランティア等、難易度によって単位数が決められている。
- ・ すべての科目で定期試験ごとに自分の点数を記録させている。
- ・ 進学、及び建築設計の職種に進む学生に記録させている。
- ・ 学生が成績を把握し自己評価をするために記録させている。

問5. どのような項目を記録していますか？（複数回答可、「その他」選択は自由記述）

---

- ・ 研究;課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ シラバス、答案、成績表等;取得単位;
- ・ 取得単位;課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 講義内容の理解度;
- ・ 目標・振り返り;課外活動内容;自己紹介;
- ・ 学生が主体的に設定した年間目標とその到達度を記録する;取得単位;課外活動内容;
- ・ 研究;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 課外活動内容;
- ・ キャリアの目標、進路探索、影響を受けた人、印象に残ったフレーズ;研究;課外活動内容;資格;
- ・ 学生が学んだこと（課外活動も含む）;
- ・ キャリアプラン;取得単位;資格;
- ・ 先輩の講話を聞いて感じたこと、気づいたこと。;課外活動内容;自己紹介;
- ・ 授業のまとめ、疑問点など;自己紹介;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ キャリア教育支援プログラム受講記録;取得単位;課外活動内容;自己紹介;資格;コンテスト;表彰;出欠状況;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 取得単位;
- ・ 試験の結果と理解の度合とルーブリック評価への自己評価（学生が書き込む）;
- ・ 取得単位;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 研究;
- ・ 自己紹介;資格;
- ・ 研究;
- ・ 研究;コンテスト;出欠状況;
- ・ 授業内容の重要点、集中度、質問;
- ・ 授業記録、課題提出状況;出欠状況;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ キャリア教育支援プログラム実施時の内容や感想;
- ・ 試験の取り組み;
- ・ 進路希望先;課外活動内容;自己紹介;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 活動内容;
- ・ 課外活動内容;自己紹介;
- ・ 理解したことや振り返り;研究;課外活動内容;自己紹介;資格;表彰;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 取得単位;課外活動内容;資格;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 研究;
- ・ その日の授業の振り返り;
- ・ プロジェクトの進捗状況;
- ・ 出欠状況;
- ・ 取得単位;課外活動内容;(教員が書き込める)指導記録;

- ・ 学習内容;
- ・ 研究;コンテスト;表彰;
- ・ MCC の達成状況 (科目の単位ではなく、試験問題の MCC の項目に直接紐付け) ;課外活動内容;コンテスト;表彰;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 取得単位;
- ・ 課外活動内容;自己紹介;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 知識や技術;
- ・ 課外活動内容;
- ・ 他にあるかもしれません;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 学習活動内容;
- ・ 取得単位;課外活動内容;資格;コンテスト;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 取得単位;課外活動内容;資格;
- ・ 課外活動内容;自己紹介
- ・ 自分の学業面での目標、自己分析、取組など;課外活動内容;
- ・ 取得単位
- ・ 短期的な目標とそれを達成するための行動案等;資格;コンテスト;
- ・ 各段階での目標;課外活動内容;自己紹介;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 研究;課外活動内容;自己紹介;
- ・ 課外活動内容;
- ・ 取得単位;
- ・ 取得単位;
- ・ 取得単位;出欠状況;
- ・ 研究;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 担任のコメント;取得単位;課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;出欠状況;研究;出欠状況;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 目標設定・中間振り返り・達成度自己評価;課外活動内容;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 取得単位;課外活動内容;コンテスト;表彰;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 授業の学習内容;出欠状況;(教員が書き込める)指導記録
- ・ 実験で習得すべき事項の確認;
- ・ 取得単位;研究;出欠状況;
- ・ 講演会等の感想;課外活動内容;自己紹介;
- ・ 授業の理解度、1年間の目標と到達結果;研究;
- ・ 授業の課題など;
- ・ 取得単位;
- ・ 取得単位;課外活動内容;
- ・ 取得単位;課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 研究;課外活動内容;
- ・ 研究;



- ・ 研究;自己紹介;コンテスト;表彰;
- ・ 取得単位;
- ・ 課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;
- ・ 課外活動内容;
- ・ 取得単位;
- ・ 取得単位;研究;出欠状況;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 課外活動内容;自己紹介;
- ・ 成績, シラバス;取得単位;(教員が書き込める)指導記録;
- ・ 課外活動内容;資格;コンテスト;表彰;

問6. “取得単位”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可）※26名の回答

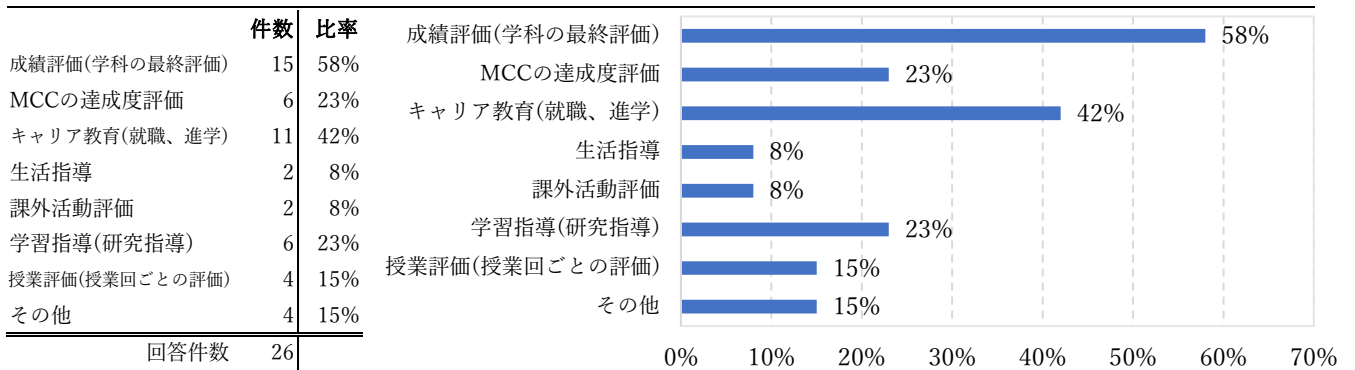


図1. 問6の回答

その他の回答では、学生の自己点検、コース制選択や研究室選択の際に活用、成績の自己管理、自己評価、の回答があった。

問7. “研究”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可）※18名の回答

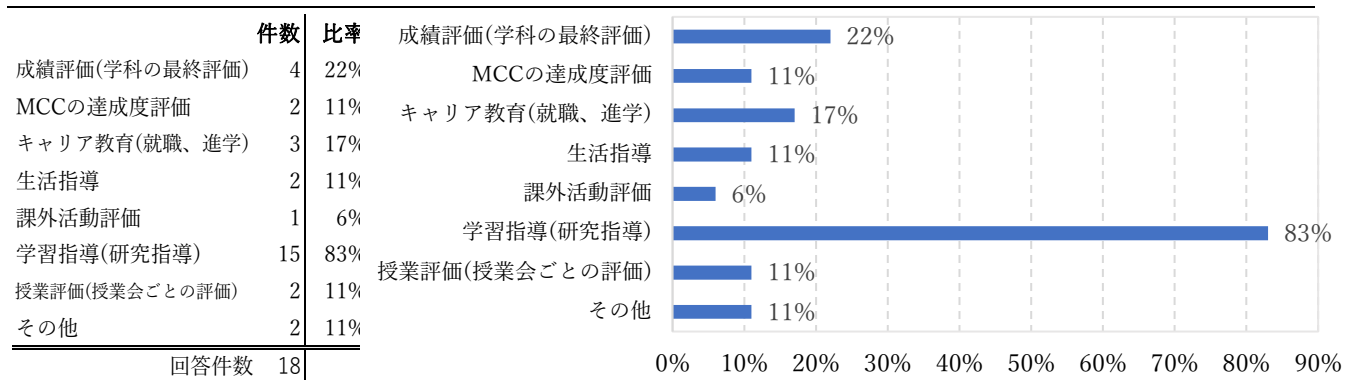


図2. 問7の回答

その他の回答では、具体的な目標設定、スケジュール管理、の回答があった。

### 問 8. “課外活動”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※34名の回答

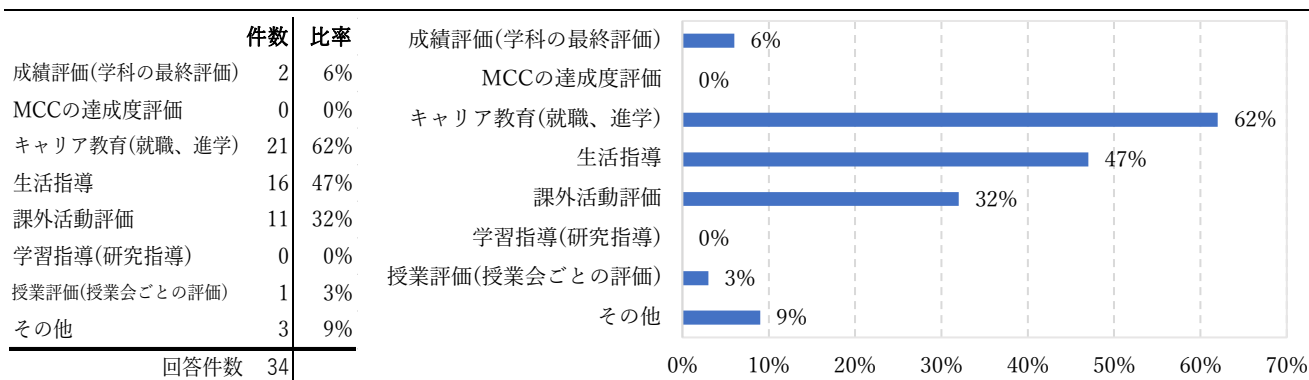


図 3. 問 8 の回答

その他の回答では、具体的な目標設定、自己の振り返り、自己評価、の回答があった。

### 問 9. “自己紹介”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※15名の回答

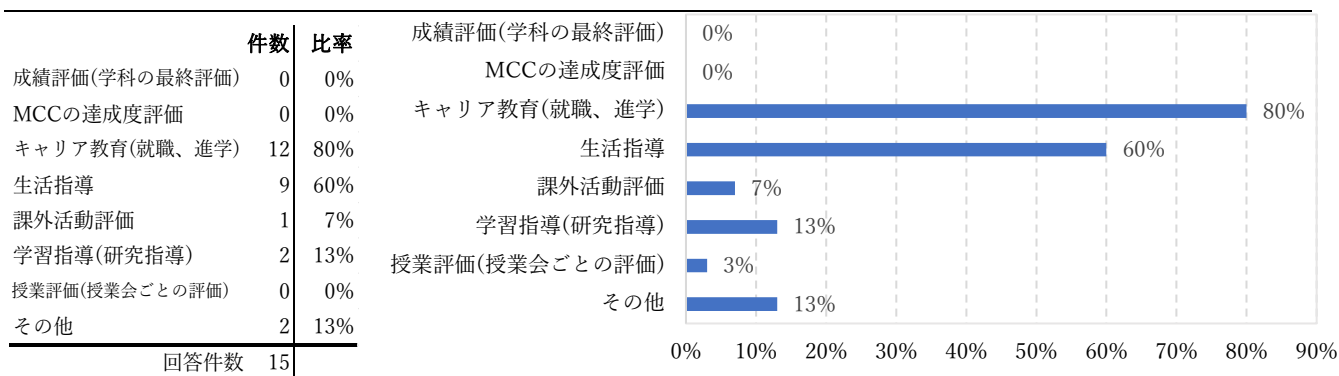


図 4. 問 9 の回答

その他の回答では、学生の性格を漠然とつかむため、学校生活、の回答があった。

### 問 10. “資格”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※19名の回答

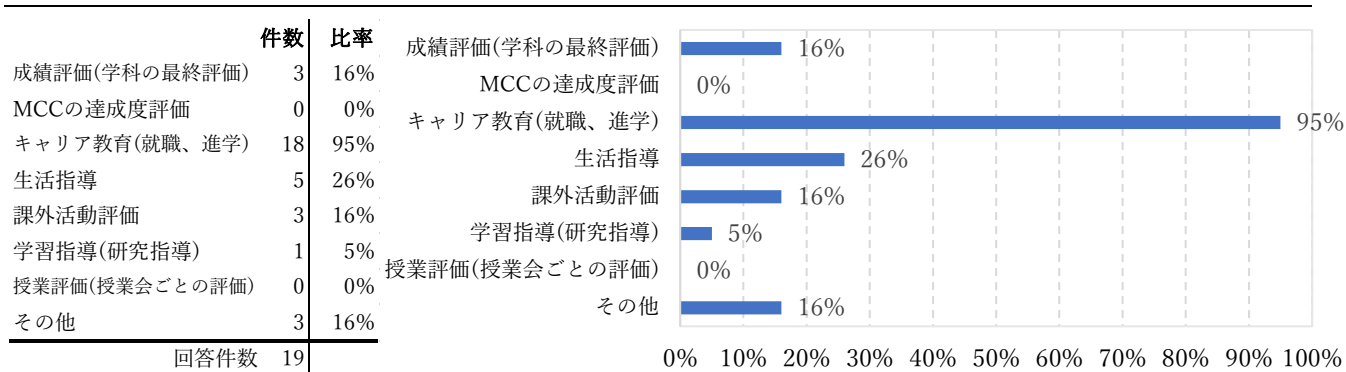


図 5. 問 10 の回答

その他の回答では、具体的な目標設定、自己の振り返り、の回答があった。

### 問 11. “コンテスト”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※18名の回答

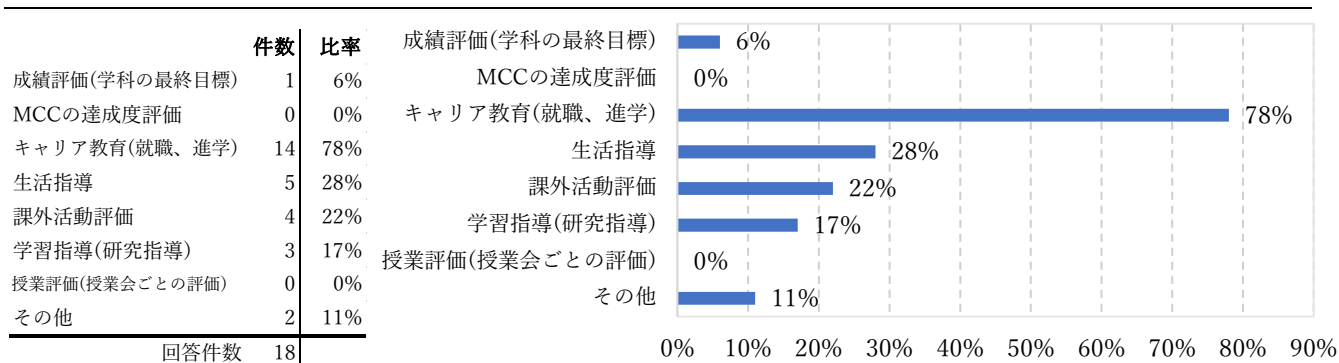


図 6. 問 11 の回答

その他の回答では、具体的な目標設定、自己の振り返り、の回答があった。

### 問 12. “表彰”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※16名の回答

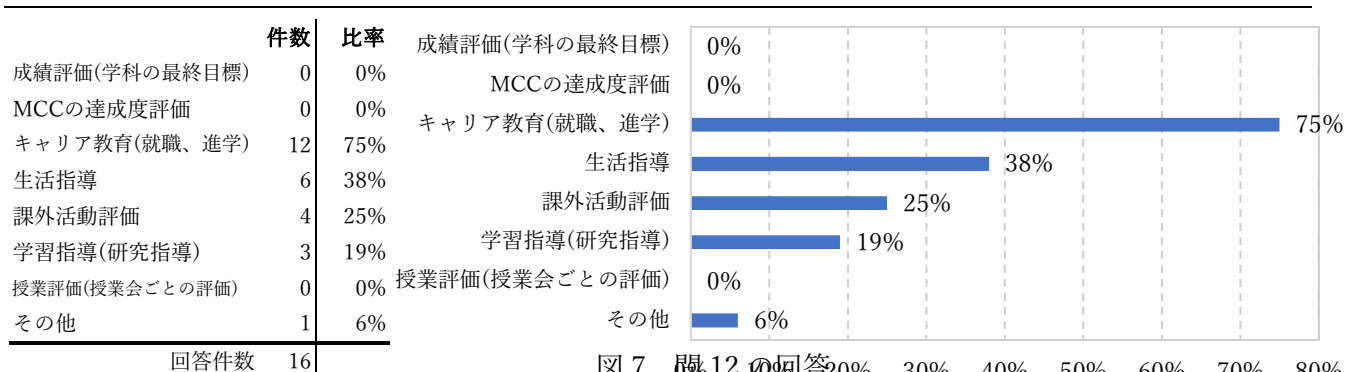


図 7. 問 12 の回答

その他の回答では、自己評価、の回答があった。

### 問 13. “出欠状況”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？（複数回答可） ※10名の回答

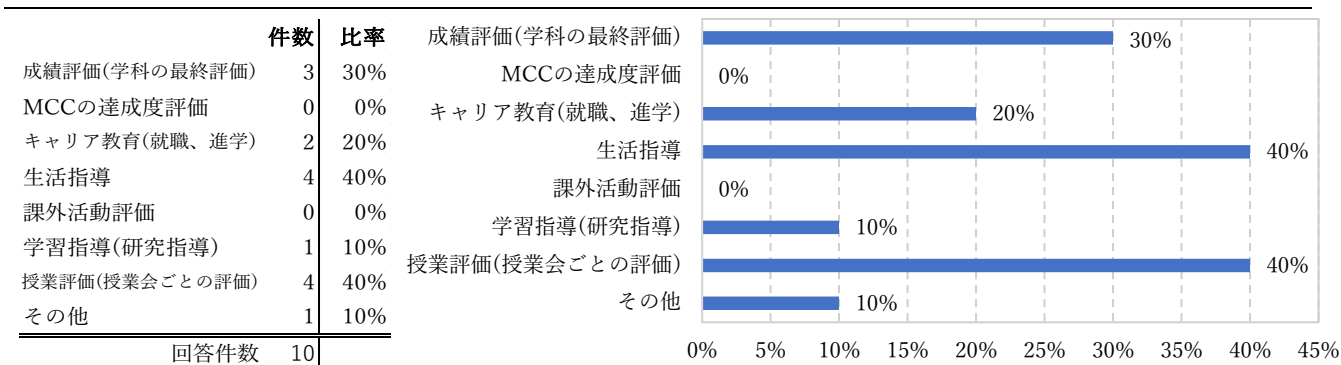


図 8. 問 12 の回答

その他の回答では、自己評価、の回答があった。

## 問 15. “その他”を選択された方のみ回答

それを記録している目的は何ですか？(自由記述)

---

- ・ 成績評価および学習指導のため
- ・ 学生の自己点検
- ・ 成績の確認
- ・ 学生の理解度を確認し、講義内容の改善に活かすため
- ・ 学習の動機付け。学生生活の質の向上。
- ・ キャリア教育の一環として。
- ・ 自分以外のことを意識することで自分では気がつけないものに気がつき、自分を振り返り、自分に取り入れていくことで、自分自身を”大きく”することに積極的に挑戦して欲しい。
- ・ 半期の間に学生が何を学んだのかを振り返らせるため。
- ・ 高専での生活を充実させ、変化の激しい社会を生き抜くための自己理解や職業理解を進めることで、学生が卒業後に自分の思い描く「自己」を実現できる能力を養うことを目的としている。
- ・ キャリア教育
- ・ 1. その日の学生の授業の振り返りのため。 2. 教員の授業中の説明不足などがなかったかを確認するため。
- ・ キャリア教育支援プログラムの受講記録（感想を含む）をさせ、後から振り返ることで、自己成長を実感してもらうため。
- ・ 学生による自己の状況確認と、教員による授業改善のため。
- ・ 学生の授業集中度を見るなど、重要項目を学生へ意識させるため。
- ・ 自己の学習到達度の確認。
- ・ キャリア教育（就職・進学）
- ・ 年間に計画されている（主に授業時間外の水曜日 14:40-15:25 に行なわれる HR・AG の時間を利用して行われる）。
- ・ キャリア教育支援プログラム  
<http://career.toyota-ct.ac.jp/groups/career/wiki/d9ea6/2018.html>  
の活動を記録して、年度途中の振り返りや進路を考える際の参考にするため。
- ・ 学生が試験ごとに取り組みを振り返れるようにしている。
- ・ キャリア教育（就職・進学）
- ・ 課題の目的の明確化、日程管理能力向上、情報共有能力向上などの目的
- ・ 活動や学習内容を振り返り、発表することで、定着強化をはかる。同時に就職や進学時のプレゼン資料となる。
- ・ どのように理解しているかを見るため
- ・ PBL 型の授業なので、個々のチームのプロジェクトの進捗状況を、学生自身に確認させること。ならびに、担当教員が、確認できるようにすること。
- ・ 学習到達度を保証するため
- ・ 科目の単位ではなくその授業や活動での MCC の達成状況を確認し、学生に自己認識させるため。

- ・ 学生の達成目標と自己点検
- ・ デザイン能力を伸ばす実習等の改善、キャリア能力を伸ばす教育プログラムの改善に活かす。
- ・ 理解度を含む成績評価
- ・ キャリア教育
- ・ 毎日無為に過ごすのではなく、定期試験や学期の区切り毎に目標を立ててそれに向かって行動できるように意識させるため。ひいては学生生活の延長上に将来（就職・進学）があることを早期から意識できるようにするため。
- ・ 短期目標、長期目標をそれぞれ設定し、自己分析や達成状況を評価しながら、キャリアデザインに活かしていく。
- ・ 学生の自己肯定感の向上
- ・ 計画的な目標達成、主体性の涵養のため
- ・ 成績評価、学習指導
- ・ 各学年の実験で、学生が身に着けるべきスキルを各個人が確認できるようにするため。
- ・ 設定された期限と与えられた時間において、自ら優先順位を決めて計画的に準備することができたかを認識してもらうため。
- ・ 自己の内面の成長、今後の進路決定における指針となる記録として。
- ・ 符号理論の授業では、毎回の学習到達度を測り、学生が自身の学習の記録とするため。
- ・ 全学生に記録させているポートフォリオでは、1年間の目標を立て、年度末に振り返ることで、意欲的に学校生活を行なうことを促すため。
- ・ 学生にフィードバックするため

**問 16. 記録しているポートフォリオをどのように活用しているか、具体的にご記入下さい。(自由記述)**

**【成績評価・課外活動評価に活用】 10 件**

- ・ 成績評価および学習指導に活用している。
- ・ 記録した成績、提出物の記録を用いて、個別の学習状況を把握、成績評価に利用している
- ・ グループ内の情報共有や成績評価に活用している。
- ・ 毎回の学習シートを定期試験ごとにファイルとして提出させ、学習評価し、最終成績評価に反映させる。また、個別に理解度チェックをしたい場合は、その都度回収し確認する。
- ・ 成績評価資料として利用。正確には授業時間内と課外活動の両方を記録。
- ・ 提出された課題の評価や、学生へのフィードバック、他の学生と共有できるようにしている
- ・ 記録した成果を用いて、後進の指導に活かしている。
- ・ 記録した成績を用いて次年度のフィードバックに用いる。
- ・ 課外活動の修練度の評価に利用している。
- ・ 学生自身が成績や出席状況を定期テストごとに把握することで、コメントの記入とともに自己評価をさせている。

**【目標達成度評価に活用】 15 件**

- ・ 記録した資格の取得状況や活動記録を用いて、学習・教育目標の達成のための指導に用いている。

- ・ 学習・教育目標の達成度の確認
- ・ 学生の自己評価による学習・教育目標の達成度評価。
- ・ 記録した活動記録を用いて、学習・教育目標の達成度を評価している。
- ・ 記録した研究内容を用いて毎月の目標の達成度を評価し、次の課題を与える材料としている。
- ・ 目標とした項目について1年後に自己評価を実施させることにより、次年度に向けての目標を立てる際の指導に活用する。
- ・ 学生が自分の目標に対してどのように進んでいるかを学生、教員が共通認識とし、担任が変わっても目標や導履歴を引き継ぐため。また MCC の達成状況のエビデンスとして。
- ・ 記録した学習活動内容を用いて、学習・教育目標の達成度を評価している。
- ・ 学生自身が活動記録を用いて、教育目標の達成度を評価している
- ・ 学生は達成度を自己評価している。担任は学生の目標や達成状況を確認して、学生支援ミーティング等に活用する。
- ・ 記録した成績や活動記録を用いて、学習・教育目標の達成度を評価している。
- ・ 記録した提出期限一覧を用いて、学習・教育目標の達成度を評価している。
- ・ 符号理論の授業や卒業研究の記録では、ポートフォリオにより学習目標の到達度を評価の一部に使用している。
- ・ 科目の達成度の評価（一部）に使用している。
- ・ まだポートフォリオについて十分な理解ができていないのですが、学生に自らの達成度を確認、理解してもらうことを目指しています。

#### **【自己管理・振り返りに活用】 19件**

- ・ 年度の初めに作成し、前期中頃、前期末、夏休み明け、冬休み前、年度末にそれぞれ振り返り、目標を修正することで、具体的な行動につながるよう促している。
- ・ 学生自身が、成績や学習・教育目標の達成度を記録し、自己の振り返りに利用している。
- ・ 学生の達成目標といつまでに目標に到達するかを明確にして、それを自己点検できるようにしている。
- ・ 各学年での目標達成状況を確認し、さらに新しい目標を立てることで、自己の成長を促すとともに将来の進路を検討する際の指針とする。
- ・ 学生の自主的な学修状況の点検が主な目的である。また、担任においては、学生へ指導する資料に活用している場合もある。
- ・ 学生自身の成績に関する自己評価。
- ・ 学生自身でも自身の成績を確認させるようにしている。
- ・ 年間の活動を学生一人一人が振り返り、将来のキャリア形成へと繋げる。
- ・ 教師が学生の振り返りにコメントをして返す。また、学生が成績確認や答案返却の時間に振り返るなどしている。
- ・ 学生の指導記録は教員にとっての振り返りでもある。指導方法やスケジューリング、タイミングの修正等にも参考になる。学生は授業や活動の振り返りによる定着の強化、就職や進、学時の履歴書や志望動機欄での記載資料になるなど。
- ・ 自学自習の記録のため。
- ・ 学生自身で自身の学習全体の状況を把握させるために記録させている。

- ・ 定期試験前に各自の学習状況を見直す。
- ・ トレーニング内容を振り返り、次回以降のメニューを自ら考えられるようにしている。
- ・ 自学自習の確認のため。
- ・ 学生本人の振り返りと目標設定のため活用し、そこに教員のコメントを入れている。
- ・ 記録した内容を学生自身の振り返り資料としており、教員は学習・生活指導の糧としている。
- ・ 単位修得計画表などに成績を書き込み成績の自己管理を行う。また学習・教育目標の達成度を自己管理する。
- ・ 科目ごとのシラバスに成績や気づきなどを書き込むことで、達成度を確認し学習の振り返りを行う。

#### 【授業に関して・授業改善に活用】 6件

- ・ 学生の理解度を確認し、講義内容の改善に活かすため。成績評価には直接は利用していない。
- ・ 学生の記述内容から特に重要と考えるも、授業に関する補足説明などを、コメント返しとしてプリント化して、メールで学生に共有。次回の授業の冒頭で復讐を兼ねて利用している。
- ・ 授業内容に対する質問への回答、JABEE 対応成績資料の一部として保管。
- ・ 授業において自分の言いたかったことが伝わっていて、学生自身が理解しているのかを見るため（授業では教科書を基本的に使用しないため）。
- ・ 授業科目の理解度評価に利用している。
- ・ 授業評価や課外活動評価のために利用している。

#### 【研究に活用】 6件

- ・ 週2回のゼミにおいて研究室所属学生それぞれに研究進捗状況報告書、ないしスライドを基に発表・議論を行わせ、指導教員がリアルタイムにコメント入れを行い、その日のうちにコメント付き報告書・スライドを各発表者にフィードバックしている。これにより、研究進捗状況の把握、方向性の調整、および達成度の評価等を行っている。
- ・ 専攻科生に日々の研究内容を記録させている資料をもとに、研究の進行状況を把握し、研究指導を実施している。
- ・ 記録した成績や活動記録を用いて、研究活動の進捗状況記録・出席・成績を評価・記録している。
- ・ 研究の進捗状況や理解度の確認
- ・ 記録した研究活動記録を用いて、研究の進捗の確認をしている。また、教員からの助言を記録することにより、学生が何をすればよいのか分かるようにしている。
- ・ 研究の達成度を学生に通達し、記録としても残している。

#### 【情報共有・面談に活用】 10件

- ・ 学生との面談。学生生活の大まかな把握及び助言。
- ・ キャリア教育活動を記録して、自らの成長を確認するために使い、教員と保護者との間でも共有している。
- ・ 進路決定時に、学生本人の価値観等を知るための補助資料として。
- ・ キャリア教育（就職・進学）に利用する。具体的には、保護者懇談会および個人面談の手持ち資料として活用している。
- ・ 記録した自己紹介や活動記録を学生指導に生かしている。また、保護者懇談の時の資料の一つとしている。

- ・ 担任がクラスの学生を指導する際の資料としている。(年度末には次学年に引き継ぎ、次の担任が指導に使用する。)
- ・ 全学生にホームルームで記録させるポートフォリオは、学生個人の特性を見極め、クラス運営に活用している。
- ・ 学生指導。保護者懇談。
- ・ 学生一人一人との面談や保護者懇談などの際、就職・進学時の強みとして引き出せるようアドバイスしている。
- ・ 面談の際に役立て、学習・教育目標の達成度を評価している。

#### 【キャリア教育に活用】 6件

- ・ 段階的に進めていくキャリア教育における基礎資料として。
- ・ 4年生以上を対象に進学時の履歴書作成
- ・ 5年次における進路関係書類作成の材料
- ・ 教員というより、学生自身が進路決定の際に役立つような内容になっている。
- ・ 得意科目などの自己紹介や取得資格などを入力しておけば、本校様式の履歴書様式で出力する仕組みで有り、就活・進活の際、履歴書記入の際の足がかりとして役立てることが出来る。
- ・ 記録した授業や特別活動での学び、体験、それらからの収穫をレビューし、学習・教育目標の達成度を評価するとともに、学生自身のキャリア形成に役立てている。

#### 【その他活用法】 8件

- ・ 別途無記名のアンケートを実施していることへの部分的な裏付け。
- ・ 毎回の、ディスカッションに活用。
- ・ 学生の出欠状況のリアルタイム確認。
- ・ 稲葉成基他、創成型授業への自主的、継続的な取り組みを促進する教育システムの定量的な検証、工学教育 51, No.1, pp.123-127, 2013. を御覧ください。
- ・ 年次ごとに確認させている。
- ・ 特に活用していない(学生自身が記入・管理しているから)。
- ・ 進学、及び建築設計の職種に進む学生が進学、及び就職試験を受けるときに必要なことがほとんどなので、ポートフォリオ記録を進めている。
- ・ 推薦状の作成

#### 問 18. 記録形態について

“紙”を選択された方だけの回答

具体的に、どのような内容を記録させていますか？(自由記述)

---

#### 【授業について】 17件

- ・ 講義内容の振り返りを講義時間終了後に記載させている。専門用語 (用語を簡単に説明できる、単語は覚えた、理解できていないところがある、何も理解できていない) 講義内容(自分で簡単な問題が作れる、資料を説明できる、理解できていないところがある、何も理解できていない)
- ・ 授業内での活動の報告書や課題をファイリングしている。



- ・ 授業内容の重要点、授業への集中度の自己評価、授業内容に対する質問
- ・ 学生の授業参加記録、試験成績、実験レポートや問題集などの課題提出状況など。
- ・ 授業とするディクテーションとその英文要約シートの下にスペースを設けて、そこにその日の活動の感想や出来について英語で記録させている。
- ・ 毎回の作業内容、進捗状況、チーム内での、個々の活動記録。
- ・ 講義科目では、出席簿にメモ書きにて講義以外で行ったことを記録している。
- ・ 学習シートとして、毎回講義で配布（A4）。学習の目標、理解度チェック（基本的に重要事項を記述させる）、質問項目の内容。必要に応じて参考資料等も添付する。
- ・ 実験や演習に必要な知識や技術を自己評価してもらっている。
- ・ 授業のたびに配布、回収している。
- ・ 「大福帳」と呼ばれる授業記録用紙をアレンジして使っています。
- ・ 学生が所有する実験テキスト（冊子）に綴じておき、年間通して随時習得できたスキルをチェックできるようにしている。
- ・ 符号理論の授業では毎回A4用紙1枚を配布し記入させ、一度回収した後に返却し、フィードバックしている。
- ・ 授業内での課題をPDF化し、GoogleclassroomやGoogleドライブを使って公開している。
- ・ 授業内容の予習・復習としてファイリングしている。
- ・ 学生の課題、コンペ作品。現時点で、学生が作成途中になるため、送信はペンディングとさせていただきます。
- ・ 授業開始時に配布、回収している。

#### 【目標・学習・成績・課外活動について】 29件

- ・ シラバス、試験、答案、成績表等をファイリングしている。
- ・ 点数など
- ・ 学生の1年間の試験成績の記録、各科目における到達目標の達成程度（ルーブリック）を記録し、ファイリングしている。
- ・ 成績や学習・教育目標の達成度を記録している。
- ・ 成績表をファイリングしている。
- ・ 昨年まで試験解答時に学生が書いて教員が保管していてフィードバックがあったが、本年度は学生が保管するようになったため今のところ「26.学生へのフィードバックはありますか？」は学年の殆どでできない見込み。
- ・ 目標・活動内容について(多項目記録)→①学生による達成目標の設定とその達成度評価②本校の学習・教育目標と達成項目③達成項目別科目修得状況④特別学修単位修得状況⑤達成項目の達成度評価⑥教員アドバイス
- ・ 生活習慣、課外活動、授業について、将来の夢、自己PR、目標（学業面・生活面）
- ・ 学生の1年間の目標や課外活動をファイリングしている。
- ・ 過去のLHRで書き込んできた資料（自己分析、自己評価、目標等）をファイリングしている。
- ・ 学生の1年間の目標、取得した科目・資格試験や課外活動等を記録しファイリングしている。
- ・ 各学年で必要と考えられる項目に対する記録を付けさせ、担任がファイリングし、年度末には次の

担任に引き継いでいる。

- ・ 学生の1年間の目標や課外活動をファイリングしている。(7件)
- ・ 活動や面談の記録としてファイリングしている。
- ・ 定期試験毎に成績、資格、課外活動内容等をファイリング。
- ・ これまでのクラブ活動や現在の所属委員会・部活動などの情報、一年間の抱負やその振り返りについて記録させている。
- ・ 長期的には将来の目標、短期的には一年後にどうありたいか、それを受けて前期(後期)の目標、それを達成するための行動案、実際に行動できたかの振り返り、次の短期的な目標、と関連させて記述する。
- ・ 全学年共通：入学前履歴、各学年の目標、各学年における振り返り(学業・クラス課外活動・資格検定・その他)、1~3年生用：未来像、目標、自己分析、目標達成のための計画、3~4年生用：未来像、興味のある企業、活動履歴、自己PR、成長の計画、その他、学生の1年間の目標や課外活動、成績状況などをファイリングしている。
- ・ 学生の目標や課外活動の報告書、講演会等の感想を記入してファイリングしている。
- ・ ホームルームで全学生に記録させているものは、全学生分をファイリングしている(5年間累積)
- ・ 「目標記録簿」として、5年間使える冊子になっている。
- ・ 試験毎に達成度を学生に記入させ、管理させている。
- ・ 1年間の目標や成績、委員、課外活動など。
- ・ 学習・課外活動等の記録・スケジュール、課題・提出物の提出期日、内容等
- ・ 学生の課外活動などにおける1年間の振り返りおよび次年度目標、表彰・資格・コンテストなどを記入させている。すみません、用紙は次年度担任に渡しているので、ファイルなどは手元にありません。(学校全体の取り組みなのでデータではなく、用紙が担任に直接渡されていたと思います。)
- ・ 1年間を3ヶ月ごと4期に区切り、課外活動の記録をファイリングしている。
- ・ 学生の5年間の取得単位やコメントをファイリングしている。
- ・ 主に学生の成績記録やキャリア教育での感想などをクリアファイルにて保管している。
- ・ 学生の1年間の目標や課外活動など、学校でフォーマットを定めている。

#### 【研究について】 3件

- ・ 学生の月ごとおよび1年間の目標や研究内容をファイリングしている。
- ・ 学校統一形式で2種類ある。1つは卒業研究の指導記録であり、もう1つは担任担当時に印刷物の配布を受ける。配布した用紙はファイリングされ、次年度端員へと引き継がれる。最終学年では、当該学生へ返却している。pdfを所持していない。
- ・ 研究記録

#### 【部活動について】 2件

- ・ 部員の1日のトレーニング内容(重さ、回数)などをExcelで作成した表(印刷したもの)に記録させている。
- ・ 課外活動では市販の採点簿(弓道)に記録させている。

#### 【その他】 4件

- ・ 名古屋大学のキャリアポートフォリオ(2008年度版)を参考にしています。

- ・ 大福帳を使用している。
- ・ 豊田高専の T ファイルに沿って。
- ・ 学校として実施しているので参考となる資料は持っていない。

#### 問 20. “電子ファイル”を選択させた方のみ回答

具体的に、どのような内容を記録させていますか？(自由記述)

- 
- ・ 研究進捗状況報告書の場合、Word や TeX により作成した書類の PDF。同状況発表スライドの場合、PowerPoint や Keynote により作成したスライドの PDF。内容は 1 週間分の研究進捗状況であるが、研究会等が近い場合は発表に適した研究背景から結論までの一通りの内容。なお、電子ファイルは未発表研究アイデアを多分に含むものであるため、誠に申し訳ありませんが資料としてご提供することはできません。どうぞ、ご了承ください。
  - ・ 実施した内容を PPT にまとめさせている。
  - ・ word ファイル
  - ・ word/excel のファイルだが、自由書式が多い。振り返りの際はパワーポイントでプレゼン資料として作成させる。
  - ・ 学校で統一された Excel 形式のフォーマットを使用。
  - ・ 研究活動記録は本校の学生用に活用されている Google For Education のクラウドシステム (Google Drive 中心) で保管しています。定期的に研究室のサーバーにバックアップし、後輩等が活用できるように工夫しています。
  - ・ 卒業研究や専攻科特別研究の記録簿は年度末に指導教員が所見を記入し、学科の全学生分を集めて電子的に保管している。
  - ・ 提出物の一部をテンプレートとして配布し、電子での回収を認めることもある。

#### 問 22. “独自フォーム (高専ポートフォリオシステム等)”を選択させた方のみ回答

具体的に、どのような内容を記録させていますか？(自由記述)

- 
- ・ キャリア学習履歴管理システム (きゃり Pi) にキャリア教育支援支援プログラムの受講記録 (感想を含む)、毎年度の振り返り、当該年度の目標、取得資格、得意科目など、自己分析的な項目を入力させると同時に課外活動の状況も入力させている。
  - ・ 学校指定のフォームを使用。取り組みを記録させている。ファイルは学校指定のもの。
  - ・ 目標、キャリア、資格、学習状況、各種提出物、MCC 達成状況、教員指導履歴 (学生に非公開) など。
  - ・ 稲葉成基他、創成型授業への自主的・継続的な取り組みを促進する教育システムに沿って学生の 1 年間の目標や課外活動をファイリングしている。
  - ・ 記録した授業や特別活動での学び、体験、それらからの収穫をレビューし、学習・教育目標の達成度を評価するとともに、学生自身のキャリア形成に役立てている。

問 23. “その他”を選択させた方のみ回答

具体的に、どのような内容を記録させていますか？(自由記述)

---

- ・ 実験ノートを作成し記録している。
- ・ Web サイトのニュースにて記録を残している。
- ・ すでにあるのかもしれないですが、ポートフォリオの雛形があればありがたいです。ドイツの企業に研究マターで伺った際、SAP ですべての情報、データが管理・共有されているのに驚きました。
- ・ Googleclassroom のシステムを使用している。

問 25. フィードバックは誰が、どういった方法で行っていますか？(自由記述)

---

【担当教員が面談・口頭で行う】 17 件

- ・ クラス担任や研究指導担当が、面談を実施するなど、書類を渡して、学生に通達している。
- ・ 担任による個人面談。
- ・ 指導教員やキャリア教育支援室員がホームルームや個人面談の場で行っている。
- ・ 指導教員が学生に口頭で指導する。
- ・ 指導教員またはキャリア教育支援室員が後日の特別活動等の時間内にカウンセリング等の方法で行うことがある。
- ・ 年度途中に行なわれる学生本人との面談、保護者との面談の際、または「HR・AG (前述)」の時の「振り返り」の時間に内容がフィードバックされます。
- ・ 担任が個人面談で利用する。
- ・ 成績表として配付、また科目担当教員が口頭でフィードバックしている。
- ・ 次回の演習時間に口頭やメールでフィードバックしている。
- ・ 担任が面談等で活用。
- ・ 担任が定期試験の前後に面談している。
- ・ 目標設定と達成度評価は担任が学生支援ミーティング等で行う(全担任が実施しているかどうかは怪しい)。
- ・ 学生からの提出がある毎に、面談する。
- ・ クラスで全学生に書かせるものは、面談などに使用することでフィードバックしている。
- ・ 週 2 回行っているゼミのために各学生たちに研究進捗状況報告書、または同状況発表スライドの PDF を作成させ、それを基にゼミにて発表・議論を行わせる。その際、事前に指導教員が報告書やスライドの PDF を iPad のメモアプリに取り込み、ゼミでの議論中、リアルタイムに質問やコメント等を各学生に口頭(場合によってはホワイトボードで示したりして)でフィードバックすると共に、学生たちが作成した PDF にコメント等を書き足したものを研究室に設置してある NAS 経由で各学生に返却し、発表した学生のみならず研究室所属の全学生が自由に閲覧・コピーできる状態にしている(本システムを導入した 2010 年度からここで示した報告書やスライドを含む学生の研究に関連する全てのデータは NAS に保存しており、これら全てにアクセスできるようにしている)。
- ・ 毎回、授業中に、教員とディスカッションしている。
- ・ クラス担任が面談で実施している。

**【担当教員がコメント等を行う】 10件**

- ・ 担任が、コメントという形で実施しています。
- ・ 教員がスタンプを押す、直接書込む、コメント返しのファイルを作成して全員に共有する。
- ・ 教員が口頭や資料へのコメント記入を行い、学生へフィードバックしている。
- ・ 毎回、ポートフォリオに記録させる授業参加記録に対してコメントを記入して返却している。
- ・ 教師がコメントを英語で書く。
- ・ コンピテンシー自己評価は教育開発推進室がグラフ化して LMS を介してフィードバックする。
- ・ 教員が必要と判断した学生に対し当該用紙の欄外にコメントを記入しています。
- ・ 指導教員が、学生の研究ノートに書き込む形で行っている。
- ・ 教員が簡単なコメントを入れることでフィードバックを行っている。
- ・ 担任によるコメント。

**【担当教員が返却・学生自身で収集を行う】 7件**

- ・ 学生自身が配付された資料を収集するかたちをとっている。
- ・ 担任教員がコピーを取った後、各自に返却。
- ・ スキャナーで保存後、翌週に原本を学生へ返却。
- ・ 教員がファイルを学生個人に返却（年4回）。
- ・ 授業で学習する内容の予習、復習のために科目担当者として学生に返却している。
- ・ 自学自習時間記録シートを返却する方法。
- ・ 学生が自己評価。

**【担当教員がその他方法で行う】 20件**

- ・ 必要に応じて（問題がある学生のみに対して）、担任が実施している。
- ・ 担任教員が必要に応じて行っている。
- ・ 顧問教員が、内容を確認して次回以降のメニューを学生と相談して決める。
- ・ 担任が、1年次より累積している資料を返却することによる場合や、当該学生へのフィードバックは、学生本人が、累積した資料やデータの振り返りによって実現している場合もある、と考えます。
- ・ 学年末に、達成目標・達成項目について担任によるアドバイスを実施し、次年度に反映させている。
- ・ 私が学生個人や研究室ゼミで意見交換している。
- ・ 担当の先生が授業中に行う。
- ・ 各クラス担任、学科長による個別指導。
- ・ 授業科目では講義内容へ反映させる。課外活動では技術指導の参考に使う。
- ・ Web にて公開している。
- ・ クラス担任が直接指導にあたり、次期担任への引き継ぎ時に活用する。
- ・ 学級担任が中心となり、ある機会に単位数を確認させる。
- ・ 学生自身が定期的に内容を更新し、新たな目標を設定して取り組んでいる。
- ・ 授業時間、または、Mahara を用いてフィードバックを行い、学習到達目標に達するよう指導を行っている。
- ・ 私、可能な時は学科の先生も。
- ・ 授業中に用紙を返却することによって行う。

- ・ 年度当初に学生自身が書いた目標・作文を年度末に一度返却して、それを見ながら次年度の計画などを書かせています。担任が特別活動の時間に実施します。
- ・ 担任教員ならびに卒業研究指導教員。
- ・ 担当教員が、LMS を通じて。
- ・ 担任が個別指導。

問 27. 低学年（1～3 年生）からのキャリア教育について、どのような教育を実施していますか？(自由記述)

---

**【講演会、企業・工場見学を実施】 131 件**

- ・ キャリアについて考える講演会（1～3 年）、地域企業の見学会（2 年）
- ・ 講演会、キャリア教育を受けた学生の単位認定、上級生との交流。
- ・ 1～3 年までの LHR を利用しての就職担当者からの就職講話。
- ・ 低学年における共通授業においては、本校 4 学科に及ぶ実務者の講演や工場見学を行ってきている。また、進路指導委員会主催の進学・就職に向けた広報活動を含めたキャリア教育を実施している。
- ・ 特別活動の時間帯を利用し、企業見学、企業や技術士を講師とした講演の実施を行っている。
- ・ 講演会
- ・ キャリアセンター主催の講演等
- ・ 専門学科教員、OB、先輩学生による進路についてのガイダンス、講演。
- ・ 主に講義形式で、校長講話、講演会の実施。
- ・ さまざまな方へ講演会を依頼。
- ・ 学科専門教員による進路の話。専攻科生による進路の話。
- ・ 実践技術単位制度、ものづくりリテラシー教育実習
- ・ 1 年次において、2 年学科配属に向けたガイダンスや見学会を実施し、将来進むべき専門分野について考察させている。3 年次において、2 泊 3 日の研修旅行を学生主体で計画・実施している。研修旅行には、企業見学も盛り込み、将来進むべき進路について考察する機会を設けている。計画は 2 年次後半から始めている。
- ・ 1 年次：LHR でのキャリア講演会、キャリアセンター主催の「ワークショップ」（グループワーク）、学科別 LHR での「先輩（5 年生）は語る」、2 年次：LHR でのキャリア講演会、学科別 LHR での「先輩（卒業生）は語る」（ワークショップ形式）、3 年次：専門科目における業界研究（キャリアポートフォリオ）、研修旅行前の事前業界調査、沖縄県内の業界研究 etc.本校では、キャリアセンターのリーダーシップで低学年における「動機付け」→「キャリア選択」を実施しております。
- ・ 学科担任、または招聘講演者が早期キャリア教育の一環として、どのような進路があるのか、それぞれの進路へと進むにあたり、事前にどのようなことをどの時期から始める必要があるのか、などのことを低学年の学生（クラス単位・学科単位・学年単位）に教示するための講演会などを行っている。
- ・ 主に就職関係に関する内容（就職指導や企業による講演会）。
- ・ 研修旅行（工場見学）、専門教員の話、専攻科生の話。
- ・ キャリア講演会、学科別キャリア講演会（OB・OG）、研修旅行（3 年生）、インターンシップ報告会

の聴講（3年生）、業界研究会（3年生）。

- ・ キャリア後援会など。
- ・ LHR の時間を利用した自己分析、学外講師による講演会、卒業生による進路講演会など毎年行っている。
- ・ 進路決定のための講演会などの実施。
- ・ 各種、講演会や講習会の実施など。
- ・ 1年次にキャリア講演会を行っている。
- ・ 学生心得講座、将来イメージ講座、合宿研修、スキルアップ講座、目標設定・確認講座、今の私・卒業後の私、人間力後援会、キャリアプランニング
- ・ 工場見学、卒業生による講、懇談等
- ・ 全体及びクラス単位での教員・上級生（専攻科生、5年生）・OB による講演を定期的を実施するなど、特別活動カリキュラムを通して学年単位で実施している。平成 30 年度から学校単位でのキャリア教育も開始した。
- ・ 1年生の頃より職種や業種について考える機会を設けており、社会人経験のある教員の訓話や特別活動を通じた自身のキャリアプランニングの時間を設定している。しかし、この活動はクラス担任が率先による物であり、クラス毎に差異はあると思われる。
- ・ OB/OG 講演会
- ・ OB 講演会
- ・ 第 5 学年担任による進学・就職状況の説明、授業内で実際の現場で求められている知識を説明
- ・ 2 年；長所・短所探し、3 年；「就職適性検査」、「5 年生による進学・就職に関する講話」、「OB・OG 等による講話」
- ・ 外部講師（OB・OG 等）によるセミナー等
- ・ OB 等に自分の高専時代から社会人になった話について講演いただいている。
- ・ OB を招いて経験談などの講演会。
- ・ 進路説明会、インターンシップ報告会、工場見学。
- ・ OB 講演会、キャリア教育に関する作文実施。
- ・ 高専生活の過ごし方や現場見学、社会の求める人材に関する講話等。
- ・ 工場見学
- ・ 現在担任を務めていないため実施していないが、過去に 3 年担任を務めた際は、4 年で実施する工場見学旅行の計画立案の開始を 3 年次からスタートさせる関係で、就職主任より求人状況の説明や企業立地エリアの紹介などを話していただく機会を設けた。また 4 年生就職希望者学生を対象としたキャリア講習会に 3 年希望者を飛び込みで参加させたこともある。
- ・ 工場見学、5 年生による進路報告会への参加など。
- ・ キャリア講演会など
- ・ 特活を活用した、学科単位の卒業生等による講話、地元企業の工場見学、本年度は主として 3 年生を対象とした合同企業説明会を実施している。
- ・ S K K 式適性検査、講演会、P R O G
- ・ 講演会など

- ・ 工場見学、学校（技術振興交流会）が開催する企業説明会への参加。
- ・ 本年度の就職戦線に関する5年生の担任からの講話。
- ・ 学内の企業研究セミナーへの参加。
- ・ ホームルーム時間を利用した「社会で活躍する卒業生講話」、企業・大学見学会、講演会、資格取得セミナー
- ・ 1.低学年は任意参加であるが、キャリア教育支援室と協力し、合同企業研究会を開催している。2.専門教育の一環であるが、近隣企業への工場見学を機械電気工学科2年生に対し実施済み。（テクノアカデミアの支援制度を利用）尚、今年度中に2年以上を対象に後1回近隣企業への工場また、小人数であるが情報電子工学科の先生が夏休み（済み）と冬休み（実施予定）に近隣企業の工場見学を実施。（学生は意外と身近な企業の活動内容等を知らないため、専門教育&キャリア教育の一環として推進中（テクノアカデミア支援事業））
- ・ OBによる講演
- ・ 工場見学
- ・ 講演会など
- ・ キャリア支援室主体で、行っているのので、教員個人が答えて良いかどうか不明
- ・ 特活を利用したOB・OGの講演会
- ・ 合宿研修でのワークショップ（4～5名グループ）、OBOGを招聘しての職業体験談の聴講が該当すると思います。
- ・ 1年生からキャリア教育を実施している。担当者ではないので詳細な説明は控えるが、キャリアに対する考え方や個々の適性理解、インターンシップ・キャリアフォーラムへの参加を促していると認識している。
- ・ 「キャリアデザイン」という科目にて、行事やイベントの補助などの社会的な活動にて単位を取得する。「キャリア演習」という科目にて、経験者からの講演と企業見学や訪問をして単位を取得する。「企業現場見学」という、企業などを訪問する機会を設けている。
- ・ 各コース卒業生による仕事紹介、コンサルタントによるきっかけ作り講義など
- ・ 卒業生による講演など
- ・ 就職支援講座
- ・ キャリア教育セミナー、学科集会、HRなどを活用して、教員や企業からの講師（OB含む）より学生へ語りかける講演会を実施している。
- ・ 外部から講師を呼び、話をしていただく。
- ・ キャリア教育セミナー、学科集会、企業説明会（低学年を含む）、HRを活用して実施している。
- ・ 県内工場見学、学校会員企業の企業研究会
- ・ キャリア教育支援室の企画の元に年間計画を立てて実施
- ・ 回答者本人が直接実施してはいないが、本学キャリア支援センターでの講演などのサポートとして参加している。これまでの回答者のキャリアパスについて、講義の中で話すことがある。
- ・ キャリア支援講演会
- ・ 3年担任として実施したこと、地元企業や近隣大学への見学、交流会の実施、キャリアデザインシートを作成、企業合同説明会の案内。



- ・ キャリア教育支援室が、実施している。
- ・ 近隣自治体の講演を含めた地元学を実施している。
- ・ 以下のような項目を実施しています。自己理解と将来の夢の構想、高専での学習や生活の理解と意欲喚起、専門的学習への意欲向上と方法の習得、社会に参画する意識の高揚、ライフプランの具体的構築、進路実現のための自己分析と進路先研究。
- ・ 自身の担当科目においては卒業生による講演。
- ・ ロングホームルームを用いて OBOG 講演会を開催している。
- ・ 母校訪問や講演の聴講。
- ・ 「男女共同参画・キャリア教育支援室」が中心となり、地元企業を呼び、企業説明会を実施している。  
(各社ブースを用意し、学生は興味のある会社のブースでいろいろ話を聞く等。低学年も高学年も参加可能。) H28～H29 年度の学科改組(名称変更)でセルフキャリアデザインをやりやすくするカリキュラムとした。<例>学生が、キャリアデザインを考えて、(学科によっては)他学科の科目もある程度取得できるようにしたり、(ビジネス系学科では)いくつかのキャリアモデルを用意しコース選択的に科目を学生が選べるようにした。
- ・ 講演など
- ・ キャリアカルテへの記録の促進, 各学科での講演会等
- ・ 1, 2 先生については、特別教育活動の時間を使用して専門学科の教員が研究内容、学科での勉強等について説明している。
- ・ 毎年 11 月頃に、学校を支援している県内外の企業が会社の概要を説明する企業研究会を学校として実施している。3 年生は全員参加することによって、企業の活動内容を学ぶことにしている。
- ・ キャリアセミナー、OB 講演など
- ・ キャリア教育推進室により、セミナーや企業説明会などを開催している。
- ・ 工場見学、大学見学、合宿研修、研修旅行、企業技術説明会、進路講演会など。
- ・ 上級生や卒業生の講演を聞く、あるいは学科教員の話聞く機会を設定している
- ・ 学科教員による講演
- ・ 学外研修(1～3年)、主事講話、卒業生講和
- ・ 各専門学科別による講演や企業見学授業、低学年では専門学科教員による講演や専攻科生による講演など。
- ・ 1年、技術者入門、キャリアサーチ、専門導入教育 2年、適性検査、自己分析 3年、先輩に聞く
- ・ 卒業生あるいは上級生から、自身の就職活動あるいは進学受験について講話してもらっている。
- ・ 現場見学等を含めたもの
- ・ ポートフォリオ等
- ・ 卒業生の講話
- ・ 直接関わっていないが、3年生に対して企業見学や説明会が実施されている。
- ・ 入学直後にキャリアデザインの講義を行い、低学年ではキャリアリテラシーとして、企業見学や講演会を通して、地域企業を知り地元でのキャリア意識付けを行う教育を行っている。これに続き高学年ではキャリアワークショップとして、地域企業や地域社会を自ら研究する課題解決型学習や短期インターンシップの実施を行っている。

- ・ 1年生ではAAAという全教員による学生への面談があり（年間10回程度）、その中で進路についての説明が各教員からなされている。1、2年のLHRにおいて、5年担任による進路紹介、5年学生による進路に関する話題提供、3年生では、OBによる講話や12月に開催される学内セミナーへの参加などがある。
- ・ カリキュラム外の道徳や社会人としての素養教育講演会、業種研究会（4年生向けのものに任意参加）
- ・ 1、2、3年生については、ホームルームの時間にキャリア教育講座「みらい」を利用した指導を実施する。また、1年生には校外教育、2年生には工場見学、3年生には合宿研修を年1回行っている。3年生の合宿研修では、1泊2日とし、工場見学と卒業生の講演を実施している。1年生：1学科体制における2年生からの専門系への配属に関連して、各専門分野の教育内容や専門内容の説明を実施している。
- ・ 2年 オープンファクトリー、3年 工場見学旅行
- ・ 県内外の工場や現場への見学を1年生から3年生まで実施。
- ・ ワークショップ、講演会「キャリアデザインガイダンス」「コミュニケーションの大切さ」「進路選択」「履歴書作成」、企業見学（研修旅行）、企業技術者による講演会、インターンシップに向けた業界研究（会）などを行なっている。
- ・ 企業見学、卒業生の講演、5年生のホームルームでの講演
- ・ 地元企業調査、学外講師による講演
- ・ ソーシャルデザイン入門などの授業やキャリア支援室主催の合同特活（業界研究会や県内企業見学、県内企業研究会や企業合同研究会など）。
- ・ 職種の紹介、講演会、工場見学等
- ・ キャリア支援室の教員、教育コーディネータ、企業技術者等によるキャリア教育に関する講演。
- ・ 特活の時間を活用した専門教員のレクチャーや、技術振興会会員企業によるレクチャー。
- ・ 高学年生の経験談。卒業生の話。企業からの講演。キャリア担当教員の講義。履歴書作成指導。系統的なキャリアノートを活用している。（オリジナルテキスト）
- ・ 講演会やキャリアに関する教材など。
- ・ 進路担当教員による進路講話（先輩の実際の進路や、就職・進学の実験までにどのような準備をすべきかなどに関する話）、上級生によるインターンシップ成果報告会の実施、企業によるキャリアセミナー（ブース形式）の実施（全校対象）。
- ・ 企業等を招いたキャリアセミナーを実施している。
- ・ 1～3年生の各学年においてキャリア教育講演会を実施している。
- ・ 上級生や校長・副校長の講演会（何をいつどんな風に勉強するかなど）、卒業生の講演会、メンタルヘルスなどに関連付けたコーチングスキル等の教育。
- ・ 1年の新入生合宿研修で講演と実践を行なっている。
- ・ 1年生による研究室見学など
- ・ 学科の展望科目の中で企業からの講師を招いて会社の紹介や技術の紹介をしてもらっている。
- ・ 「ソーシャルデザイン基礎」「ソーシャルデザイン入門」において、将来自分がどのような人になるのかを考える授業を行っていると伺っています。
- ・ 低学年のときから企業見学や企業説明会への参加を促すなど、より多くの企業に触れる機会を設けて

いる。また、将来必要になってくるコミュニケーション力、ディベート力、プレゼン力等を身につけさせるため、積極的に授業内にグループワークや発表を取り入れている科目もある。

- ・ 各クラスや各学科単位で卒業生などを招いて講演会等を実施している。
- ・ 外部講師によるキャリア試験講座等。
- ・ 就職・進学担当教員（5年担任と5年生）による進路決定状況などの説明。
- ・ ソーシャルデザイン入門（1年生）自身を知りどういう方向に向かって進んでいくか計画を立てる。ソーシャルデザイン基礎（2年生）英語 PBL マイコン実習を通じ、問題解決力基礎を修得、地域企業との連携による工場見学・企業研究セミナー、海外研修旅行（3年生）（自身の担当分のみ記載）
- ・ 卒業生講話、インターンシップ報告会参加、専攻科主任による専攻科説明会、5年生による就職、進学体験談
- ・ 特別活動時に行う卒業生講話や工業見学など。
- ・ 学外研修、卒業生講話
- ・ 1-3学年：各々を対象とした進路説明会（夏休み前及び年度末に計6回実施）、1-2年生：学年別女性研究者ロール・モデル講演会、3学年：コース別キャリア講演会（OB/OGまたは地域で活躍する専門家）、2-3学年：コース別研究者による講演会（東北大学工学部または研究所）、1年生：OB/OG講演会、1年生：「ものづくり基礎」授業全7回（その中に上記講演会を含む）、全学年：近隣大学オープンキャンパス学生引率（年2回\_弘前大学・岩手大学）、全学年：職場見学（主として県内企業、複数回実施）
- ・ 主に特活の時間を使って、先輩の体験談、地域企業経営者の講演、OB・OGの講演など。
- ・ 学外実習、卒業生講話、先輩学生からの講話など。
- ・ 1年生全体で、将来の職業についての講座および、ワークショップを実施している。外部講師を招き特別講演を実施している。
- ・ 国際創造工学基礎の中で、キャリアデザイン教育を行っている。内容は講話など。
- ・ 特活などで学科ごとに学科長や担任あるいは卒業生により実施するとともに、学年全体で講演会などを行っている。
- ・ 集団訓練や企業見学、地元企業紹介
- ・ 卒業生講話、OB・OG講話、特別課外授業での取り組み（多様）、工場見学研修など

#### **【その他】 51件**

- ・ 1年生や2年生向けに、年1回程度、就職や進学に関する考え方や希望を叶えるための心構えを説明している。
- ・ 建築のエレメント（例:窓からの光の取り入れ方）の模型作成、及びプレゼンテーション
- ・ 実践技術者単位制度
- ・ 商船学科学生に対してキャリアについてのロードマップの提示、キャリア教育セミナーの実施、必要な資格の取得及びそれに必要な学習内容の紹介、就職に向けての英語学習方法のロードマップ等を教育している。
- ・ ポイント制の実践キャリア教育を実施している。
- ・ キャリアプランニングシート、キャリアセミナー、合同セミナー訪問など。
- ・ 1年生から全体に企業へのインターンシップを単位として認めている。

- ・ (1年生) 学校に馴染む、学校を理解するため以下の活動を行っている。①合宿研修、②旭川高専アカデミック・アドバイザー (全教員が1年生を3, 4名のグループ毎に分け懇談する)、③学科横断授業 (3年生) 中学校の復習5年生による進路ガイダンス (就職活動, 進学準備の経験話) を実施している。
- ・ 学生に自分自身の【キャリア (生き方)】について積極的に考えてもらうために、1年生～専攻科2年生まで全学生を対象としたものの内、学生の発達段階に応じたプログラムを実施している。
  - 1年生：きゅり Pi 入門
    - キャリアガイダンス①学習内容と卒業生の進路 (学科別)
    - 講話①「高専生活の過ごし方 (5年生のアドバイス)」
    - 講話②「本校顧問による講話」
  - 2年生：講話③「高専生活の過ごし方 (専攻科生のアドバイス)」
    - キャリアガイダンス②キャリア入門Ⅰ (学科別)
    - キャリアガイダンス③キャリア入門Ⅱ (学科別)
    - キャリアガイダンス④キャリア入門Ⅲ (学科別)
  - 3年生：講話④「社会の求める人材」
    - キャリアガイダンス⑤キャリアプランの作成Ⅰ (学科別)
    - キャリアガイダンス⑥キャリアのプラン作成Ⅱ (学科別)
    - キャリアガイダンス⑦キャリアプランの作成Ⅲ (学科別)
- ・ キャリアデー (合同企業研究会・専攻科インターンシップ報告会) に学年を問わず参加可能。
- ・ 三年生の担任をしています。個人的に、担当クラスでキャリア教育を進めています。申し訳ありませんが、1、2年生については詳細については把握しておりません。以下の回答も記憶が曖昧であります。
- ・ 1年生全学科の科目 (情報基礎Ⅰ) のワープロ演習のテーマに、文字数は少ないが、進路について考えて書いて貰う課題を入れている。これは2月初めに提出で、予めクラス内と現担任と2年時担任には共有することを連絡して実施している。
- ・ 他に学校としてや学科としては特活等で内外の人による講演や、学校としてのイベントへの参加案内。
- ・ 自信の将来像を入学時にイメージさせ、それに向かってどのように努力しているかを自己評価させている。
- ・ 意欲喚起講座「みらい」を用いた1学年から3学年までのキャリア教育。
- ・ DVDを使った職業等紹介
- ・ 就職ガイダンスなど
- ・ 導入初期段階
- ・ レポートの基本的な書き方、プレゼンテーションの作成及び発表
- ・ 学科としてなら、特活の時間等を利用して行うことがある。
- ・ ジェネリックスキルおよび技術者リテラシーという全学科共通科目において、1～3年を通じて「キャリアカルテ」を継続的に実施している。また、2年次に「女子学生のライフプラン」を、3年次に「学科毎の就職先」「履歴書作成」「労働法制」「インターンシップへ向けての準備行動」を実施している。これらは全て90分/回である。さらに、4年生を主対象とした合同企業研究会を年1回、実

施しており、これに1～3年生も参加可能としている。

- ・ 企業技術者を活用した講演会や技術指導を通じた創造的な鍛錬とともに、低学年から一貫性のあるキャリアトレーニングや進路指導等のキャリア教育を通じて、明確な職業観を持った技術者の育成を行う。
- ・ キャリアに関係させる科目を配置している。
- ・ 自分の目標を学年ごとに立て、それに対して達成できるように自主性を持たせるような教育をしている。
- ・ 将来像を描き、それを達成するためには何をどう取り組むかをグループで話し合い自覚を持たせる。
- ・ キャリアプランニング、社会人としての基礎能力、技術者としての能力、グローバル能力をキャリア能力として、それぞれの能力を伸ばすためのプログラムを特別活動を通じて実施。次の URL も参考にしてください。[http://www.kosen-k.go.jp/main\\_super\\_kosen/13\\_gifu\(H30\).pdf](http://www.kosen-k.go.jp/main_super_kosen/13_gifu(H30).pdf)
- ・ 1年次の合宿研修で実施。
- ・ キャリアポートフォリオの記入
- ・ ポートフォリオの作成
- ・ 進路に関する適性検査、就職体験談講演、SPI模擬試験、インターンシップなど
- ・ 社会一般常識、業種分析及び自己分析
- ・ 勉強の仕方、ノートの取り方の講義の実施
- ・ 1年生のソーシャルデザイン入門は、キャリアデザイン支援科目の位置づけで開講しています。自分自身について知り、それを踏まえ、どういう方向（コース）に向かって進んでいくかの計画を立てていきます。計画はその都度見直ししながら、今後につなげます。また、地域や社会に広く目を向ける取り組みを行います。この授業では、地域や社会を広くとらえ、その中で仕事を考える目を養うことを目標としています。
- ・ 特別活動
- ・ 1年生のソーシャルデザイン入門では、自分自身について知り、それを踏まえ、どういう方向に向かって進んでいくかの計画を立てる。社会に広く目を向ける二つを柱にeポートフォリオを利用した授業を行っている。また特活の時間を使って地元企業を知るなどのキャリア教育を行っている。課題探求型グループワークの実践（課題を見つけ、それに対してリサーチを行い、発表する。）
- ・ 企業調査
- ・ 低学年の担任をしたことがないので、よく分かっていない。
- ・ 1単位の必修科目：キャリア概論を開講し、MCC分野横断的能力VIII 態度志向性に関する教育を行ってきた。
- ・ 適職診断
- ・ ロングホームルームを利用して、将来のことを考える時間を設けている。（自己分析や企業、卒業後の進路のことなど）
- ・ 担当者でないので、詳細は回答できません。
- ・ キャリアアドバイザー制度の導入、ホームルームでのキャリア教育
- ・ キャリア教育用ワークブック（阿南高専キャリア支援室による編集）に沿った教育、これまでの人生の振り返りや、これからの人生設計、進路選定の方法など。

- ・ 特別活動や人文社会系科目を主体としたプレゼンテーションコンテストなど
- ・ 校外実習
- ・ 私自身は、本学科の特性を鑑み、建築系という専門性に対するキャリア教育を担うことを心がけており、昨年度からデザコン研究部を立ち上げ、下級生のうちから上級生の活動を見て学び、学生自身のキャリアを考える機会を作っています。
- ・ 特活を通じて学年に応じた教育を行っている。
- ・ 教材「みらい」を用いてのビデオ視聴。
- ・ キャリア支援室の計画に基づき、特別活動において、企業研究等を行っている。特別活動においては、「特別活動の記録」と称するシートを配布し、メモを取らせ、まとめを記録させている。
- ・ 年間 10 時間、3 年間で 30 時間を実施している（1 単位）。仕事の意義から具体的なビジネスマナーまで、考えさせている。
- ・ 主に、企業技術セミナーの参加やプレジョブハンティング（職業に関する調査）、プレゼンテーションを実施している。

### 問 2 9. 中学時代での活動について、どのような方法でどのような内容を記録させていますか？(自由記述)

- ・ 中学校で頑張ってきた事や委員活動、クラブ活動の成績等を特別活動の時間を利用してクラスの学生に記録させている。
- ・ 入学時の「個人票」内での記述。
- ・ 入学後の、きゅり Pi 入門の際、中学時代の活動について記録させている。
- ・ 入学オリエンテーション時に用紙を配布し、入学式後に提出させている。
- ・ 学生身上書
- ・ 得意分野、苦手分野、課外活動、受賞歴など。
- ・ ポートフォリオ
- ・ 自己申告書に記入、所属クラブ名称、役職。
- ・ 学校としてクラブ活動などを記録したものを保管。
- ・ 部活、生徒会活動、資格などをポートフォリオに記入。
- ・ 部活や生徒会活動などで頑張ったこと、取得した資格。
- ・ 所属した部活動や委員会等での活動、特に力を入れた活動について記述式で記入。
- ・ ポートフォリオに部活、生徒会活動、資格等を記録。
- ・ 身上書

### 問 3 0. ポートフォリオ教育というものはどういうものだと思いますか？(自由記述)

- ・ 学生が、自ら学習などの履歴を記録し、たえず振り返りを行いながら、目標到達に向けて主体的に活動できるよう導くもの。
- ・ 学生が自身の活動状況を記録し、現状を把握することで、今後の学習やこれからのキャリアに生かす。
- ・ 高専への入学から卒業してからどのような職業に就くかまでの過程を、学生一人一人に認識させて、各学年や各段階で、どういったことをどこまで修得しなければならないかについてしっかり理解させ

て、各段階で学習すべき内容と到達度を明確にさせ、目標達成のための学習等の生活ができるように指導することと考えます。

- ・ 学習者が自分の学習してきた内容（学んだ内容、成果）を整理しながら保管（記録）しておくこと
- ・ 学生が受けた定期試験を自分で解きなおしたり、作成した演習課題レポートを読み直したりして、自分で評価することにより、試験の解答やレポートにおいて良い箇所、悪い箇所や改善等の余地がある点など自分が理解できていることとできていないこと等を見つける。これにより、自分がどう勉強すれば改善できるかを考えることができたり、これまでの授業にどのように取り組んできたのかを振り返ったりすることで、今後の取り組みに活かすことができる。
- ・ ポートフォリオを活用した学生の自己点検、評価から学生の自己管理能力を育成すること。
- ・ それぞれの学生が振り返りをしやすくするもの。
- ・ 良く理解していない。
- ・ 学生視点：学生が自分自身を見つめ直し、確認しながら自学自習に取り組み、成長していくための資料、教員視点：情報の一元化、共有化。
- ・ 履歴管理という意味合いで考えている。
- ・ 学生のレポートや取得資格等の学習成果ファイルをデータベースとして登録する。各学生がこれらのデータを随時、閲覧することにより、自らの成長過程を認識し、以後の学習の指針とする。また、これらのデータを必要な書式で抽出することにより、志望の進学先や就職先への自己アピール資料とすることもできる。
- ・ 目標の確認やその振り返りができ、将来の進路に役立てられるシステムと思います。学生自身に自分の到達度、達成度を確認させて、自己学習へのモチベーションを上げるものだと思う。
- ・ 定期的に振り返りと目標設定を繰り返し、夢の実現につなげるもの。
- ・ 測定可能な学生の「広義の学び」（学習面、課外活動面、その他の学校生活面）だけを対象として評価するのではなくて、一人一人の生徒の「広義の学び」のプロセスを、多様な資料・データをもとに総合的に評価をし、生徒自身が学びのプロセスを振り返りながら、次の目標を明確にして「広義の学び」の意欲を高める教育のこと。
- ・ 学生本人が入学時から「何を学び」「どのような力が付いたのか」を可視化し、将来にわたって「何を学んでいくのか」のセルフデザインができるようにする教育。
- ・ 元来、学生は自身の活動状況の把握・記録・事後確認等を、学校組織からトップダウンに指示・指導せずとも、質にある程度の差はあっても自発的に行っていたものであったと認識している。しかし、それを今や学校教育のある種の「目玉」とし、学生に対してトップダウンに行わせるようにするのは、学生の自主性・主体性・自発性が低下してきたことの証左とも云え、大変残念としか云いようがない。ポートフォリオ教育とは、個人的には、学生が主体的に行う自己認識・管理をベースとする、教員等の外部の者たちがアドバイスしたりすることにより、少しだけ目標の修正や方向付けの手助けを行うものだと認識している。よって、教育面では、学生が自ら講義の予習・復習を行う、講義ノートを取る、試験の準備や間違い箇所の確認等を行うといったことにより、また学校生活や進路等の面では、低学年ならば学級担任や学科担任、高学年ならば卒研・特研担当教員や学科担任との密な対話・相談、進路指導等により、基本的には必要と思われる情報を学生が得られるため、あとは学生がそれらを自身で管理・運用すれば良かったはずだが、それらを自ら行えない学生が増えてきたこと

を危険視して始めるに至った教育施策であるとの認識もある。

- ・ 学生が自分自身の活動を把握するとともに、学生への評価を多角的に評価するツール。
- ・ 学生の成長過程の把握や本人の理解、学習過程に対する理解の促進のために記録を残してゆくこと。
- ・ 学生が自らの能力（資質）に自ら気付け、不足している部分を自覚してフォローできるような仕組み
- ・ 自分自身の経歴等を明らかにする。
- ・ 自分が意識することで物事を具体的に捉え、考え、行動することができるようになるための人材育成方法。
- ・ The portfolio education is a set or collection of data or documentation. It is use to document student learning on specific curriculum outcomes. The items in the portfolio must be designed to elicit the objective,knowledge and skill specified in the outcomes.
- ・ 記録と評価を伴う教育
- ・ 教育における個人評価ツールであり、試験だけでは測れない個人能力の総合的な学習評価方法であると認識しています。
- ・ 学生の活動を記録し、その後の教育活動に役立てる仕組み。
- ・ 学生自身が何をどれだけ習得できたかを記録、評価するシステムのこと。
- ・ 学生個人の学習成果を「見える化」したもの。必要に応じて学生本人がふりかえり（フィードバック）を実施し、キャリア形成の一助を担うもの。
- ・ 何を学んだのか、どう学んだのかを記録しておき、それを仕向先に従って編集し、フォリオシンキングを養う。振り返る力を身につける。
- ・ キャリア教育活動を記録し、自らの成長を確認するためのもの。
- ・ 学生が課題・レポート等の自分が実施した教育資料をファイルしていく。
- ・ 学生が自らの学習や経験の履歴を記録し振り返ることで、自らの成長を認識するとともに課題を把握し、将来に向けた取り組みへと活かしていくもの。場合によってはそれを評価対象とするもの。
- ・ 自身が作成した学習成果物（ノートやレポート等）の再評価によって、学習における自身の弱みを理解し、克服のためにどのような改善を行うか検討を続ける学習方法。（自己学習のフィードバック型）
- ・ 長期間の客観的なデータによって、自己分析し、学生が能動的かつ生涯に涉って学習する姿勢を身に付ける。
- ・ 自身の成長過程を記録するもの。
- ・ 分かりません。
- ・ 学習に対して学生が自身で成績を確認して自身の強みや弱みを知り改善するために活用してもらう学習支、従来の学ぶから何をできるかに教育が移行しているために必要なもの、先生は授業の全体的な改善と学生個人に対する改善を図りやすくなると考えられる
- ・ 学生自身に自分の活動を振り返らせ、自身の強み/弱みを見えるように記録するもので、これをもとに学生が自分について理解を深め、今後の行動の指針になることが理想と考えています。
- ・ 学生自身が蓄積した学びや業績を記録するもの。
- ・ 学生自身に学習時間を記録させるとともに、客観的に自分を見て反省させる。
- ・ 学生自身による「多面的な気づき」を支援する教育活動
- ・ 学習者（学生）が、自身の学修成果（例えば到達目標など）を確認する（振り返る）ために構造化さ



れた収集物を利用すること、また教員が学生に（上記内容を）促すこと。

- ・ 「ポートフォリオ教育」と呼ぶべきものがあるのか疑わしい。ポートフォリオを利用すれば必ず教育効果があがるわけでもない。また、ポートフォリオを実施することを目的とするのなら、それは手段と目的を取り違えているので止めた方がよいと思う。
- ・ 学生自身の学習状況だけでなく学生生活の振り返りができる。自己評価から次の行動を修正するツールの一つと考える。
- ・ 自分の活動履歴残し、それを振り返ることで自己認識できるよう支援すること。
- ・ エビデンスを残して各個人の教育履歴を残していき、振り返ることだと思っています。
- ・ 分からない。（個人の私見）学生の個人情報を本人がまとめて総括し、本人が活用すること。そして我々はこれを教育に生かすこと。
- ・ 学生自身が能動的に自己分析をすることができるもの。
- ・ 学習活動で学生が作成した作文、レポート、活動の様子が分かる媒体を保存し、学生の指導に活かすもの。
- ・ 中長期的な学習の進捗状況をまとめることで、一連の学習を通じて自身がどのように成長し、考え方が変化したかを理解すること
- ・ 学習やスキルの成果をまとめた収集物を振り返り、評価し、のちの活動につなげるもの。よくわからないが、学生の学習記録を集積し、情報を教員間で共有しながらより良い方向へ導く教育でしょうか？
- ・ 学生自身に自分自身の習得したスキルを自覚させ、自己研鑽させる教育。
- ・ 学生の自己状況の把握、教員の授業の状況の把握、短期や長期での双方の改善。
- ・ 社会生活を行うにおいて必要なスキルの教育であると考えている。仕事をする上では他人との、多言語でのコミュニケーションが必須となっており、いかに効率良く情報共有し、プロジェクトを進めていくかという能力が現代では求められており、その初期教育であると考えている。
- ・ 学生の課題、レポート等を残しておき今後の指導に活かしていくもの
- ・ 学生それぞれの学習や体験の記録を残しておき、学生自身がどのようなことをやってきたのかを振り返ることにより、その後の学習や進路選択などに活かすようにすること。
- ・ 個々人の活動をファイルして、学生自身に自己の学習進捗状況を把握させると同時に、学生と情報を共有して指導を行うこと。おそらく、広範な情報に跨いだポートフォリオが想定されていると思われるが、私が実施しているのは一つの教科の中の限定された活動で、学習状況を見える化して教育効果を向上させることを目論んでいる。
- ・ 正直、ポートフォリオ教育がなにを意味するのか分からない。高専の教育理念を具現化するためのひとつの手段として、いろいろな教育メニューを綴じまとめたものとするなら、その綴じまとめるものをどうするのか、それをどのように構成するのかというものが先にないといけないと思う。
- ・ 学生が学んできた知識を再認でき、かつ教職員と共有できるためのものだと思います。
- ・ ポートフォリオ教育という言葉を初めて聞いたので分からない。調べた限りでは、学習者の学習の記録に関するものを収集し、評価し、学生に反省を促す教育方法と思われる。
- ・ 学生が自身を客観視するための教育手法。
- ・ 学生に、「ふり返り」の機会を与えて、自ら成長することを促す教育。

- ・ 正直まだよくわかっていません。
- ・ 個人の情報の履歴、他者からの情報の共有等、それらにより、さまざまなスキルアップが行えること。
- ・ 学習を通じて、何らかの価値あるポートフォリオを生み出せるようにすること。
- ・ 学習・スキル・実績を実証するための成果を、教育の目的のもとでまとめた資料により現状を確認する教育。
- ・ 建築では、ポートフォリオは設計(作品)を指す場合も多い。
- ・ 将来設計のための自己説明書。
- ・ 学生の学習履歴を学生の手で記録させながら行う教育ではないか。
- ・ 形式的には習慣づけ、振り返り、予習や復習を補い、短期のみならず、中期的な範囲までの計画性および組み立て直し能力を養うベースづくりになると思います。
- ・ 自身が活動した内容を記録し、その内容を整理することで、自身の興味や適性について考え、場当たりの職業自立ではなく、しっかりとした自立を目指すための教育。
- ・ 学習履歴をリストアップして整理し、自己の学習状況を管理するもの。
- ・ 自らの学びの到達度を目に見える形式に落とし込み、さらにそれを客観視することで、現在の到達点を明らかにし、学生は次の到達点への距離感を掴みながら主体的な学びができる教育。
- ・ すみませんが、詳しくは理解していません。
- ・ 卒業後の目標を持たせ、目標達成のための自己分析と教員によるサポートから成る教育。
- ・ 学生が自分のやって来たこと振り返ることができるもので、自身の今後の改善や自分の成長を実感したりできるもの、でしょうか。勉強不足できちんとした認識を持っていないと思います。
- ・ いくつかの実践例を参考にして調べてみましたが、正直なところ、自分自身が担当する分野においてイメージがわからない。
- ・ 活動を記録することを癖つけることで今後の社会活動への一助となるように教育する。
- ・ わからない。初めて聞きました。
- ・ ポートフォリオ教育とは、実施の過程から成果までを含めた内容を整理して記録するものであり、それを学生評価に活用する場合の利点は、試験やレポートなどの成果だけでなく、過程を含めた学生の資質を評価することができ、指導に活用できる。学生自身にとっても、成果をまとめて他者にアピールしたり、自分自身を客観的評価する材料にするなど、有効な手法である。ただし、学生自身およびそれを評価する側にとって、ポートフォリオを整理することおよび確認することは、従来手法に対して多くの時間を割くことになり、その時間が教育効果にどれだけ有効に機能するかを、対象とする教育内容に応じて吟味して適用する必要がある。
- ・ よくわからない。
- ・ 学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等にためておき、成長過程の評価を行うもの。
- ・ 学習の履歴を保管して、定期的にこれを振りかえり、点数等ではない実際の学習の向上を確認する評価の方法。
- ・ 必要性を感じており、現在、そのためのキャリアデザインノートを作成している。
- ・ 色々な趣旨があると思うが、学年・学校として自主性の高いところだと学生自身の意欲によって効果的な教育が可能だと思うが、現時点では勉強が苦手な子の復習になっている。それはそれで良いと感じている。

- ・ キャリア形成の過程における記録として解釈しています。
- ・ 必要性を感じているので、キャリアデザインノートを作成しているところである。
- ・ 今後の活動のために自分の活動を記録し、振り返る。
- ・ 将来の目標と自分の現在の行動や考え方をその都度記録し、自分自身の成長の記録を作ることを通して、自発的な将来設計を行えるように育てる教育。
- ・ 勉強不足です。
- ・ 正しい自己評価の習得。
- ・ ポートフォリオ教育ではなく、ポートフォリオを用いた教育、という方が正しい表現かと思います。
- ・ 回答者としてはキャリア教育の一環としてとらえており、入学当初から卒業まで行う必要があり、将来は何を目指すのか、そのためにはどのようなことが必要かを考えて実施するものとする。
- ・ 学業、クラブ活動、留学や将来について、それぞれの時点での現状把握、目標設定、ロードマップ策定を行い、学年が進むに従ってこれらをリバイスしつつ、学生が常に目標を持ちつつ、プロセス重視の学生生活を送れるよう、側面から支援する教育と捉えている。
- ・ 学生の学習過程を記録しながら、評価を行うものである。
- ・ 学生が将来のキャリアを考えるうえで、いままでの自身の行動（勉強、課外活動など）を振り返り、改善していくこと。そのため、単に学修記録を残すだけではなく、自己の学修成果を振り返り、新たな目標を計画するといったサイクル（PDCA）を回すことが重要。
- ・ 履歴書に載せることができるような経験・活動の履歴。
- ・ 学生に記録させることは重要で将来、進路等に迷ったときその記録を振り返ることで様々な気づきがあると考えられます。
- ・ キャリア実現のために自らのこれまでとこれからを客観的に考える習慣をつけさせるもの。
- ・ 高専においては、大学と比べ進路選択が早く、自己理解、選択方法などわからないまま将来を考えなければならない場合が見られる。そういった学生の自己理解や将来の進路選択の手助けとなるものだと考えている。また、キャリアだけでなく、自身の成長が目に見える形で記録されるため、就学意欲の向上にもつながるものと考えられる。
- ・ 教育経験を記録することで、自身の教育改善を推進する。
- ・ 本人のこれまでの活動記録を認識させ、将来的な目標設定を明確にさせるため。
- ・ 教員からの一方的な情報提供だけでなく、学生の目標設定とその目標を達成する意識付けをして、そのことに関して学生自身が自己評価することで、大きな目標達成効果が出るもの。
- ・ 学生一人一人の活動の履歴を、場合によっては入学前から入学後、卒業までずっと把握し、その情報を個人の教育全般に活かしていく。
- ・ 学校内外の学生自身が行う活動記録および、場合によっては、それを元に学生へのフィードバックを行うこと。
- ・ 自己教育
- ・ 各学生が自身の状況を適当な頻度で記録し、見返していくこと。
- ・ 学生が自分自身のことや学んだことを記録として残し、それを自分で見返すことによって自分自身を把握することと認識しています。
- ・ 学生が客観的に自分自身を見るトレーニング。能動的な学習を促すツール。

- ・ 学生個々の個性を活かした将来設計を促すもの。また、その目標に向けた情報収集や自学自習を促すもの。
- ・ 分かりません。
- ・ 学生が学習した事柄を振り返り、理解したことと理解が不十分であることを確認し、改善策を考えることで、学生の理解度を伸ばし、自主的な勉学を促すもの。
- ・ 従来の手法に比べ、中長期的な学習の進捗状況を収集し、個人の成長・進歩に重点を置き、再構成が容易となるように、学習プロセスを絶えず自己点検・評価し、修正していくモニタリング能力（メタ認知）が養われる。
- ・ 自分の目標を立てさせた上で学習活動の記録を残し、1年後、学生自身で自分がどのように成長したかをわかるようにすることで、過去1年間の自分とこれからの自分の目標について考えさせ、自らの成長を促させるものであると考えている。
- ・ 学生自身が管理、保管する学習エビデンス。
- ・ 学生が自主的に取り組んで、自由な発想があってよい教育だと思っています。
- ・ 学生自身が適切に自己の分析と評価を行い、自己実現に向けて自ら学ぶ姿勢を育む教育。
- ・ 学習、スキル、実績を実証するための成果物をまとめたものをポートフォリオと考える。そのポートフォリオを使い、これまでに自分の活動を振り返ることにより、自分の良い点や改善点、理解できている点とできていない点を見つけることができる。次に自分がどう行動すればよいかの指針を得る、理解を深める、興味や疑問を発見しさらに学習を深めることが可能となる。
- ・ 細かい学習記録のファイリングによる表かとフィードバック。
- ・ 学習活動の記録や生活態度や状況を記録したものをを用いて、どのような活動が評価されるのかを示し、その評価を高めることにより、次にどのような活動をすることが適切かという、学生自身がコントロールできるようにするための学生の記録を用いた、学生の資質向上のための教育方法。
- ・ 相互理解のため。
- ・ 学生自身が達成度を確認する教育。
- ・ 進路関係の資料作成上の材料。
- ・ 記録を見返すことで、自分自身の変化に気づくことができる物、学生の現状の立ち位置を自覚させるための物だと思っています。ただし、学校や教員が定めた一定期間で記録をしていっても、こちらのペースで学生本人の気づきを左右することはできないと思います。
- ・ 理解していません。
- ・ 特に知らない。
- ・ 学生自身が、自分の状況を記録することによって成長や変化を知ることができる。
- ・ よくわからない。
- ・ 達成状況を把握する。
- ・ 各自の活動や実績・成果の記録から自身のキャリアの現状と足りないものを確認し向上に反映すること。
- ・ 学生が現在の自身を見つめ、将来のために何をすべきかを考える機会を与えるもの。
- ・ 特になし
- ・ 過去に実施したが、学生・教員共に負担感が大きかった。学生に関しては、授業に手が回らない（レ

ポートを書く時間がない等) という声が多く不評だったため、現在は実施していない。

- ・ポートフォリオを活用し、学生自身が目標への到達状況・自己の成長・特長などを客観的に見つけ、学習や活動の方向性を考えて主体的に取り組んでいく教育。
- ・学生がこれまで学んできたことを適切に記録し、フィードバックできる仕組み。
- ・学生の活動履歴を記録し、各自の進路選択に役立てる教育。
- ・学生自身が、ポートフォリオに記録した活動データから、自己の振り返りと自己分析を行い、改善に繋がると共に、自分自身の進路を判断できるようにすること。
- ・学生自身が「振り返り」を行うことができる考え方や方法を身に付けさせる。
- ・今までの学習経験を視覚化すること。
- ・自分が学んだ内容を記録し、振り返ることで歩んできた足取りを確認して、次の一步を検討するために活用する。他者に自身のキャリアを提示する資料としても活用できる。
- ・活動記録を残し、フィードバックする教育。
- ・その時考えた計画や学んだ知識をメモし、それを振り返りながら次をつなげる教育と考えます。
- ・学生の学習や活動において、成果物や記録を残し、学生自身が学習過程を客観的に把握できるとともに、自らの課題を見つけ、次の学習につなげていくことができるように行う教育。
- ・学生の学習成果をまとめ、必要に応じて教員間で共有する。
- ・学習の過程や成果などの記録を活用・評価し、学習の多様性に応えるための教育だと思います。
- ・自身の振り返り
- ・学生自身が自分の実績を自覚すること。
- ・学生が「学習活動で作成した作品等を保存し、その内容を自身で振り返り評価する」ことを通じて、教育効果（学習内容の定着）を高めるもの。
- ・以前ポートフォリオを実施していたが、教員の手間がかかりすぎたため形骸化してしまった。今後継続的にポートフォリオを行う方法を検討中。(教員の手間がかかりすぎない方法が必要)
- ・自分の学びを記録し、振り返ることで、自分の進む方向性を考え行動できるようにするための教育。
- ・自己の活動状況を自己で把握・棚卸しする教育
- ・記録を元に自身の振り返りの機会をあたえるもの。
- ・学生自身が自らの学習過程を確認し、今後の計画に活かすこと。
- ・自己の学習状況を認識させる。
- ・学生を正當に評価する基準。現場で杓子定規で当てはめるのは、非常に難しい。研究ノートが素晴らしい学生の研究取り組みが必ずしも素晴らしいわけではなく、逆に研究取り組みがよい学生の研究ノートが優れているとは限らない。
- ・よくわかりません。
- ・教育の成果を記録するもの。
- ・学生自らが学習してきたことをふりかえり、身に付けた(はずの)スキルや自己の成長過程を確認しながら足りない点等を発見し、それを補うことへと繋げ、主体的な学びを促進するための教育だと思います。また、評価する側もそれを用いることにより、より正しい評価ができるようになると思います。
- ・学生自身が学生生活を振り返る機会であり、就職進学時に見直す資料である。

- ・ 活動履歴
- ・ 学生自身に学内外での活動を記録させて、それを元にフィードバックを行うこと。
- ・ 学生が自身の状況を確認しながら目標設定や勉学などの活動を決定することのできるシステムを活用した教育。
- ・ まだよく理解できていないのですが、学生自らが自身の達成度を確認し、それが教員による評価と相応していることを共有出来る手法であると考えています。
- ・ 学ぶ過程を評価することによって、主体的な学生を育てる。
- ・ 学生は自身のポートフォリオを振り返って、改善に活用する。
- ・ 学習活動において学生が自ら作成したレポート、作品、テスト、活動を評価する方法。
- ・ 学生ひとりひとりの学びやそのプロセスを教員にも学生本人にも見えるようにしてくれるもの。
- ・ ポートフォリオを使った教育。ポートフォリオの作成（作業成果物の収集）と、その評価を通して、学習者の視線からの学習内容の振り返りや、進路（会社や大学）への教育の証拠の提示に役立てる。
- ・ 各教科で学んだ事項について、学生が理解できた点、理解不足の点を確認し、自主的な学びを援助するもの。学生は自らの学びの過程を見返すことができ、新たな学びにたいする自身のアプローチ手法を知る手助けとなる。
- ・ 学生自ら、いつどこでどのようなことができるのかを見ることが出来る状態とする教育
- ・ なんのために必要なのかよくわからないもの
- ・ 学習や成長のプロセス（過程）を明らかにし、学習の振り返りを容易にするもの
- ・ 学生にこれまでの学修に関連する事項を自主的に記録させることにより、学修の目的を認識させ、さらに将来を意識した計画性をもたせて、学生自身のより効率の良い学修を達成する教育
- ・ 学習した内容を系統だててまとめ、折に触れて復習させることにより、ある目的を達成させるもの。
- ・ 学習者の学修履歴を記録したポートフォリオに基づき、学習の進め方を決定する仕組み。
- ・ 学生が「これまでの人生の振り返り」を後々できるようになることを目的とした教育？
- ・ はっきりとは理解していない。
- ・ 学生が自分の立ち位置を把握し、今後の学習や学校生活に活用するためのもの。
- ・ 学生自身による振り返りを促すことを目的としたエビデンスの一つ
- ・ 学生に自身の到達目標を設定させて、一定期間の後にはどの程度達成できたかを振り返ってもらい、次の目標設定に活かしてもらおう。このような活動を通じて自分の将来の事や今やるべきことを考える力を涵養する。
- ・ 学生が就職、進学するにあたり自分が行ってきたことを振り返り、今後行うべきことを見つめるための教育。
- ・ 学生自身による自己評価や自己理解を進める上で重要だと思います。
- ・ 学生がこなした作った成果物を蓄積し、教員がフィードバックに使ったり、自身の成果物を見直したりすることで、PDCA サイクルを回し、学習すること。
- ・ ポートフォリオを使って、学生がそれまで行ってきた学習・教育などを振り返る事ができる。
- ・ テストの点数で競う処理能力部分ではなく、自分で課題を解決するために情報を収集し表現をする編集能力を自分および他者に示すことで自分のオリジナリティを明確にしていくものであると思います。また、他者との比較ではない自分の成長に対する評価を行っていく重要なツールでもあると思います。

ます。

- ・ 自分を振り返り、今後の目標や計画を立てるもの。
- ・ 学生が自らの学習履歴を記録し、今後の学びや自己分析の資料として活用する。
- ・ 自己の振り返りができ、その後の改善に活用できるようにする。
- ・ 学校の外部に向けて教育達成度をアピールするための教育システムと感ぜられる。
- ・ 学生が自分で自分の成長が確認でき自己研磨につながるもの。
- ・ 単位に関わらない形で来年度（31年度）から実施予定。数年後にカリキュラムを改正して、キャリアデザインなどの科目の単位として認めることを考えている。
- ・ 実施していないので不明
- ・ 自身を知り、国際社会に広く目を向ける、自身の成長を客観的に把握し、今後の方向性を表現できる能力を養う。
- ・ 有用とは思われる。
- ・ よくわからない。
- ・ 学校生活における成果（学習・課外活動等）を記録・残し、検証と分析、評価を行い、次の育成・成長に展開させる。
- ・ 各学生が修得してきた能力（一般ならびに専門学習、課外活動、メンタル面等）を記載できるようなものを準備し、その活動の記録を使って各学生に応じた教育指導や学生生活等の指導をする教育と思います。
- ・ 学生が自ら学生生活にかかわるすべてを記録することで5年間の自身の成長や歩みをまとめ、確認することで将来の自分の適性を考えたり他者と相談する材料を集積し、キャリアを考えるツールとなる。こういったことを学生に教育することやカリキュラム全体を指すのでは？
- ・ 学習成果を確認するためのもの。
- ・ 年度ごとの反省点を自覚させ、次の目標を明確にするもの。
- ・ 活動の記録をまとめたもの。
- ・ 様々な視点で評価するための根拠や記録を収集し、それらを活用しながら自発的な成長を促す。
- ・ 1. 紙媒体のファイル、または電子ファイルにより、学生個々の学習・活動の記録を系統的に保管させる。2. 1の学習の記録を基に、DPやMCCに対する自分自身の達成度を確認させ、以後の学習計画に反映してもらおう。3. 1の学習・活動の記録を基に自分自身の強みを把握し、進路選択や就職・進学活動に活用してもらおう。
- ・ 学校生活における自身の成長を確認する・辿る証拠書類
- ・ 学生の記録を取ることで、教員はその学生を知り、本人も自己分析に役立てるもの。各自に合わせた適切な対処をしていくべきものと思われます。
- ・ 教育における個人評価ツールで、学生が学習過程で残したレポートや試験用紙、活動の様子を残した動画や写真などを、ファイルに入れて保存する評価方法と聞いている。教育における個人評価ツールで、学生が学習過程で残したレポートや試験用紙、活動の様子などを残した動画や写真などを、ファイルに入れて保存する評価方法と聞いている。
- ・ ポートフォリオは、学生が学習教育目標達成のために成績や資格などの学習履歴を自己管理して自身の目標立案と達成確認に資するとともに、学校がきめ細かい指導や支援を行うために用いる共有道具。

例：ローズハルマン工科大学

- ・ 自己分析による達成度評価とその改善。
- ・ 進路指導や自己分析のためのツール
- ・ その学生の「カルテ」のようなものであり、これまでの取り組みを学生個人に記録させていくことで、自らの状態を客観的に把握し、将来の活動の一助とするものと考えています。
- ・ 学生がいろいろな活動を通じて自分自身を知ること。自信の持てる何かを見つけ出す機会を与える。

**問3 1. ポートフォリオ教育を用いた指導を行うためには、教員のスキルとして何が必要だと思いますか？**  
**(自由記述)**

---

- ・ カウンセリングのスキル。
- ・ 教員が勤労観や職業観を持つこと。外部とのつながりを持つこと。
- ・ 学生の考えをしっかりと聞き取るコミュニケーション能力、世の中の状況を判断して、学生が判断するための提案をする能力。
- ・ 情報処理能力
- ・ 定期試験から得られる学習の成果のみだけではなく、学生とのやり取りを通じた学習活動の段階を踏まえて学習成果を検証するスキルが重要である。
- ・ 学生の資料管理状況や自己評価を分析し、指導できる能力。
- ・ フィードバックへの意識の向上
- ・ 良く分からない。
- ・ ポートフォリオを使いこなすための知識と技術
- ・ わからない。
- ・ 教員のスキルとしては IT ツールとしてのポートフォリオシステムを使いこなす能力が不可欠であると考えます。これに先立って、高専機構として準備（推進）しているポートフォリオシステムについての情報や、これ以外のフリーのポートフォリオシステムについての情報等を教員間で共有することが重要であると考えます。
- ・ 指導がどのくらい必要かどうかを見極めるスキル。
- ・ 意識
- ・ 質問項目の適切な設定とフィードバック。これらの一連の流れによる教育効果の見通し。
- ・ 理想的には、ポートフォリオ教育を通じ、教員に、学生の「広義の学び」の個別性に配慮しつつ、学生のキャリアガイダンスとしての機能を有効に発揮させるスキルが求められると思います。
- ・ 初年次から卒業年次までの系統立てた「キャリア教育」に寄与できる提供ネタを有すること。学生自身が能力向上を実感できる授業や評価方法（可視化とアウトカムズ）。教員自身が「学び続ける」ことと、それを学生に「見せ続ける」こと。
- ・ ポートフォリオ教育の基本は、学生が自主的に行う予習と復習、およびそれらを行うために必要となる情報（データ等）の管理だと考える。よって、これら3つを学生がきちんと自分の力でやっていけるようにするための注意・指導・確認スキルが教員には必要であると思われる。
- ・ 広い視野とティーチング能力



- ・ 達成度ではなく個々人の成長を尊重できる教員の理解力が重要のように思います。
- ・ 学生の模範となるように自ら率先して取り組み（学生に興味を持たせ）、学生の取り組みに対して褒めて伸ばせるスキル。
- ・ どのようにポートフォリオを作り、活用するかを知る。
- ・ 自分の頭で具体的に考えることを支援する対人力（コミュニケーション力）。主体は学生個人（学生が気づき、振り返り、行動することが第1に重要）。
- ・ The professor or teacher must be skillful on the topic he is teaching, have a good knowledge of the data collection. Must know how to arrange the collected data to meet the outcomes on the curriculum. And very important he must listen to student patiently and the design of the portfolio should be in his hand as well.
- ・ ポートフォリオ教育に関する知識、教育学、発達心理学の知識など
- ・ ポートフォリオの作り方はもちろんですが、その使い方と思考プロセスの洞察力を身に付けることが重要だと考えます。
- ・ 個々の学生を見る能力、それらを資料としてまとめる能力。さらにまとめた資料を指導に生かす能力。
- ・ 各時間の学習内容と到達点を明確に示し記録するスキル。
- ・ 教員のスキルとして特に思い当たるものは思い浮かばないが、ICT ツール（学習支援ソフトなど）を用いて実施されることが予想されるため、そのために教員が初期に抱くハードルを下げる（減らす）工夫が必要。
- ・ ポートフォリオを使うことによってどのような力が身につくかを理解する必要がある。また、ICT を利用する方がよいので、その使い方もスキルとしては必要か？
- ・ 教育経験や人生経験に基づいた指導力。
- ・ スキルとは異なるが、学生に課した課題・レポートを確認し、指導する十分な時間。
- ・ カリキュラムをマネジメントするスキル、多様な学生を支援できるスキルなど。
- ・ 学生が自身の理解度を適切に判断するためには、授業内容の大筋が理解出来ている必要があると思われる。教員はシラバスの説明に付随して、これから行う学習がどの様な流れに沿って行われるのか、しっかりと学生に説明と理解をさせる必要がある。
- ・ 広範囲で、常に最新である社会情勢とその技術を把握しておく能力
- ・ 教員のスキルと言うより、ごく普通の人間としての生き方を全うしているかどうか。
- ・ 学生個人の学習に対する態度を見極めた上での学生個々に対する学習向上に向けた事前の準備作業
- ・ ポートフォリオ教育の目的、ポートフォリオに記録すべきこと/不要なことの判別、ポートフォリオの活用方法など、ポートフォリオ教育自体への理解が必要だと感じます。一方で各学生のポートフォリオ全てを把握することは困難かと思しますので、何らかのシステム等での支援とその使い方等に関するスキルが必要かと思えます。
- ・ ポートフォリオを教育の活用法を把握する必要がある。
- ・ 「ポートフォリオ教育を用いた指導」の具体的な利用方法と有用性を知る必要がある。
- ・ 最低限の基礎知識と納得と熱意
- ・ ポートフォリオに関する基本的知識
- ・ 教育目的次第だと思うので、特定できない間いだと思う。教育の目的次第でポートフォリオの内容や

形態も変わると考えられるので、それに応じて必要なスキルも変化するだろう。

- ・ コミュニケーション能力
- ・ コーチングスキル、コミュニケーション能力、分析力、洞察力、情報収集能力など、全人的な能力が必要だと思います。
- ・ 膨大な情報から各個人の指導案件に関係した情報を抜き出す力が必要かと思います。
- ・ スキルは不明。元となる理念・信念が必要。学生が将来幸せな人生を歩むことを念頭に置くこと。
- ・ 整理、管理
- ・ 学生個々人に合わせた合理的配慮
- ・ 学生作成の作文、レポート、活動の様子が分かる媒体を安全に保管し、学生教育に有効活用する能力。
- ・ 収集物からの誘導スキルなど。
- ・ わかりません。
- ・ スキルというより時間
- ・ 助言や指導の必要性の判断やタイミングの判断。適切な指導内容の選択。
- ・ 学生とのコミュニケーション
- ・ 資料の分析能力
- ・ 実践事例などを把握すること。
- ・ 多岐にわたる情報、素材から総合的に判断して、個々の学生に則した適切な助言を行えるスキル。
- ・ 具現化する方法や技術によって必要なスキルは異なるので一概に言えない。
- ・ まず、ポートフォリオの存在を知っているということ、すなわち、所属する学校における教育に関して興味を持つことが一番大切なことかと存じます。加えるとすれば、ICTの利活用に関するスキルではないでしょうか。
- ・ 短時間で資料を整理、評価するための方法を知っていること。
- ・ 評価基準の設定
- ・ ポートフォリオ教育の意義を学生に説明でき、学生に寄り添い、傾聴し、必要な時に、適切な内容をアドバイスできるスキル。
- ・ 数年かかって、アクティブラーニングとはどういうものなのか雰囲気だけはわかりつつある状況です。ポートフォリオ教育についても、時間をかけて基礎から教員に紹介していくことから始める必要があると思います。
- ・ 教員のポートフォリオも十分行うことが必要
- ・ ポートフォリオを形成するためのツールに関する理解
- ・ 成果を確認するための資料（課題）を作るため、課題の内容を適切に与えられる能力と読み取る力。
- ・ 明確な意見はまだない。
- ・ 学生とのコミュニケーション能力、特に傾聴力。
- ・ 基礎から応用までのあらゆるスキル。
- ・ 学生に取り組ませるタイミング、時間の確保、適切な記録保管と提供のタイミングを経験的につかむ能力。
- ・ 他校の実践例（成功・失敗体験）による事前学習を通して、最小公約数的な指導方針の理解、学生の適性に合わせたアドバイスができるような人生経験など。

- ・ 学習と社会とのつながりや発展、応用を説明できる知識。
- ・ 現在の到達点に対する正当な評価能力と、学生の適性を見極めた上で、次のステップを提示できる能力。
- ・ 企業や外部研究機関等の教育機関以外で働いた経験に基づく指導ができる教員。
- ・ 把握できていません。
- ・ 多くの事例を参考に情報を集めること。
- ・ 問題解決に向けた知識と考察力
- ・ わかりません。
- ・ 第一に、教員本人がポートフォリオを活用した業務等を実施して、実践した経験があることが必要だと思います。安易にポートフォリオを導入して、不必要な情報まで記録・整理することになってしまうと、無駄な時間の浪費となってしまいます。そのため、どういう場面でポートフォリオが有効に作用するのかを、これまでの人生や職場等で実感できていないと、マイナス作用になり兼ねないことを注意する必要があります。
- ・ まず教員がやってみる。
- ・ ポートフォリオ作成に必要な成果物の選定能力
- ・ 評価観の転換
- ・ 企業経験
- ・ まず学生の話聞くこと。そしてキャリアを形成する上で、より具体的かつ明確な目的・目標を立てられるような助言が必要ではないかと考えています。
- ・ 長期企業研修など、現場を見ること。
- ・ コミュニケーション能力
- ・ ファシリテーション、および、カウンセリングのスキル。職業の適正などをみるテストの知識や結果の読み方などのスキル。
- ・ 勉強不足です。
- ・ 資料処理能力
- ・ PBL 型の授業に限って言えば、学生に対するコーチングの技術、成績評価のためのルーブリックをできるだけ具体的に記述することかと思います。
- ・ 学生を自分から講義に参加できるように促す指導力・マネジメント力・ファシリテータとしての能力。
- ・ 学生は自身の立ち位置、交際範囲や留学経験の有無等、異なる背景を反映して、高い目標を設定する者、そうでない者が混在する。この多様性を受け入れる懐の広さが要求される。また現在に至るまでのプロセスを掘り起こすなど、目標達成までのロードマップ作成支援を実施できるよう、広い視野とファシリテーション能力が要求される。これらに加えて、プロセスを評価するための標準的な技法を学校組織として提案する必要があります。
- ・ マネジメントスキル
- ・ 自身の教育、研究活動においても、PDCA の意識をもって取り組む。自身のキャリア形成や活動の経験を PDCA に置き換えて、伝えることができるようにする。
- ・ 産学官民連携の知識・コミュニケーションスキル及びビジネススキル
- ・ コーチング能力。

- ・ 面談能力
- ・ 自身の担当科目への理解、教えるべきことは何かを明確に把握するスキル。
- ・ 自身の教育に関する分析力、課題を明確にする力、課題に対する具体的に取り組む展開力など。
- ・ 何をすればどうのようになって行くのか、具体的な事例を提示しながら相談に乗れる情報量。
- ・ 適切な目標設定能力、目標の取捨選択能力、学生自らが取り組むことのできる環境づくり。
- ・ 学生の様々な活動情報を正確にとらえ、学生がどういう状態にあり、将来にどう活かせるか等々の高度な判断能力が必要となると考えられる。それには幅広い豊富な経験、柔軟な発想等、高度な能力が必要と考えられる。したがって、教員個人のスキルも必要であるが、チームで対応していく方が現実的かもしれないと考えている。
- ・ 指導方法の理解
- ・ 個々の学生を尊重する度量
- ・ ポートフォリオ記録の意義の説明
- ・ 学生にポートフォリオ教育とは何か、なぜ必用かを説明する能力が必用に思います。
- ・ ポートフォリオを書くことの効果や必要性を学生に理解してもらうための、説明能力、惹きつける力。
- ・ ポートフォリオ教育を実践し効果を上げている事例を把握する必要がある。
- ・ 分かりません。
- ・ 学生が理解する過程を理解し、学生が確認すべき事項を具体的に分類する。学生が逐次ポートフォリオを利用しながら、理解する過程を振り返ることができるよう、学生とコミュニケーションを図る。
- ・ 学習プロセスを絶えず自己点検・評価し、修正していくモニタリング能力（メタ認知）が養われるような体制づくり。
- ・ 日頃から学生が進んで成長したいと思える環境を整えることに思える。自分のわかっていない点やわかっている点をそれとなく自覚させることができ、世の中の標準レベルにまだまだ自分が追いついていないことを自覚させられるようなスキルではないかと考えている。
- ・ 傾聴
- ・ ポートフォリオの定義があいまいなの、一概には言えないが小まめに記録する、保管する習慣づけを学ばせるあるいは徹底させる教育スキル。
- ・ 自らの経験とリーダーを育成するスキルが必要だと感じています。
- ・ バーバル・ノンバーバルコミュニケーション能力、洞察力、人間力
- ・ 学生との信頼関係、評価の公平性、人間性、声掛けなど。
- ・ 評価の仕方など
- ・ 記録を読むと先入観がどうしても入ることなど、感情面との折り合いを付けること。ポートフォリオ教育を行うためには、学生一人一人に多くの時間を割く必要があると思われまます。一人1時間放課後に行うとしても、1クラスで2ヶ月くらいかかってしまいます。時間の確保の問題が最も大きいことかもしれません。
- ・ 各種ツールの効率的な活用方法
- ・ 達成度をわかりやすく示すスキル
- ・ 外部講師に委託できるとありがたい。
- ・ 学生ひとりひとりの成長度合いが異なることを十分自覚して、それぞれの学生に対して待つ力が必要

だと思えます。

- ・ 理解していません。
- ・ 企業での実務経験
- ・ 授業や担任業務に関する普通のスキルで対応可能なので、特別なスキルは必要ないと思えます。
- ・ スキルとして必要なことを述べるのは難しいが、社会経験や、学校から社会に出て、世の中の流れを知ることは必要だと考えます。
- ・ 教材準備に時間をとれるように、時間の余裕が欲しい。
- ・ わからない。
- ・ 各学生の個性や資質を把握できる洞察力、適切かつ親身に相談できる人間力・社会的経験や知識
- ・ 特になし
- ・ 学生が持った目的や目標に合うアドバイスができるか。
- ・ スキルというよりは、実施するための時間がないことが課題である。
- ・ キャリア教育に関して言うと、進路に関する情報を収集できるスキル、学生の自己評価などの活動を進められるファシリテーション能力、学生から情報を引き出す傾聴のスキルなど。
- ・ 進路（就職や進学）でどのような学生（人材）が求められているかを知り、これに即した的確な進路指導支援を行うスキル。
- ・ 個々の学生学びや活動のプロセスを客観的に評価することができ、多面的な能力向上に対して適切な助言・指導ができる能力が求められると考える。
- ・ 学生が作成するポートフォリオ等を、正しく評価できるスキル。
- ・ 不明。
- ・ 正確に記録させる記述力を身に付けさせる指導力。振り返った内容を自己分析し何かを見つける作業を導ける（気づきに導く）指導力。
- ・ 分からない。
- ・ 学生の的確(?)なアドバイスが指導には必要になると思えます。アドバイスのためのいろいろな経験・体験や勉強会等の参加がスキルアップには必要と考えます。
- ・ 学生の成果物として残すべき資料の提示とその資料に対する適切な評価および学生自ら出した課題に対する適切なアドバイスができるスキルが必要。
- ・ 教員間での情報共有
- ・ ポートフォリオを効果的に活用できるスキル・ポートフォリオの作成指導スキルなど。
- ・ 「ポートフォリオ教育」そのものの意味からきちんと理解することが必要ではないでしょうか。
- ・ 学生とのコミュニケーション能力
- ・ 学習活動で作成した作品等のうち、何を保存し、どう振り返るのか（評価項目と評価基準）?について明確に判断し指導できること。
- ・ 現在のところわからない。
- ・ 一般企業人としての経験。
- ・ 前向きに感じさせる自信。
- ・ 学生自身の振り返りに対し適切なアドバイス・指導ができること。
- ・ 学習者に、ポートフォリオ活用方法を具体例と共に、分かり易く示すこと。

- ・ 指導力
- ・ 常識のある柔軟性。
- ・ ポートフォリオとは何かを理解する。
- ・ 書類を整える事務処理能力
- ・ ポートフォリオの作成が必要となる授業内容を作成するスキル、ポートフォリオを管理するシステムを利用するスキル、ポートフォリオの内容を均一に評価する基準策定のスキル。
- ・ 個々の学生を把握する力、こまめに声掛けをする力。
- ・ 学の過去の学習等と自分自身の授業等を結びつけること。
- ・ 多様な経験
- ・ システムを活用できるための情報技術、キャリア教育に関する知識、理解。
- ・ 学生に評価基準を公平に説明すること、学生の実感している達成度と評価が相応していることを実感させることだと考えています。「教員は学生を評価する立場」ではなく「共に学んで歩む」という姿勢が必要ではないかと思います（もちろん私自身もまだまだだという前提ですが）。
- ・ ポートフォリオ教育は、学生の個人差はあるものの教員の介入がないと機能しないと考える。コーチングスキルが必要。
- ・ 学生と向き合う時間と教育に割くことのできる時間。
- ・ 学生が自発的に行動をおこせるような授業展開が必要である。
- ・ 授業全体の計画性はもちろんのこと、個々の学生の状況に応じて柔軟にフィードバックすることが必要だと考えます。
- ・ 特別なスキルは必要ないが、ポートフォリオ評価の意義を個々が理解し組織全体で取り組む姿勢が重要であると思われる。
- ・ 教員が担当する教授項目を学生が理解する過程に基づいて分類し、項目として提示できる。ポートフォリオをもとにして、個々の学生が、教授内容を理解する過程を学生とともに理解し、各人に合った助言などを行う。
- ・ ICT 技術を活用した省力化
- ・ わかりません。
- ・ 到達目標に対して学生がどのような取り組みをしているのかを評価する際、評価物にとらわれずに全人格的なフィードバックを行なうことのできるコミュニケーション能力が必要である。
- ・ 教員自身のポートフォリオ作成能力。
- ・ 一貫したテーマを設定するスキル、抽象的な概念を言葉に置き換える能力など。
- ・ 学生の学修をきちんと評価できること。
- ・ 高専 OB の活躍について知っておくこと。
- ・ 良くわからない。
- ・ 学生一人ひとりの特性を見極め、適切なフィードバックやフォローを与えること。
- ・ 書くことの意義が伝えられる能力。
- ・ 学生の話をよく聞いて自主性を尊重しながら考えるヒントを与える力が必要。
- ・ 様々な社会経験。多様な分野をバックグラウンドとした複数の教員の連携。
- ・ 多人数への対応が難しいです（1 学年すべてを持つ場合）。ただしわたし自身の理解もまだ浅いので

今後、勉強していきたいと思います。

- ・ 適切なポートフォリオの作成と管理のアドバイス、ポートフォリオを用いた授業を仕掛けるなど。
- ・ わかりません。
- ・ 低学年時から質的評価を行える授業スキル、1分野に限定しない総合的なポートフォリオ作成のための横断的コミュニケーション（教育の組織化）、ポートフォリオを作成・管理する媒体についての勉強会も必要だと感じます。
- ・ 難しい質問です。多様な学生指導経験の蓄積でしょうか。
- ・ システムへの理解、エンジニアのキャリアへの理解
- ・ 学生とのコミュニケーション、学生の特性を把握する力、進路指導力
- ・ 授業進度の管理能力と項目毎に適切に評価するための経験と知識と思われる。
- ・ 教員側がポートフォリオを評価対象として考えるのではなく、学生の成長のためのツールと考えるようにするための教員の教育が必要。
- ・ 実施していないので不明
- ・ 人材育成・キャリア教育の実務経験
- ・ スキルではありませんが、経験者のアドバイスがあるとよいと思います。
- ・ 全くわからない。
- ・ 様々な場面で過去の事例を紹介されているサイトの構築とその閲覧が可能な状況の構築があれば良いと思います。学生とのコンタクトの方法（物理的コンタクト以外に心のケアを含めたコンタクト方法）が参考になるような事例があれば良いと思います。ポートフォリオがどのようなものを構築されるかと、どのように運用されるかをしっかり周知いただければと思います。
- ・ 学生の個性を尊重することや、学生に関するあらゆる雑多な情報を総括し助言を与えるスキル
- ・ メンターからの継続的な研修はありがたいと思います。
- ・ 専門知識
- ・ 目標を達成するために必要なことを明確にしてあげ、できたことをほめてあげる事だと思います。
- ・ 継続性
- ・ 学生が伸びようとしている部分を把握し、それを後押しする環境づくりと、適切に評価するスキル（基準）が必要と考えます。
- ・ 記録を電子媒体で保管する場合には、BlackBoard 活用などの ICT スキル。学習計画に関する指導を行う場合には、科目の系統図や MCC との対応関係など、学校の教育全体に関する理解。キャリア教育に関する知識や経験。
- ・ メンタルカウンセリングマインドとキャリアカウンセリングマインド。
- ・ 人間としての相手に対する思いやりを前提とした当該学生の将来を見据えたキャリア教育のスキル。具体的には、学生自身が主体的に自己分析を実施し、将来を考えることができるように導く指導力であると考える。
- ・ 学生の声に耳を傾ける意識。
- ・ そもそもポートフォリオ教育に向いている科目と向いていない科目があると考え。学生実験等に向いていると思うが、何をポートフォリオに入れるか等判断できる素養が必要と考える。実社会で活躍できる人材育成のための評価と考えるならば、実社会での経験、高専の場合は、製品開発、設計など、

または、それに準ずる経験が必要と考える。

- ・ 明確な達成度の基準を意識する講義。ポートフォリオ教育をするための準備時間の確保。
- ・ 学生の特性分析や励ます力。
- ・ 多様な方面でのカウンセリング能力（コミュニケーション能力含む）と思います。しかし、これはある程度の（人生）経験が必要であり、研修などの取り組みだけではなかなか培うことは難しいと感じます。
- ・ 寛容性とコミュニケーションスキル。



## 2. 参考資料

記録形態、キャリアプランについての参考資料は下記の通りである。

### 2.1 徳山高専

倫理（40名×3学科＝120名・2単位・通年2時間）の授業で、大福帳という紙媒体を使用し、各学生に、授業のポイントや疑問点などを記録させている。※三重大学名誉教授織田揮準先生の大福帳の取り組みを参考にし、倫理の授業に使用している。

年度（前 後） **大福帳** 簡易ポートフォリオ

授業名 倫理	担当 高橋祥吾	アドレス s-takahashi@tokuyama.ac.jp	
学科	所属 専攻	名前	フリガナ

記述のためのポイント：より深く理解して欲しい。授業内容の定着が目的。  
 ・教科書や板書をそのまま写さず新しいノートに書いてよね。  
 ・単純な録音の記録は避けよう。「おもしろいと思った」くらいの感情を記録に残してもすぐ忘れちゃう。  
 ・授業を聞いているときに考えたことを書く。  
 ・疑問点があれば書いておこう→コメント返しされなくても、あとで復習→定着につながる。  
**自己紹介とか近況**

---

月/日	今日のポイント・まとめ or 質問など	教員から
1		
/		
2		
/		
3		
/		
4		
/		
5		
/		
6		
/		
7		
/		
8		
/		

図9.倫理の授業における大福帳

## 2.2 佐世保高専

学生が成績を把握し自己評価をするために紙媒体を使用し記録させ、5年間の取得単位やコメントをファイリングしている。

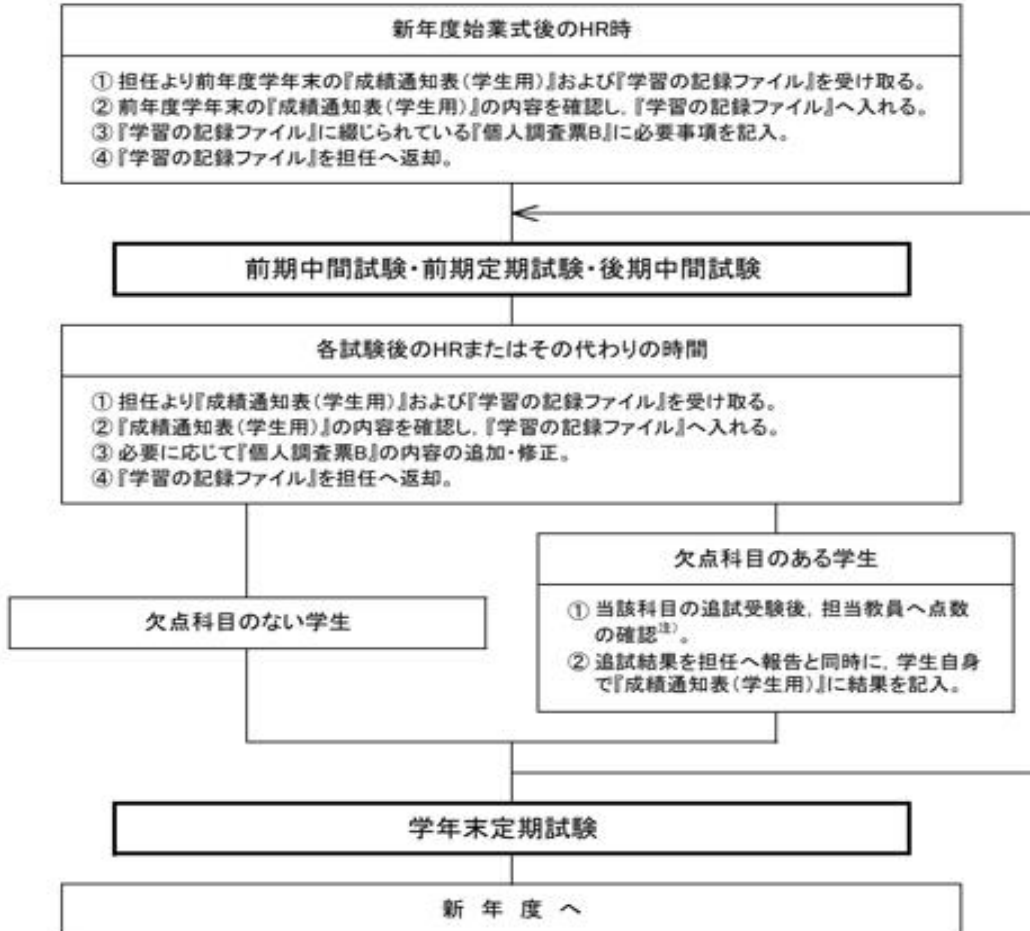
平成 30 年度 成績記録 4年S組 番氏名

区分	科目名	単 位 数	受 講	成 績 評 価							欠 履 時 数 / 授 業 時 数					
				前 期					追 期 成 績 ( 追 試 後 )	後 期		半 年 成 績	前 期		後 期	学 年
				中 期	定 期	前 期 成 績	定 期	追 試 後		中 間	追 試 後		中 間	定 期		
									成 績			退 試 後			成 績	退 試 後
一般科目	日本語と文学	1	○										✓	✓	✓	✓
	国際関係論	1	○										✓	✓	✓	✓
	健康と科学	2	○										✓	✓	✓	✓
	英語	1	○										✓	✓	✓	✓
	コミュニケーション	1	○										✓	✓	✓	✓
	選択	2	○										✓	✓	✓	✓
専門科目	応用数学Ⅱ	2	○										✓	✓	✓	✓
	応用数学Ⅲ	1	○										✓	✓	✓	✓
	一般物理	2	○										✓	✓	✓	✓
	応用物理Ⅱ	2	○										✓	✓	✓	✓
	電気回路Ⅱ	2	○										✓	✓	✓	✓
	電気磁気学Ⅱ	3	○										✓	✓	✓	✓
	電子工学	2	○										✓	✓	✓	✓
	電子回路Ⅱ	2	○										✓	✓	✓	✓
	通信工学	2	○										✓	✓	✓	✓
	計測工学	2	○										✓	✓	✓	✓
	制御工学	2	○										✓	✓	✓	✓
	工学実験・実習	3	○										✓	✓	✓	✓
	工場実習	2														
	工業訪問実習	1														
地域活動ゼミ	1															
記入例	2	○		70		40	55	60	65	55	60	64	0/16	1/30	6/46	8/60
平均点																
学期平均点																
学期順位																
欠点科目数																
段 考																
前期 中間																
前期 定期																
後期 中間																
学年末																

図 10. H30 個人成績記録 (1-5 年用)

## 『学習の記録ファイル』管理要領フローチャート

原則として『学習の記録ファイル』は、当該クラスの教室または当該クラスの担任の教員室でのみ使用する。  
 ※ 追記事項が生じた場合は、随時、担任の教員室へ行って加筆する。



\*注) 『成績通知表』の「前期成績」は前期中間試験(含追試)と前期定期試験を考慮した前期総合成績なので注意すること。

図 11. 管理要領(学生用)



## 2.3 岐阜高専

キャリアプランニング、社会人としての基礎能力、技術者としての能力、グローバル能力をキャリア能力として、それぞれの能力を伸ばすためのプログラムを特別活動を通じて実施している。

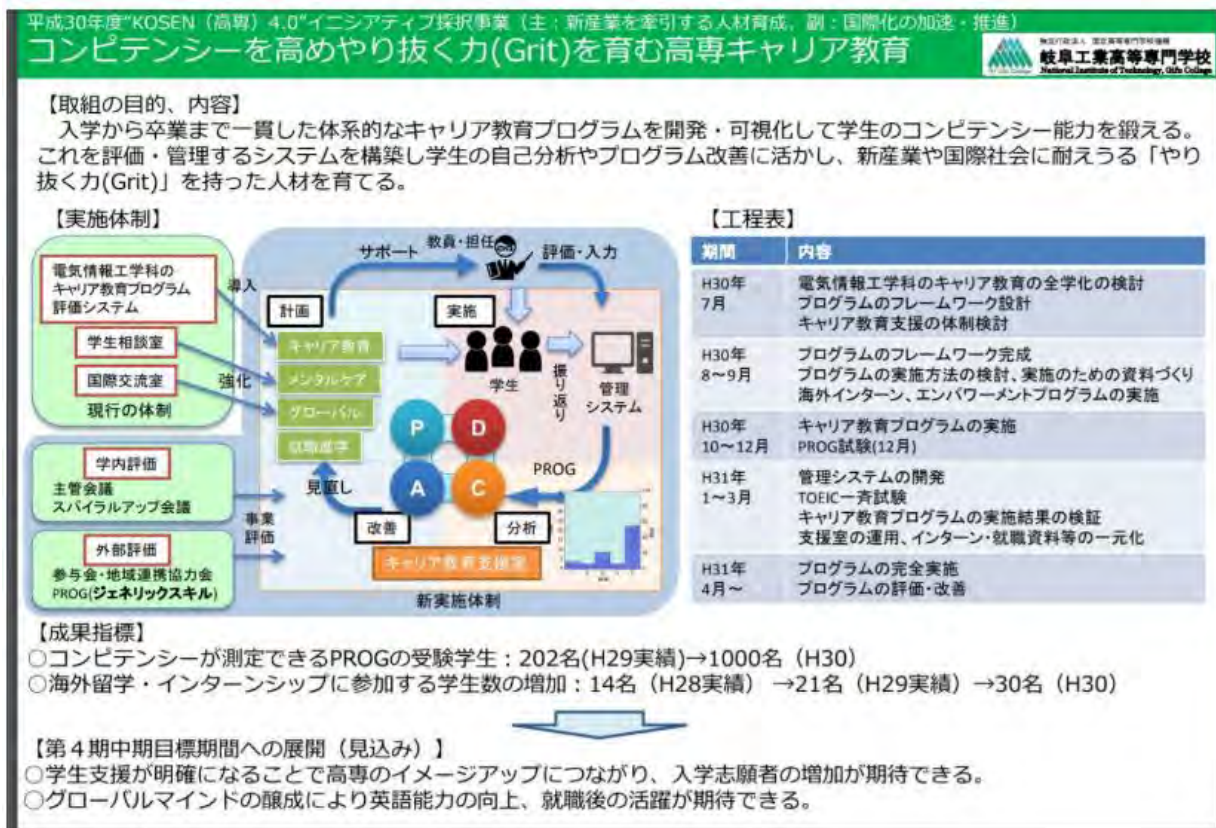


図 13. コンピテンシーを高めやり抜く力(Grit)を育む高専キャリア教育

## 2.4 石川高専

紙媒体を使用し、全学生がキャリアデザインポートフォリオを記録している。

### 【キャリアデザインポートフォリオ利用の手引き】

『生活の記録』改訂版のポートフォリオには、以下の3種類の書式があります。

- ポートフォリオ ① (全学年共通)
- ポートフォリオ ② (1～3年生用)
- ポートフォリオ ③ (3～4年生用)

記入を始める前に以下の事を伝えてください。「この資料は担任との面談資料に用いたり、キャリアデザインのワークに用いたりする可能性があります。他者が見る事を前提に記入してください。まだ他者に伝えられない状況のものについては、ここに記さずこのワークを参考に実現に向け個人で取り組んでみてください。記入事項は正直に思っている内容としてください。」

#### 【ポートフォリオ記入指示手順】

以下の手順に従い、記入するようにご指示ください。

##### <1～2年生前期> (なるべく年度初めに実施)

- 1) ポートフォリオ②-1 未来像の記入 (30歳の時に職業人・技術者としてどうありたいか：目指す企業・職種・ポジションなど)
- 2) ポートフォリオ②-2 未来像に向けた目標設定し、記入 (達成度が測れ、1年以内に達成できそうな具体的な目標)。これ以降、左半分は学業面、右半分は課外に関する事を記入するように伝えて下さい。
- 3) ポートフォリオ②-3 目標に対する自己分析結果の記入 (目標に対して達成できている事項と未達の事項)
- 4) ポートフォリオ②-4 目標達成のための計画の記入 (何を、どこで、いつまでに、どのように)
- 5) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」前期欄を記入
- 6) ポートフォリオ①の略歴欄を記入 (1学年のはじめのみ)

##### <1～2年生前期末もしくは後期開始時>

- 1) ポートフォリオ②-5 ふり返りの記入 (前期に記入した目標と行動について達成できたこととできなかったことを記入。達成できていなくてもすべてを不可と捉えるのではなく、達成できている範囲とできていない範囲に分けて捉える)
- 2) ポートフォリオ② 裏面【後期】の1～4を記入 (未来像は変わる可能性があるものであり、未来像が変わっている場合はここから再度考えるようにご指導し、変化がない場合は、より具体的に記入するように指導)
- 3) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」後期欄を記入

##### <1～2年生学年末>

- 1) ポートフォリオ②-5 (裏面) ふり返りの記入 (前期に記入した目標と行動について達成できたこととできなかったことを記入。達成できていなくてもすべてを不可と捉えるのではなく、達成できている範囲とできていない範囲に分けて捉える)
- 2) ポートフォリオ① (裏面) 各学年におけるふり返りの記入 (自分が頑張ったと思うことと自分が得たと思うことを箇条書きで記入：過小評価せずに自分ができたと感じることをできるだけ多く書

くように助言)

#### <3 年生前期> (なるべく年度初めに実施)

- 1) ポートフォリオ②-1 未来像の記入(30歳の時に職業人・技術者としてどうありたいか：目指す企業・職種・ポジションなど)
- 7) ポートフォリオ②-2 未来像に向けた目標設定し、記入(達成度が割れ、1年以内に達成できそうな具体的な目標)。これ以降、左半分は学業面、右半分は課外に関することを記入するように伝えて下さい。
- 2) ポートフォリオ②-3 目標に対する自己分析結果の記入(目標に対して達成できている事項と未達の事項)
- 3) ポートフォリオ②-4 目標達成のための計画の記入(何を、どこで、いつまでに、どのように)
- 4) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」前期欄を記入

#### <3 学年後期開始～12月>までに

- 1) ポートフォリオ②-5 ふり返りの記入(前期に記入した目標と行動について達成できたこととできなかつたことを記入。達成できていなくてもすべてを不可と捉えるのではなく、達成できている範囲とできていない範囲に分けて捉える)
- 2) ポートフォリオ③を記入(企業研究の必要がありますので、配布後1週間ほどの猶予を与え回収してください)
- 3) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」後期欄を記入

#### <3 学年学年末>

- 1) ポートフォリオ①(裏面) 各学年におけるふり返りの記入(自分が頑張ったと思うことと自分が得たと思うことを箇条書きで記入：過小評価せずに自分ができたと感じることをできるだけ多く書くように助言)

#### <4 学年前期> (なるべく年度初めに実施)

- 1) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」前期欄を記入
- 2) ポートフォリオ③を記入(企業研究の必要がありますので、配布後1週間ほどの猶予を与え回収してください)

#### <4 学年後期開始～12月>までに

- 1) ポートフォリオ①の「私の目標」と「その設定理由」後期欄を記入

#### <4 学年学年末>

- 1) ポートフォリオ①(裏面) 各学年におけるふり返りの記入(自分が頑張ったと思うことと自分が得たと思うことを箇条書きで記入：過小評価せずに自分ができたと感じることをできるだけ多く書くように助言)

以下□内の手順は学年進行に合わせ、次年度以降に実施予定の内容です。  
平成 28 年度は、無視していただいて結構です。

- 2) A4 縦型フラットファイルを事前に準備させ、ポートフォリオ①②③を返却しつづらせる。
- 3) これまでのポートフォリオをもとに4年間を振り返る。ふり返りでは、自分の目標の変化および達成の蓄積を確認し、自分が将来やりたいと思っていること (will) と 自分ができる (can) と考えることを具体化するよう助言する。これをもとに自己PRをA4 ルーズリーフ 1枚程度にまとめてフラットファイルにつづらせる（この自己PRは春休み中の課題の予備的なものです）。
- 4) 以下の春休み中の課題を提示する。

**<5年生までの課題> (必要に応じて春休み中に以下の課題をフラットファイルにつづり提出)**

- 1) 希望進路に対する志望動機を、A4 ルーズリーフ1枚程度を目標に記し、フラットファイルにつづらせる。  
ここでその企業もしくは大学がどのような人材 (must) を求めているのか、自分は将来何をやりたいと思っているのか (will) の重ね合わせを意識し、これらを含めて記入するように指導する。
- 2) 志望企業もしくは大学に向けた自己PRを、A4 ルーズリーフ1枚程度を目標に記し、フラットファイルにつづらせる。  
ここでその企業もしくは大学がどのような人材 (must) を求めているのか、自分は何ができる可能性があるのか (can) の重ね合わせを意識し、自分がその企業や大学にとって戦力になり得る可能性を表現するように指導する。
- 3) このフラットファイルは本人、担任、コーディネータ間で共有し、履歴書やエントリーシートを作成する際の資料として用いる。
- 4) 進路決定後、本人に返却する。この際、できれば新しい進路に向けポートフォリオ①の目標記入欄ならびにふり返り欄を自主的に埋め、新しい進路に備えることを促してください。

**【以下は、趣旨説明です】**

ポートフォリオ①～③に記されている will, can, must はキャリアデザインにおいて重要な要素であり、これを分析し、重ね合わせについて考えるようなトレーニングを研修として行っている企業も多くあります。以下を一読し、ポートフォリオ①～③を記入させる際のご助言に活用ください。

**<自分の未来をどう築くか>**

キャリアデザインには3つの要素があります。

Will・・・自分の意志（やりたいこと、やることに対する目標、目的）

自分で選択し変える自由度が高い

Can・・・自分の能力（自分の得意とするところ、不得意とするところ）

自分で選択し変える自由度はあるが限界もある

Must・・・しなければならないこと（まわりからの要求）

自分では何ともできないことが多い



この調和が大切！

(←・・・離れているを意味、→・・・重なっているを意味)

この3つが完全に不一致だと



自分の意志→しなければいけないこと

・・・不満、いやな気分など。

自分の意志→能力

・・・やりたいことが能力不足のために達成できず。

やらなければならないこと→能力

・・・与えられた課題が達成できず。

この3つが少しでも多く調和していると



自分の意志→しなければいけないこと

・・・楽しい、自発的に取り組めるなど。

自分の意志→能力

・・・やりたいことが能力を使い達成できる。

やらなければならないこと→能力

・・・与えられた課題を達成でき、自発的意志が働く。

どうやってより多く重ね合わせる？

大切な3つのポイント

1. 自分がやりたいこと (過去からの自己分析・いろいろな経験しながら変わってもいいことに注意!)  
・・・自分はどんなことが好き？何をやりたいと思っているの？(より具体的にしてみる)
2. 自分がやらなければいけないこと (環境分析)  
・・・社会から求められる力、学生としては何？(社会で起きていること、周りからの要求を意識)
3. 自分の能力は (過去、そしてチャレンジからの自己分析)  
・・・WillとMustを達成するためにどんな力が必要？今の自分にその力はどれくらい？  
(いろんなことにチャレンジしながら、自分の能力と向き合い伸ばしていく。出来た、出来そうと感じることが大切)

つまり、高専生活の中で

自分が将来やってみたいこと (Will) について自問自答し、

自分ができること (Can) を意識的に増やし、

あなたが進む社会からどのようなことが望まれるのか (Must) について分析しながら過ごしてください。

このために目標をたて、意識しながら活動し、

その活動結果をもとに自分の成長を確認していくのが、私のポートフォリオです。

高専生活を有意義にするかどうかは他者ではなくあなた次第

「You are the CEO of your life. あなたはあなたの人生の最高経営責任者です！」

※ ポートフォリオとは、紙ばさみや書類をしまり折りカバンを意味しています。ここでは私の記録を蓄積していくものとなりますので、「私の記録集」という風にご説明ください。

ポートフォリオ ① (抜粋版)

入学 年度	平成 年度 入学・編入学
学科	学籍 番号

ふりがな			生年月日	性別
氏名			西暦 年(平成 年) 月 日生	
出身 学校	小学校	都道府県	年 月 卒業	
	中学校	都道府県	年 月 卒業	
	学校	都道府県	年 月 卒業	
高専入学前に頑張ったと思うこと(部活, 生徒会活動など)			高専入学前の取得資格	
ポートフォリオ②で記した各学年の目標を記してください。				
私の目標(WIII)			その目標を設定した理由	
1 年次	前期			
	後期			
2 年次	前期			
	後期			
3 年次	前期			
	後期			
4 年次	前期			
	後期			
5 年次	前期			
	後期			

**ポートフォリオ② 【前期】**

学年	学科	出席番号	氏名

(記入日 年 月 日)

1. 自分の未来像（30歳の時に職業人・技術者としてどうありたいか）（目指す企業・職種・ポジションなど） ※自分は何を目指し（Will）たいのか。	
2. 1の実現に向け、この学年で何を目標とするか（複数可） ※実現のために何が求められるのか（Must）を分析し目標に含める（社会人基礎力も意識）。 （達成度が測れ、1年以内に達成できそうな具体的な目標を設定してください）	
学業面（科目、資格・検定、課題管理、学び方など）	課外（クラス、学生会、部活動、地域など）
目標	目標
その目標を選択の理由	その目標を選択の理由
3. 自己分析	
目標に対し既にできていること	目標に対し既にできていること
目標に対して不足していること	目標に対して不足していること
4. 目標達成のための計画（出来ると実感できることが増えるように） ※目標達成のために何を、どこで、いつまでに、どのように実行するのか。	
5. ふり返り（計画の何が達成でき、何が未達かを具体的に記入するとともに感じられる成長を記入）	

**ポートフォリオ② 【後期】**

学年	学科	出席番号	氏名

(記入日 年 月 日)

<p>1. 自分の未来像(30歳の時に職業人・技術者としてどうありたいか)(目指す企業・職種・ポジションなど) ※自分は何を目指し(Will)たいのか。</p>	
<p>2. 1の実現に向け、この学年で何を目標とするか(複数可)            ※実現のために何が求められるのか(Must)を分析し目標に含める(社会人基礎力も意識)。            (達成度が測れ、1年以内に達成できそうな具体的な目標を設定してください)</p>	
<p>学業面(科目、資格・検定、課題管理、学び方など)</p>	<p>課外(クラス、学生会、部活動、地域など)</p>
<p>目標</p>	<p>目標</p>
<p>その目標を選択の理由</p>	<p>その目標を選択の理由</p>
<p>3. 自己分析</p>	
<p>目標に対し既にできていること</p>	<p>目標に対し既にできていること</p>
<p>目標に対して不足していること</p>	<p>目標に対して不足していること</p>
<p>4. 目標達成のための計画(出来ると実感できることが増えるように)            ※目標達成のために何を、どこで、いつまでに、どのように実行するのか。</p>	
<p>5. ふり返り(計画の何が達成でき、何が未達かを具体的に記入するとともに感じられる成長を記入)</p>	

**ポートフォリオ③ 就職・進学に向けて（3学年，4学年用）**

学年	学科	出席番号	氏名

**※進学希望者は第一希望の大学1校ならびに企業2社**（記入日 年 月 日）  
**について記入してください。**

1. 自分の未来像（30歳の時に職業人・技術者としてどうありたいか）（目指す企業・職種・ポジションなど）

--

2. 興味ある企業3社（進学希望者は第1志望の大学および企業2社について）  
 （知っている企業ばかりではなく，知らなかった企業も1社は含め，以下の項目について技術交流振興会冊子，HPなどから調べてまとめる）

企業・大学名	会社・大学概要（主力商品，大学の特色など）	求められている人材像（箇条書き）
選択理由		
選択理由		
企業名	会社概要・主力商品など	求められている人材像（箇条書き）
選択理由		
選択理由		
企業名	会社概要・主力商品など	求められている人材像（箇条書き）
選択理由		
選択理由		

3. 現在までに打ち込んできたこと（具体的な内容も合わせて記入）
4. 自己 PR（企業の求める人材像を参考にし、具体的なエピソードを交え自分の長所・短所を明らかにしながら記入）
5. 今後どんな自分をどうやって成長させたいか （何を、どこで、いつまでに、どのようにを具体的に記入）
6. 進路決定に向けたこの1年間の過ごし方（3ヶ月単位で4月～3月までを箇条書きで記入） インターンシップ、企業技術説明会、合同説明会などを含む
1月～3月（今年度）
4月～6月（次年度以降）
7月～9月
10月～12月
エントリーシート過去問データベース <a href="http://brilliantway.biz/">http://brilliantway.biz/</a> を参照し、企業が何を求めているかをリサーチしよう！ 各社のシートは今の自分で十分埋められるかを考えてみてください。

図 14. キャリアデザインポートフォリオ利用の手引き

## 2.5 豊田高専

紙媒体 T ファイル(web 上にアップ)を使用し、各学年の特別活動（ホームルームまたはアカデミックガイダンス）などにおいて、キャリア教育支援プログラムを実施した際に記録している。

<http://career.toyota-ct.ac.jp/groups/career/>

**豊田高専 キャリア教育支援室**

Web

タグ: gnews

2017年07月25日 更新

### T-ファイル - パーソナルポートフォリオ (2017年度)

T-ファイル（パーソナルポートフォリオ）とは、みなさんのキャリア教育活動を記録するファイルです。  
 自らの成長を確認するために使い、教員と保護者との間でも共有します。  
 T-ファイルのTは、Toyota（豊田高専）の頭文字をとったものです。

←2016年度（平成28年度）戻すこちら

ファイルの内容（共通部分）	資料	予定実施時期
表紙	T-File_表紙2017.pdf	
ようこそ！Tファイルへ	T-File_ようこそ2017.pdf	
キャリア教育支援について	T-File_キャリア教育2017.pdf	
キャリア教育支援プログラムの概要	T-File_プログラム概要2017.pdf	
キャリア教育プログラムの内容（1年）	T-File_プログラム内容1年2017.pdf	
T-ファイルの使い方	T-File_使い方2017.pdf	
学生生活と活動の記録	T-File_活動記録2017.pdf	
検定・資格チャレンジ結果	T-File_検定資格記録2017.pdf	
1年生		
学生心構え講座	配布資料	4月
将来イメージ講座	T-File_将来イメージ講座(1年).pdf	6月
合宿研修	しおり	6月
スキルアップ講座	T-File_スキルアップ講座2017.pdf	11月
2年生		
目標設定・確認講座	T-File_目標設定・確認講座(2年).pdf	4月
今の私・卒業後の私(1)	T-File_今の私・卒業後の私(1)(2年).pdf	6月
人間力講演会	T-File_人間力講演会2017.pdf	11月
3年生		
目標設定・確認講座	T-File_目標設定・確認講座(3年).pdf	4月
特別講演「社会が求める人材」	配布資料	5月
今の私・卒業後の私(3)	自分たちでまとめた資料	6月～7月
キャリア・プランニング	T-File_キャリアプランニング2017.pdf	10月
4年生		
目標設定・確認講座	T-File_目標設定・確認講座(4年).pdf	4月
ビジネスマナー講座	配布資料	7月
キャリア・プランニング	T-File_キャリアプランニング4年2017.pdf	10月
企業へのエントリー講座	配布資料	12月
就職活動支援講座	配布資料	11月
進学対策講座	配布資料	1月
女子学生のためのビューティアップ講座	配布資料	1月
履修歴の作成支援講座	配布資料	1月
自己表現力向上プログラム	配布資料	
模擬面接講座	配布資料	2月
同窓生による模擬面接講座	配布資料	3月
5年生		
社会人準備講座	T-File_社会人準備講座2017.pdf	

図 15. T-ファイル - パーソナルポートフォリオ画面

タグ general

編集済み 2019/03/25 17:30 清水利弘...

## キャリア教育支援プログラム (2019年度)

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
4月	<a href="#">学生心得講座 (4月17日)</a>	<a href="#">目標設定・確認講座 (4月10日)</a>	目標設定・確認	目標設定・確認	
5月			<a href="#">特別講演「社会が求める人材」 (5月22日)</a>		
6月	<a href="#">合宿研修(6月14日～15日)</a> <a href="#">将来イメージ講座 (6月14日)</a>	<a href="#">今の私・卒業後の私 ①(6月26日)</a>			
7月				<a href="#">ビジネスマナー講座(7月17日)</a>	
8月					
9月					
10月	<a href="#">スキルアップ講座 (10月23日)</a>		<a href="#">キャリア・プランニング</a>	<a href="#">キャリア・プランニング</a> 社会人準備講演会① 年金(10/23)	
11月			<a href="#">今の私・卒業後の私② (11月13日)</a>	<a href="#">就職活動支援講座(11月28日)</a>	社会人準備講演会②労働法・租税(11/28)
12月		<a href="#">人間力講演会(12月11日)</a>	<a href="#">今の私・卒業後の私② (12月11日)</a>	<a href="#">編入学説明会 (12月日)</a>	
1月				<a href="#">履歴書作成・添削講座 (1月日)</a> <a href="#">ドューティーアップ講座 (1月日)</a>	
2月				<a href="#">自己表現力向上プログラム (2月日)</a> <a href="#">模擬面接講座 (2月日)</a>	
3月				<a href="#">同窓生による模擬面接 (3月日)</a>	
その他	各種ガイダンス		校外実習報告会(聴講) 同窓会による講演会(12月4日)	校外実習報告会(発表・聴講) 同窓会による講演会(12月4日) 進路説明会 研修旅行(各学科)	裁判所見学

コメント

図 16. キャリア教育支援プログラム(2019 年度)



## 2.6 津山高専

紙媒体の「目標記録簿」を使用し、全ての学年で継続的に記録している。

# 目 標 記 録 簿



### 記録簿の目的

学生が本校の「教育理念・学習教育目標」を理解したうえで、5年間および学年ごとの学習などのキャリア形成に向けた目標を設定し、その目標を達成する環境を作る。そして半期ごとに自己を振り返り、意識を新たに目標に取り組む機会を提供する。

この「目標記録簿」を通して教員と学生とのコミュニケーションが活発となり、有効に活用されることを期待している。

学年・組	出席番号	担 任 (キャリアアドバイザー)
1年 組		
2年		
3年		
4年		
5年		

総合理工学科	系	氏名
平成 年度	入学	
電 自宅	E-mail	
話 携帯		

津山工業高等専門学校

## 高専志望理由

--

## 5年間の目標

学習目標
------

学習以外の目標
---------

## 将来の目標（入学時）

--

## 高専の技術者教育に関係する備えるべき能力

項 目	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
工学基礎 工学リテラシー（基礎的原理、実験・計画・分析方法等）、技術者倫理（知的財産、法令遵守、持続可能性等）、情報リテラシー、技術史、グローバリゼーション、異文化(多文化)理解のための知識を有し、自らの工学の分野に応用できる。					
コミュニケーションスキル 相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
合意形成 集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。					
情報収集・活用・発信力 ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。					
課題発見 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。					
論理的思考力 事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。					
主体性 身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。					
自己管理能力 日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。					
責任感 学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。					
チームワーク力 チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。					
リーダーシップ 先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。					
倫理観（独創性の尊重、公共心） 法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。					
未来志向性、キャリアデザイン力 未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。					
創成能力 現実を踏まえ、公衆の健康・安全や文化・社会・環境に配慮すべきことが理解できる。さらに、複合的な工学的課題や、需要に適合したシステム・構成要素・工程の設計に取り組むことができる。					
エンジニアリングデザイン能力 クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。					

(注) 5段階で評価

1 : ~30%, 2 : 31%~50%, 3 : 51%~70%, 4 : 71%~90%, 5 : 91%~

各学年の目標と自己評価

第1学年

今年度の目標  実現方法	自己評価と反省		担当者コメント
	前 期 末	(達成度 %)	
	学 年 末	(達成度 %)	

成績の推移 (進級要件 修得累計単位数26以上)

	前期中間	前期末	後期中間	学年末
順位				
80点以上の科目 (単位数)				
60点未満の科目 (単位数)				
欠課数の多い科目 (単位数)				
修得単位数	一般科目	単位	専門科目	単位

委員

--

所属部 (入賞記録)

--

資格等の取得計画 (資格名, 修得予定年月, 結果など)

--

特記事項 (入賞, ボランティア活動などの年月日, 内容)

--

第2学年

今年度の目標  実現方法	自己評価と反省		担当者コメント
	前 期 末	(達成度 %)	
	学 年 末	(達成度 %)	

成績の推移 (進級要件 修得累計単位数60以上、ただし、一般41, 専門9を含む)

	前期中間	前期末	後期中間	学年末
順位				
80点以上の科目 (単位数)				
60点未満の科目 (単位数)				
欠課数の多い科目 (単位数)				
修得単位数	一般科目	単位	専門科目	単位

未修得科目 (科目名, 単位数, 可否)

--

委員

--

所属部 (入賞記録)

--

資格等の取得計画 (資格名, 修得予定年月, 結果など)

--

特記事項 (入賞, ボランティア活動などの年月日, 内容)

--

第3学年

今年度の目標  実現方法	自己評価と反省		担当者コメント
	前期末	(達成度 %)	
	学年末	(達成度 %)	

成績の推移 (進級要件 修得累計単位数95以上、ただし、一般60、専門25を含む)

	前期中間	前期末	後期中間	学年末
順位				
80点以上の科目 (単位数)				
60点未満の科目 (単位数)				
欠課数の多い科目 (単位数)				
修得単位数	一般科目	単位	専門科目	単位

未修得科目 (科目名, 単位数, 可否)

--

委員

--

所属部 (入賞記録)

--

資格等の取得計画 (資格名, 修得予定年月, 結果など)

--

特記事項 (入賞, ボランティア活動などの年月日, 内容)

--

第4学年

今年度の目標  実現方法	自己評価と反省		担当者コメント
	前 期 末	(達成度 %)	
	学 年 末	(達成度 %)	

成績の推移 (進級要件 修得累計単位数132以上. ただし, 一般71, 専門51を含む)

	前期中間	前期末	後期中間	学年末
順位				
80点以上の 科目 (単位数)				
60点未満の 科目 (単位数)				
欠課数の多い 科目 (単位数)				
修得単位数	一般科目	単位	専門科目	単位

未修得科目 (科目名, 単位数, 可否)

--

委員

--

所属部 (入賞記録)

--

資格等の取得計画 (資格名, 修得予定年月, 結果など)

--

特記事項 (入賞, ボランティア活動などの年月日, 内容)

--

第5学年

今年度の目標  実現方法	自己評価と反省		担当者コメント
	前 期 末	(達成度 %)	
	学 年 末	(達成度 %)	

成績の推移 (卒業要件 修得累計単位数167以上。ただし、一般75、専門82を含む)

	前期中間	前期末	後期中間	学年末
順位				
80点以上の科目 (単位数)				
60点未満の科目 (単位数)				
欠課数の多い科目 (単位数)				
修得単位数	一般科目	単位	専門科目	単位

未修得科目 (科目名, 単位数, 可否)

--

委員

--

所属部 (入賞記録)

--

資格等の取得計画 (資格名, 修得予定年月, 結果など)

--

特記事項 (入賞, ボランティア活動などの年月日, 内容)

--

卒業時の達成度評価（入学時の高専5年間の目標に対する自己評価と感想）

--

将来の目標（卒業時）

--

教育理念

確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成する。

学習教育目標に対する達成度評価

内 容		1年	2年	3年	4年	5年
学習教育目標	① 教養豊かな実践的人間力を有している。					
	② 確かな基礎科学の知識を有している。					
	③ 基盤となる専門性を深化させている。					
	④ 分野横断的な融合力を有している。					
	⑤ グローバルな視点と社会性を有している。					
	⑥ 課題探求・解決能力を有している。					
	⑦ コミュニケーション力・プレゼンテーション力を有している。					

(注) 学習教育目標を達成するために修得している単位数に照らし合わせて5段階で評価

1 : ~30%, 2 : 31%~50%, 3 : 51%~70%, 4 : 71%~90%, 5 : 91%~

図 17. 目標記録簿



## 2.7 呉高専

学校全体で実施しているインキュベーションワークで自己評価シート・プロジェクトシート・最終報告書など（全て電子ファイル）を使用し、記録している。活動内容はホームページ上でも公開している。

最終報告書

提出期限：2月1日（金）17:00

提出先：指導教員

テーマ名

代表者 ○○学科 高専 太郎 ほか○○名  
(指導教員 ◇◇◇◇)

要旨：要旨を4~5行程度で書くこと。

この報告書はインキュベーションワークの各テーマについて、1年間の活動をまとめて報告するための資料です。今年度取り組んだテーマ内容についてグループの代表学生を中心に報告書を作成してください。作成するメンバーは各テーマに任せるので、担当の先生と相談しながら作成してください。報告書全体の構成や体裁はこのテンプレートを参考にすること。

- 1. テーマの目的・目標  
例えば、「本テーマは「○○○○」であり、○○○  
○することを目標として一年間活動を行った。以下  
活動内容の詳細について説明する」など。
- 2. 活動スケジュール  
1年間のグループとしての活動スケジュールを簡  
潔に記述する。  
4月：活動内容の検討など  
5月：  
6月：  
7月：  
8月：中間報告会の準備および発表など。  
9月：  
10月：  
11月：  
12月：  
1月：最終報告会の準備および発表など。  
2月：最終報告書の作成など  
3月：予定がある場合のみ記載。
- 3. 活動内容  
前節のスケジュールに従って、各テーマの活動内  
容を記述すること。図や写真を挿入しても良いので  
分かりやすくまとめて説明すること。(最適な図や写  
真の大きさと枚数にすること。)
- 4. 外部との連携内容（必要に応じて）  
外部と連携した場合は、連携先と内容を書くこと。
- 5. テーマの成果または活動結果  
テーマの目標をどこまで実現または達成するこ  
とができたのかを説明する。
- 6. まとめ
- 7. 参考文献（必要に応じて）
  - 1) 論文等の場合「著者名：表題、誌名、Vol.No.、掲載ベ  
ージ、発行年月」の順とする。
  - 2) 単行本の場合「著（編）者名：書名、発行所名、発行  
年」の順とする。
  - 3) コンテストなどに参加した場合は、そのホームペー  
ジのアドレスを記載する。
  - 4) 著者名は姓だけでなく、必ず姓名で記す。
  - 5) 発行年月日は、原則として西暦で「1995.1」「1995.2」  
のように記す。
- ① 報告書の規格  
原稿は A4 判 Word の電子ファイルを原本とする。  
枚数は **2ページ(2ページ目の8割以上)**とする。  
本文は2段組で構成する。1行あたり22文字で1  
頁は50行程度。本テンプレートに準じた形で報告書  
を作成すること。(上端・下端マージン 20 mm, 左端・  
右端マージン 20 mm, 段組の中央マージン 10 mm)。  
(フォーマットを勝手に変更したファイルは提出し  
たとは見なしません。)
- ② 報告書の構成  
報告書の構成は下記による。レイアウト例を参考し  
て記述すること。
  - (1) テーマ名と代表者氏名・所属・指導教員名。
  - (2) 要旨(4~5行程度)。
  - (3) 本文(本文は図・表・写真を含め、テーマ  
の目的・目標、活動スケジュール、活動内容、テ  
ーマの成果または活動結果、まとめて構成し、必要  
に応じて外部との連携状況内容、参考文献などを追加  
して下さい。)
- ③ 提出期限および提出先  
2月1日(金)の17:00までに、担当教員に提出し  
て下さい。Word形式の電子ファイルをメール添付  
またはUSBに入れて提出すること。  
担当教員およびグループの学生と相談し、内容を  
確認しながら報告書を仕上げること。

図 18. H30 最終報告書

平成30年度インキュベーションワーク プロジェクトシート(グループ) 前期

テーマ名 呉・広島企業と連携した商品開発プロジェクト 「伝統工芸熊野筆」

グループメンバー	リーダー名+他0名			教員名			
カテゴリ:	地域課題・社会課題	企業連携型	研究・専門型	レベル:	実践・実務	主伴比	入門
1 どれか一つにOLしてください。				1 どれか一つにOLしてください。			

1. このテーマの目的を書いてください。

広島熊野筆は、国内だけでなく世界が誇る高品質品としての定評を多くの人に知られていて、その一方で伝統工芸であるが故に「ライン」限定にされてしまったり、高級品であるために利用客層が限定されているという問題がある。このテーマは伝統工芸の竹葉素材と連携して新しい商品開発を行うことを目的とする。

2. 前期の達成すべき具体的な成果を書いてください。

※後期に地域社会や他者(学校)に役立つ(貢献する)活動をするために前期で何をやるのかを具体的に書いてください。前期で地域社会や他者(学校)に役立つ(貢献する)成果を目指す場合は、その旨も成果を具体的に書いてください。

- 熊野筆に関する基礎知識を身につける
- 熊野筆の新しい機能やデザインなどアイデアを提案する
- 既存の商品と熊野筆とのコラボ商品など販売戦略(マーケティング)を提案する
- 後期の具体的な目標と活動計画を立てる

3. グループの1年間の活動内容とスケジュールを書いてください。

※特に前期のスケジュールおよび成果を具体的にイメージすること

活動内容	責任者	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降	前期達成率
調査等を中心	全組	←→						10%
市場調査	高野 太郎		←→					20%
アイデア提案	高野 太郎			←→				30%
企画とマーケティング	高野 太郎	←→		←→	←→	) 企画書とマーケティング資料の作成		30%
制作	高 太郎					←→		10%
販売	高 太郎						←→	0%
報告書提出	高野 太郎						←→	2%
								5%
								5%
								2%

4. 本プロジェクトを実行するために必要な予算(物品、旅費、謝金など)を書いてください。

- 物品  
熊野筆のサンプル 筆3本 1000円  
3Dプリンタの材料費 10000円
- 旅費  
プロジェクトをOCC(コンテスト)で発表するための旅費 10000円

※電子データはmoodleにアップします。

(1/2月金)までに作成し、電子データで担当教員へ提出してください。

平成29年度インキュベーションワーク プロジェクトシート(グループ) 後半								
テーマ名: 呉・広島企業と連携した商品開発プロジェクト ～伝統工芸熊野筆～								
グループメンバー					教員名			
カテゴリ:	地域課題・社会課題型	企業連携型	研究・専門型		レベル:	実践・貢献	主体化	入門
↓どれか一つに○してください。					↓どれか一つに○してください。			
1. このテーマの目的を書いてください。								
<p>広島熊野筆は、国内だけでなく世界が認める最高級品質の化粧筆として多くの人に利用されている。その一方で伝統工芸であるが強にデザインが固定化されていたり、高級品であるために利用者層が限定されているという問題がある。このテーマは化粧筆工房の竹宝堂様と連携して新しい商品開発を行うことを目的とする。</p>								
教員補足								
2. 以下の点を意識して、後期の具体的な成果を書いてください。地域課題解決、イベント開催の模様、商品開発、研究論文など								
※地域社会や他者（学外）にどのように役立つ（貢献する）のか。								
<p>1. 熊野筆の新しい機能やデザインなどアイデアを提案し、試作と評価を行う。          2. 既存の商品と熊野筆とのコブホ商品など販売戦略（マーケティング）を提案し、データに基づいた検証と評価を行う。          熊野筆の新しい商品開発を行うことで、筆市場の活性化や熊野地域に貢献する。</p>								
教員補足								
3. グループの1年間の活動内容とスケジュールを書いてください。								
※特に前半のスケジュールおよび中間までの成果を具体的にイメージすること								
活動内容	責任者	9月	10月	11月	12月	1月	2月～3月	達成度
熊野筆を知る	全員							100%
市場調査	林							100%
アイデア提案	光永							100%
企業とミーティング	吉川	←→		←→	←→	随時報告と修正の繰り返し (試行錯誤)		100%
デザイン決定	上寺	←→						100%
コンテスト応募	兼地		←→					100%
試作1	山岡		←→					100%
試作2	上寺				←→	←→		90%
納品	川勝						←→	90%
最終報告	林						←→	100%
4. 本プロジェクトを実行するために必要な予算（物品、旅費、謝金など）を書いてください。								
<p>物品          熊野筆のサンプル: 筆5本 20000円          3Dプリンタの材料費: 20000円          旅費          プロジェクトを○○コンテストで発表するための旅費: 10000円</p>								

図 19. IW プロジェクトシート(前期、後期)

平成29年度インキュベーションワーク プロジェクトシート(グループ) 後期

テーマ名

グループメンバー				職員名			
カテゴリ	地域課題・社会課題	企業課題	研究・学術	レベル	実証・実践	三休休	入件

1とれが一つにOLしてください。

1とれが一つにOLしてください。

1. このテーマの目的を書いてください。

Blank text area for writing the purpose of the theme.

2. 以下の点を念置して、後期の具体的な成果を書いてください。(地域課題解決 / 社会課題解決 / 企業課題解決 / 研究・学術)

※調査結果として、具体的な物事(事例)にどのように役立つ(貢献する)かな。

Blank text area for writing specific outcomes.

3. グループの1年間の活動内容とスケジュールを書いてください。

※特に前半のスケジュールおよび中間までの成果を具体的にイメージすること

活動内容	責任者	8月	9月	10月	11月	12月	1年	2年-3月	達成度
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%
									0%

4. 本プロジェクトを実行するために必要な予算(物品、雑費、謝金など)を書いてください。

Blank text area for writing the budget.

図 20. IW プロジェクトシートグループ 2 (後期)

H30年度インキュベーションワーク自己評価シート

氏名	性別	生年	所属部署	所属課				
<p>《前期》 個人の役割と活動内容</p>			<p>《後期》 個人の役割と活動内容</p>					
自己分析・活動状況	評価項目	期待	前期半	後期半	最終半(報告)			
		期待する能力	自己評価	本人のコメント理由	自己評価	本人のコメント理由	他人の評価	最終コメント理由
	スケジュール管理	効率化にて出来る 遅れは時にスケジュールをやり直す スケジュールどおりにする	→		→		→	
	情報共有	リーダーに伝わっているか 仲間には伝わっているか 自分には伝わっているか 連携先には伝わっているか	→		→		→	
	やり取りの速	グループの目標を達成するために、自分の役割を積極的に最後まで果たすことに取り組んだ。	→		→		→	
成果の完成度	自分の役割の成果のクオリティ(品質)レベルはどうかであったか。	→		→		→		

図 21. H30IW 自己評価シート

## 2.8 大分高専

入学時に全学生にポートフォリオの冊子を配布し、成績管理や学習教育目標や学習科目に関する達成度チェックなどができるようにしている。学生各自でこの冊子に自己の学習歴を綴り込むことを想定している。

# ポートフォリオ 2018

## (Portfolio)

学籍番号

氏名

---

大分工業高等専門学校

## 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的として掲げています。この教育目的を実現するために本教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」では、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した8のサブ目標を定めています。この教育プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) **愛の精神**：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A 1) 自ら考える力を身につける
  - (A 2) 技術者としての倫理を身につける
  
- (B) **科学や工学の基礎**：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
  
- (C) **コミュニケーション能力**：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
  
- (D) **技術者としてのセンス**：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D 1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
  
- (E) **専門工学の活用**：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける

## 平成 30 年度 授業時間割表

前 期

1 限 8 : 50 ~ 10 : 20    2 限 10 : 30 ~ 12 : 00    3 限 13 : 00 ~ 14 : 30    4 限 14 : 40 ~ 16 : 10

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

後 期

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					



## 授 業 時 間

※ チャイムは、8：40 と 13：00 と 19：00 に鳴ります。

※ 授業に遅刻をしないように準備しましょう。

※ 休み時間に電子掲示板を確認しましょう。

チャイム	8：40
S H R	8：40～ 8：50
1 限	8：50～10：20
2 限	10：30～12：00

### 休 憩

チャイム	13：00
3 限	13：00～14：30
4 限	14：40～16：10
5 限	16：20～17：50

## 平成 30 年度成績表綴り

クラス \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

年 4 回（前期中間後・前期末後・後期中間後・学年末後）成績表・成績関連プリントが配付されますので、その都度以下の表に記入して保管しましょう。

① 前期中間試験

自己平均点	クラス平均点	Aの科目数	Bの科目数	Cの科目数	Dの科目数

② 前期末試験

自己平均点	クラス平均点	Aの科目数	Bの科目数	Cの科目数	Dの科目数

③ 後期中間試験

自己平均点	クラス平均点	Aの科目数	Bの科目数	Cの科目数	Dの科目数

④ 学年末試験

自己平均点	クラス平均点	Aの科目数	Bの科目数	Cの科目数	Dの科目数

年度初めに、保持する追認科目を記録し、確認しましょう。

年度	学年	科 目 名	単位数	1回目 点数	2回目 点数	3回目 点数	備 考

# 学習・教育目標 準学士課程



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**大分工業高等専門学校**  
 National Institute of Technology, Oita College

教育目的「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」

■ 準学士課程で養成する人材像

1. 5年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者
2. 対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者



技術者が培うべき資質や能力		準学士課程における到達目標		到達目標の具体的な内容		評価方法
A	愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょくしみの心を身につける	A1	自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	社会系必修科目を修得
			A2	技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いっしょくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	特別活動を履修
B	科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B1	数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	数学、自然科学、体育系の必修科目を修得
			B2	情報技術、専門工学の基礎を身につける	(1) 専門性に即して問題を振り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	情報技術系、専門の必修科目を修得
C	コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションで生きる力を身につける	C1	表現する力、ディスカッションする力を身につける	(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	国語系の必修科目を修得
			C2	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語系の必修科目を修得
D	技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D1	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術的対象に対して、計測法を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	必修の実験・実習、卒業研究を修得
			D2	協力して問題を解決する力を身につける	(1) チームで問題に取り組み体験を得ること	PMIに対応する実験・実習、または校外実習単位を修得
E	専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける			※準学士課程では、Eについて具体的な到達目標は定めていませんが、得來、技術者としてより高く羽ばたけるように、Eの力の修得にも各自で取り組んで下さい。 なお、専攻科では、Eの力を修得するための科目を準備しています。	

## 本科 学習・教育目標達成度自己評価チェック表

学習・教育目標の準学士課程で達成すべき具体的目標について、あなたの現時点での達成度を5段階で自己評価して下さい。シラバス(ポートフォリオ)の「授業科目系統図」も参考にして下さい。

クラス \_\_\_\_\_ 番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

学習・教育目標(標語)	サブ目標&達成すべき具体的目標	達成度評価 (該当する評価に○)	根 拠
A 愛の精神 世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける	(A1) 自ら考える力を身につける (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	5 4 3 2 1	
	(A2) 技術者としての倫理を身につける (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いっしょの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	5 4 3 2 1	
B 科学や工学の基礎 科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B1) 数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	5 4 3 2 1	
	(B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げるよで土台となる情報技術と専門基礎知識があること	5 4 3 2 1	
C コミュニケーション能力 地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	5 4 3 2 1	
	(C2) 英語力を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	5 4 3 2 1	
D 技術者としてのセンス 創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	(D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	5 4 3 2 1	
	(D2) 協力して問題を解決する力を身につける (1) チームで問題に取り組む体験を得ること	5 4 3 2 1	
E 専門工学の活用 専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E1) 専門工学の知識を習得する	5 4 3 2 1	
	(E2) 工学の相互関連性を理解する	5 4 3 2 1	
	(E3) 専門分野における研究開発の体験をとおして問題を発見し、解決する力を身につける	5 4 3 2 1	

※ 「E 専門工学の活用」：自己評価ができる場合は記入して下さい。

今後の取組みを具体的に記入してください。

(コメント・面談記録等)

印

【 担任(指導教員)は横印後に保管用のコピーを教養プログラム資料室へ提出して下さい 】

別表第 1

## 一 般 科 目

(各学科共通)

平成25～27年度入学生に適用

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必 修 科 目	国語	4	2	2				
	現代語	2						
	地本	1						
	政治	1	1					
	現代	1	1					
	社会	1		2				
	歴史	2	2					
	地理	2		2				
	理学	2						
	I	4	4					
	II	4	4					
	III	4		4				
	代	4						
	式	2						
	I	3	3					
	II	3						
	I	5	2	3				
	II	9	2	2	2	2	1	
	III	2	2					
	IV	2	2					
	V	2						
VI	2		2					
VI	2		2					
VI	2			2				
VI	2			2				
VI	2				2			
VI	1	1						
選 修 必 修	1	1					1 科目修得 (同時開講)	
音 楽	1	1						
書 道	1	1						
小 計	79	30	26	16	6	1		
選 択 科 目	経 済	2					2	文系選択 I (同時開講)
	法 学	2					2	文系選択 II (同時開講)
	学 史	2					2	文系選択 III (同時開講)
	格 国	1					1	外国語選択 (同時開講)
	下 イ	1					1	
	中 格	1					1	
	下 イ	1					1	
	中 格	1					1	
	下 イ	1					1	
	学 理	1					1	
	数 学	1					1	
	論 理	1					1	
	小 計	19	0	0	0	4	15	
	開 設 単 位 数	98	30	26	16	10	16	
履 修 可 能 単 位 数	85	28	26	16	8	7		

別表第2

## 専 門 科 目

(機械工学科)

平成27年度入学生に適用

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	応用物理学ⅠⅡ	2			2		
	機械材料基礎	2			2		
	機械材料	1	1				
	応用数学ⅠⅡ	1			1		
	機械工学ⅠⅡ	1			1		
	機械工学ⅠⅡ	2		2			
	材料力学ⅠⅡ	1			1		
	材料力学ⅠⅡ	2			2		
	材料力学ⅠⅡ	2			2		
	材料力学ⅠⅡ	1		1			
	材料力学ⅠⅡ	2			2		
	機械設計ⅠⅡ	1			1		
	機械設計ⅠⅡ	4				4	学修単位
	熱力学ⅠⅡ	1				1	
	熱力学ⅠⅡ	2				2	
	熱力学ⅠⅡ	2				2	
	熱力学ⅠⅡ	1					1
	情報工学ⅠⅡ	2			2		
	情報工学ⅠⅡ	1			1		
	メカトロニクスⅠ	1				1	
メカトロニクスⅠ	1					1	
機械製図ⅠⅡⅢ	2	2					
機械製図ⅠⅡⅢ	2		2				
機械製図ⅠⅡⅢ	1			1			
エンジニアリングデザインⅠ	1					1	
機械実習ⅠⅡ	3	3					
機械実習ⅠⅡ	4		4				
工学実習ⅠⅡⅢ	4			4			
工学設計ⅠⅡ	2				4	2	
工学設計ⅠⅡ	2				2		
工学設計ⅠⅡ	2					2	
卒業研究	10					10	
小 計	79	7	8	18	28	18	
選 択 科 目	機械数学Ⅱ	1				1	
	応用物理学Ⅱ	1				1	
	材料力学Ⅰ	1				1	
	材料力学Ⅱ	1				1	
	流体力学	1				1	
	熱力学	1				1	
	機械工学Ⅱ	1				1	
	メカトロニクスⅡ	1				1	
	工業調査	1				1	
	工業英語	1				1	外国語選択と同時開講
校外実習	(1)				(1)		
小 計	12	0	0	0	0	12	
開設可能単位数合計	91	7	8	18	28	30	
履修可能単位数合計	91	7	8	18	28	30	

### 平成27年度入学生に適用 単位修得計画表(機械工学科)

クラス 番号 氏名

記入要領: ①願掛けの単位で修得済み単位は赤ペンで○、修得予定単位は鉛筆で○をして、「一般科目修得単位数」と「専門科目修得単位数」欄にそれぞれ予定を含む合計単位を記入する。  
 ②1～4年生は左下の「進級判定」の表に予定を含む合計単位を記入し、5年生は「卒業判定」の表に予定を含む合計単位を記入する。  
 ③4、5年生は※印を確認し、該当する進級要件若しくは卒業要件について、満足する計画になっていれば、※に鉛筆で○をする。

授業科目	単位数	学年・単位数					選択分類
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語総合	4	2	2				
現代文学	2		2				
地域日本文化	1			1			
日本語表現法	1				1		
現代社会	1	1					
政治・経済	1	1					
日本史	2	2					
世界史	2		2				
倫理	2		2				
地理	2			2			
基礎数学Ⅰ	4	4					
基礎数学Ⅱ	4	4					
微積分Ⅰ	4		4				
微積分Ⅱ	4			4			
線形代数	4		4				
微分方程式	2			2			
物理学Ⅰ	3	3					
物理学Ⅱ	3		3				
化学	5	2	3				
健康・体育	9	2	2	2	2	1	
英語ⅠA	2	2					
英語ⅠB	2	2					
英語ⅡA	2		2				
英語ⅡB	2		2				
英語ⅢA	2			2			
英語ⅢB	2			2			
英語Ⅳ	2				2		
英語Ⅴ	1	1					
英語Ⅵ	1	1					
言語芸術	1						一科目修得
修得可能単位小計	77	28	26	16	6	1	

一般科目修得単位数					
一般科目修得可能単位数	85	28	26	16	8

#### 修得単位の累計(予定含む)

進級判定	学年			
	1年	2年	3年	4年
必要単位数	25	59	93	129
修得単位数				

※ 5年への進級には、3年以下の全ての必修科目を修得していること。  
 ※ 5年への進級には、校外実習・課題学修・特別学修を算入せずに129単位を満足していること。

卒業判定	卒業要件	
	一般(≥75)	専門(≥82)
合計(≥157)		
5・5年での合計(≥152)		

※卒業要件の75、82、157単位には、課題学修・特別学修・校外実習を算入してよい。  
 ※卒業要件の62単位には、課題学修・特別学修を算入していないこと。ただし、校外実習は算入してよい。  
 ※卒業には、全ての必修科目を修得していること。

授業科目	単位数	学年・単位数					選択分類
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用物理Ⅰ	2			2			
応用物理Ⅱ	2				2		
機械基礎	1		1				
材料と加工	1	1					
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
機械工作法Ⅰ	2		2				
機械工作法Ⅱ	1			1			
工業力学Ⅰ	2			2			
材料力学Ⅰ	2			2			
材料力学Ⅱ	2				2		
材料力学Ⅲ	1			1			
材料力学Ⅳ	2				2		
機械設計Ⅰ	1			1			
機械設計Ⅱ	4				4		学修単位
機械力学Ⅰ	1			1			
熱力学Ⅰ	2			2			
熱力学Ⅱ	2			2			
水力学	2			2			
熱工学Ⅰ	1					1	
機械工学Ⅰ	2			2			
情報工学Ⅰ	1			1			
情報工学Ⅱ	1				1		
自動制御	1				1		
メカトロニクスⅠ	1					1	
工学倫理Ⅰ	1					1	
機械図Ⅰ	2	2					
機械図Ⅱ	2		2				
機械図Ⅲ	1			1			
PBL	1				1		
エンジニアリングデザイン	1					1	
機械実習Ⅰ	3	3					
機械実習Ⅱ	4		4				
工学実験Ⅰ	4			4			
工学実験Ⅱ	4				4		
工学実験Ⅲ	2				2		
設計製図Ⅰ	2				2		
設計製図Ⅱ	2				2		
設計製図Ⅲ	2					2	
卒業研究	10						10
修得可能単位小計	79	7	8	18	28	18	

選 択 目 的	学年				
	1年	2年	3年	4年	5年
機械数学					
応用数学ⅡB					
材料力学演習					
トライボロジー					
熱力学・水力学演習					
流体機械					
熱機関工学					
機械力学Ⅱ					
メカトロニクスⅡ					
計測工学Ⅱ					
工業英語Ⅰ					
工業英語Ⅱ					
校外実習	(1)				(1)
課題学修					
修得可能単位小計	12	0	0	0	12

専門科目修得単位数						担任印
専門科目修得可能単位数	91	7	8	18	28	30

平成 30 年度 前期行事予定表

[ 4月1日 ~ 6月30日 ]

は講義をしない日 是授業曜日変更 是補講日等 ☆☆☆◇■□は備考を参照してください。

日	4 月		5 月		6 月	
	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
1 日	春季休業	春季休業	火 4		金 7	
2 月			水 4		土 7	
3 火	学校運営委員会・教員会議 開会		木 4	憲法記念日	日 7	
4 水	入学式、編入学式 入学式 始業式(対面式) ★オリエンテーション	★入学式 入学式 健康診断(1・2年) ☆教員70%以上説明会(1・2年)	金 4	みどりの日	月 7	3年以下臨時休業 特別研究員中間発表会
5 木			土 4	こどもの日	火 8	圖書受付(学力)
6 金	◆授業開始	◆授業開始	日 4		水 8	
7 土			月 4		木 8	
8 日			火 4		金 8	
9 月			水 4		土 8	
10 火	追認試験最終切		木 4		日 8	
11 水			金 4		月 8	
12 木	単位修得計画確認		土 4		火 8	全(圖書16時必要)
13 金	★新入生オリエンテーション ★健康診断(2~4年生)	健康診断(予備日)	日 4	後援会総会・保護者会	水 8	前期中間試験
14 土			月 5	校内授業公開週間	木 8	教員会議
15 日			火 5	球技大会(雨天決行)	金 8	
16 月	追認試験		水 5		土 8	定期試験予備日
17 火			木 5		日 8	
18 水			金 5	教員会議	月 8	
19 木			土 5		火 8	
20 金			日 5		水 8	
21 土	履修評議・追加最終切	履修最終切	月 6		木 8	
22 日			火 6		金 8	
23 月	開校記念日	開校記念日	水 6		土 8	
24 火			木 6		日 8	選抜試験(学力)
25 水			金 6		月 8	
26 木			土 6		火 8	
27 金			日 6		水 8	
28 土			月 7		木 8	
29 日	昭和の日	昭和の日	火 7		金 8	午前・午後授業 オープンキャンパス準備
30 月	振替休日	振替休日	水 7		土 8	オープンキャンパス
31 日			木 7	追認試験結果最終切	日 8	オープンキャンパス
備 考	★ 5日 1年・5年及び4年の 指導学生は健康診断 教員70%以上説明会	★ 4日 1年生 オリエンテーション 修了要件チェック表・ 修了予定確認票点検日	クリーン週間 教育・心理検査(1年生)	クリーン週間	中学校訪問 2年生・新規バイク通学者 バイク安全運転教育	
	☆ 13日 4年教員70%以上説明会 ◆ 8日 養生生活説明会	☆ 5日 2年生 修了要件チェック表・ 修了予定確認票点検日 ◆ 6日 養生生活説明会	◆ 日 前期寮生総会 ◇ 日 消防訓練 ★ 20日 学生会総会	◆ 日 前期寮生総会 ◇ 日 消防訓練	★ 日~ 日 県高校総体 ☆ 日 テクノフォーラム ◆ 日 県内講演会	☆ 日 テクノフォーラム ◆ 日 県内講演会
	(特休)学年初めの計画書提出 (特休)1・2年バイク安全運転教育		□ 9日 TOEIC-IPテスト ■ 27日 工業英検試験	□ 9日 TOEIC-IPテスト ■ 27日 工業英検試験		



# 平成 30 年度 前期行事予定表

[ 7月1日 ~ 9月30日 ]

□ は講義をしない日    ■ は授業曜日変更    ▨ は補講日等    ☆☆☆◇■□ は備考を参照してください。

日	7 月		8 月		9 月	
	曜	本 科	曜	本 科	曜	本 科
1	日		水		土	
2	月		木	学校運営委員会 教員会議	日	
3	火		金		月	
4	水		土	定期試験予備日	火	
5	木		日		水	
6	金		月		木	
7	土		火		金	
8	日		水	試験解説・指導期間	土	
9	月		木		日	
10	火		金	HR 閉寮 成績締切 17:00	月	
11	水	高専大会杜行会	土	山の日 夏季休業	火	
12	木		日		水	
13	金	午前・午前授業 午後・放課 九州地区高専大会	月		木	
14	土		火		金	
15	日		水		土	
16	月	海の日	木		日	
17	火		金		月	敬老の日
18	水		土		火	
19	木	全曜日授業 教員会議 (前期末試験日程発表) 九州地区高専大会 臨時休業	日		水	
20	金		月		木	学校運営委員会 教員会議(本週有休)
21	土		火		金	学期初年度の計画管理課 等出申請(サークル)記入日 学生課(サークル)記入日
22	日		水		土	
23	月		木		日	秋分の日
24	火		金		月	振替休日 閉寮
25	水		土		火	HR(全学年全校日) ◆ 高専大会年報発表会 50- ◆ 学生会制等 50-
26	木		日		水	秋季研修期間 ★ 旅行期間
27	金		月	成績発送予定	木	
28	土		火		金	種約書締切(学力) 文献調査報告締切
29	日		水		土	
30	月		木		日	
31	火	前期末試験	金		月	
備	中学校訪問 13日~15日 高専体育大会(バスケット) 20日~23日 高専体育大会(野球) 21日~22日 高専体育大会(卓球、剣道) 西日本高専空手道大会 九州地区高専少年剣道大会 九州沖縄地区高専弓道大会		中学校訪問 21日~23日 全国高専体育大会(テニス) 25日~26日 全国高専体育大会(柔道) 全国高専特研大会( ) 九州地区高専英語弁論大会		中学校訪問 ◆ ポートフォリオ点検日 ★ 旅行期間 2泊3日 4年研修旅行 日帰り 2年研修旅行 1泊2日 3年校外研修 ◆ 電気設備年次点検 ◇ 電気設備年次点検	
考	実施実習説明会				◆ 終了要件確認日 9月 日~10月 日(デュー) 学位申請(通例) 9月 日~10月 日(デュー) 学位申請(特例) ◇ 電気設備年次点検	

平成 30 年度 後期行事予定表(案)

[ 10月1日 ~ 12月31日 ]

□ は講義をしない日 ■ は授業曜日変更 ▨ は補講日等 ☆☆☆◇○■□ は備考を参照してください。

日	10 月		11 月		12 月	
	曜	本 科	曜	本 科	曜	本 科
1	月	後期授業開始 5年生授業なし	木		土	
2	火		金		日	
3	水		土	文化の日 音楽祭	月	後期中間試験
4	木		日		火	読書受付(社会人)
5	金		月		水	
6	土		火	読書受付(編入学)	木	
7	日		水	□	金	(読書16時必着)
8	月	体育の日	木	(読書16時必着)	土	定期試験予備日
9	火		金	追加試験結果締切	日	
10	水		土	保護者会(1~4年)	月	
11	木	体育祭	日		火	
12	金		月	校内授業公開週間	水	
13	土		火		木	
14	日		水	学生会選挙 教員会議 保護者授業参観日	金	特別研究Ⅱ論文締切
15	月	履修辞退・追加履修切	木	保護者授業参観日	土	選抜試験(社会人)
16	火		金		日	
17	水		土	編入学試験	月	
18	木	(体育祭予備日)	日		火	
19	金	教員会議	月		水	
20	土		火	全曜日授業	木	教員会議
21	日		水	学校運営委員会(判定)	金	閉寮
22	月		木	教員会議(判定)	土	閉寮
23	火		金	勤労感謝の日	日	天皇誕生日
24	水		土		月	振替休日
25	木		日		火	冬季休業
26	金	高専祭準備	月	合格発表(編入)	水	
27	土	高専祭	火		木	
28	日	高専祭片付け	水		金	
29	月		木		土	校舎閉鎖(閉庁)
30	火		金		日	
31	水		土		月	
備	中学校訪問 入試説明会(本校・日) 日 寮生リーダー研修 ◇ 日 後期寮生総会 日 実用英語 27日~28日 全国英専プロコン ☆ 21日 九州ロボコン(久留米会場) △ 31日午後 同窓会記念講演会		□ 7日 13:00~ 防災訓練 クリーン週間 ~ 日 九州地区ラビー大会 10日~11日 全国英専デザコン ☆ 日 ロボコン全国大会 11日 工業英検試験		☆ 日 テクノフォーラム ☆ (従来の)学位授与機構 小論文試験(東京・大阪) □ 日午後 大分英専・大分大平 合同研究発表会 ☆ 日 テクノフォーラム ☆ (従来の)学位授与機構 小論文試験(東京・大阪) □ 日午後 大分英専・大分大平 合同研究発表会	

平成 30 年度 後期行事予定表(案)

[ 1月1日 ~ 3月31日 ]

□ は講義をしない日   ■ は授業曜日変更   ■ は補講日等   ☆☆☆◇■□ は備考を参照してください。

日	1 月		2 月		3 月	
	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
1	火 元日	元日	金 12		金	
2	水		土		土	
3	木		日		日	
4	金		月 13	確約書締切(推薦) 学年末試験 (願書16時必着)	月 13	☆成績確認日 ポートフォリオ点検
5	土		火	推薦試験(1年は1回まで)	火	☆成績確認日(1年)
6	日	開寮	水	自1総合試験(2年)	水	合格者面接
7	月 10	推薦願書受付	木	自2総合試験(2年)	木	推薦3日7時30分まで利定済
8	火 11		金	試験開始・後期試験(2年)	金	運営委員会(卒業判定) 教員会議(卒業判定)
9	水 11	(願書16時必着)	土	定期試験予備日	土	
10	木 11	確約書締切(社会人)	日	定期試験予備日	日	
11	金 11		月	建国記念の日	月	
12	土		火	★12年学生アンケート 成績締切(2年)	火	
13	日		水	教員3年成績確認(12時まで) 単位認定会議(2年)	水	
14	月 成人の日	成人の日	木		木	教員会議(進級判定)
15	火	特別研究1審査委員会	金	試験結果・指導要領 ★推薦書等添付・決着	金	
16	水 12		土	試験結果・指導要領 ★12年1単位取得後試験開始	土	
17	木		日	学力検査	日	
18	金 12		月	臨時休業	月	卒業式(第52回)
19	土	推薦選抜試験	火	臨時休業	火	修了式(第15回)
20	日		水	推薦委員会(入試判定) 教員会議(入試判定)	水	
21	月 11		木	★第1次閉寮	木	春分の日
22	火 12	運営委員会(推薦判定)	金	★第1次閉寮	金	春分の日
23	水 13		土		土	
24	木 12	推薦選抜結果通知 (学年末試験日程発表)	日		日	
25	金		月	再試験 合格発表	月	
26	土		火		火	
27	日		水	成績締切(17:00) 最終閉寮	水	
28	月 12	入学願書受付	木	学年末休業	木	
29	火 13		金		金	
30	水		土		土	
31	木 13	推薦試験結果締切	日		日	
備	日～日 全国卓球リーグ大会 日～日 全国卓球選手権プレシオンテスト	教育2709/9M説明会	◆ 15日午前中 ★ 22日 学生アンケート 進成度チェック書記入 13:00～退席者挨拶 結業式(1～4年)	◆ 12日午前中 ★ 12日 2年 学生アンケート 進成度チェック書記入 22日 1年 学生アンケート 進成度チェック書記入 1年2年 13:00～退席者挨拶 学生との情報交換会(1～3年) 日～日 (特別)学業課室との共有設備 変更等話し 修了要件チェック表・ 修了予定確認票点検日	☆ 4日 成績確認 11:00～ 日～日 校内推薦書センター	☆ 4日 成績確認 11:00～ 修了要件チェック表・ 修了予定確認票点検日
考	◆ 日 要領 □ 9日 TOEIC・IPテスト TOEIC Bridge(1・2・3年)	◆ 日 要領 □ 9日 TOEIC・IPテスト				

図 22. H30 ポートフォリオ冊子本科

専攻科  
ポートフォリオ 2018  
(Portfolio)

学籍番号

氏名

---

大分工業高等専門学校

## 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」を教育目的として掲げております。この教育目的を実現するために本教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」では、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標を定めています。この教育プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) **愛の精神**：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける
  - (A 1) 自ら考える力を身につける
  - (A 2) 技術者としての倫理を身につける
  
- (B) **科学や工学の基礎**：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
  
- (C) **コミュニケーション能力**：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
  
- (D) **技術者としてのセンス**：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D 1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
  
- (E) **専門工学の活用**：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E 1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E 2) 工学の相互関連性を理解する
  - (E 3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

## 平成 30 年度 授業時間割表

前 期

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

後 期

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

## 授 業 時 間

※ チャイムは、8：40 と 13：00 と 19：00 に鳴ります。

※ 授業に遅刻をしないように準備しましょう。

※ 休み時間に電子掲示板を確認しましょう。

チャイム	8：40
S H R	8：40～ 8：50
1 限	8：50～10：20
2 限	10：30～12：00

### 休 憩

チャイム	13：00
3 限	13：00～14：30
4 限	14：40～16：10
5 限	16：20～17：50

## 平成 30 年度成績表綴り

年2回（前期試験後・後期試験後）成績表・成績関連プリントが配付されますので、次の頁に綴じて保管しておきましょう。

### ① 前期末試験

自己平均点	クラス平均点	AA の数	A の数	B の数	C の数	D の数

### ② 後期末試験

自己平均点	クラス平均点	AA の数	A の数	B の数	C の数	D の数

### 修得単位数

平成 29 年度 修得単位数合計数	一 般 科 目	共 通 専 門 科 目	専 門 科 目
	単位	単位	単位



# 学習・教育目標 専攻科課程

システムデザイン工学プログラム (JABEE認定教育プログラム)



独立行政法人 国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校

National Institute of Technology, Oita College

教育目的「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」

■ 専攻科課程で養成する人材像

1. 高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材
2. 自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者



技術者が培うべき資質や能力		専攻科課程における到達目標	到達目標の具体的な内容	評価方法	
A	愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いづくしみの心を身につける	A1 自ら考える力を身につける A2 技術者としての倫理を身につける	(1) 自然や人間の活動を地学的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること (4) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (5) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること	「システムデザイン工学プログラム」履修の手引きの別表2を参照
		科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B1 数学、自然科学の力を身につける B2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 数学、自然科学の知識を活用して、自然現象の本質や問題を解けること (3) 自主的、継続的に学習できること (4) 専門性に即して問題を振り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること (5) 自主的、継続的に学習できること	
C	コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションでできる力を身につける	C1 表現する力、ディスカッションする力を身につける C2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること (2) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること	
		創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D1 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける D2 協力して問題を解決する力を身につける	(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために問題をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く振り下げる努力ができること (4) 問題をチームで解決する体験を得ること (5) 問題解決を分相化し、自らの分野を見定めて行動できること	
E	専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E1 専門工学の知識を獲得する E2 工学の相互関連性を理解する E3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける	(1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く振り下げるのできる専門工学の知識があること (2) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (3) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること (4) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を把握し、その対応知識あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること	

## 専攻科 学習・教育目標達成度自己評価チェック表

学習・教育目標の達成すべき具体的目標(履修の手引き参照)について、あなたの現時点での達成度を5段階で自己評価して下さい。シラバス(ポートフォリオ)の「授業科目系統図」も参考にして下さい。

クラス	番号	氏名	記入日	年	月	日
<b>学習・教育目標(標語)</b>	<b>サブ目標&amp;達成すべき具体的目標</b>		<b>達成度評価</b> (該当する評価に○)	<b>根 拠</b>		
<b>A 愛の精神</b>  世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける	<b>(A1) 自ら考える力を身につける</b> (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること		5 4 3 2 1			
	<b>(A2) 技術者としての倫理を身につける</b> (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること		5 4 3 2 1			
<b>B 科学や工学の基礎</b>  科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	<b>(B1) 数学、自然科学の力を身につける</b> (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 数学、自然科学の知識を活用して、自然現象の本質を問う問題が解けること (3) 自主的、継続的に学習できること		5 4 3 2 1			
	<b>(B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける</b> (1) 専門性に即して問題を振り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること (2) 自主的、継続的に学習できること		5 4 3 2 1			
<b>C コミュニケーション能力</b>  地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	<b>(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける</b> (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること		5 4 3 2 1			
	<b>(C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける</b> (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること		5 4 3 2 1			
<b>D 技術者としてのセンス</b>  創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	<b>(D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける</b> (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること		5 4 3 2 1			
	<b>(D2) 協力して問題を解決する力を身につける</b> (1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分業化し、自らの分業を見定めて行動できること		5 4 3 2 1			
<b>E 専門工学の活用</b>  専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	<b>(E1) 専門工学の知識を習得する</b> (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること		5 4 3 2 1			
	<b>(E2) 工学の相互関連性を理解する</b> (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること		5 4 3 2 1			
	<b>(E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける</b> (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること		5 4 3 2 1			

今後の取組みを具体的に記入してください。

(コメント・面談記録等)

印

【担任(指導教員)は検印後に保管用のコピーを教育プログラム資料室へ提出して下さい】

# 平成 30 年度 前期行事予定表

[ 4月1日 ~ 6月30日 ]

は講義をしない日 是授業曜日変更 是補講日等 ☆☆☆◇■□は備考を参照してください。

日	4 月		5 月		6 月	
	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
1 日	春季休業	春季休業	火 4		金 7	(前期中間試験日程発表)
2 月			水 4		土 7	★
3 火	学校運営委員会・教員会議 開章		木 5	憲法記念日	日 8	★
4 水	入学式、編入学式 入寮式	★ 入学式 入寮式	金 6	みどりの日	月 9	3年以下臨時休業 特別研究Ⅱ中間発表会
5 木	始業式(対面式) ★オリエンテーション	健康診断(1・2年) ★教育プログラム説明会(1・2年)	土 7	こどもの日	火 10	圖書受付(学力)
6 金	◆授業開始	◆授業開始	日 8		水 11	
7 土			月 9		木 12	
8 日			火 10		金 13	
9 月	追認試験最終切		水 11		土 14	
10 火			木 12		日 15	
11 水	単位修得計画確認		金 13		月 16	
12 木			土 14		火 17	前期中間試験
13 金	新入生オリエンテーション ★健康診断(2~4年生)	健康診断(予備日)	日 15	後援会総会・保護者会	水 18	後援会総会・保護者会
14 土			月 16	校内授業公開週間	木 19	校内授業公開週間
15 日			火 17	球技大会(雨天決行)	金 20	球技大会(雨天決行)
16 月	追認試験		水 18		土 21	教員会議
17 火			木 19		日 22	
18 水			金 20		月 23	定期試験予備日
19 木			土 21		火 24	
20 金	履修辞退・追加履修切	履修届締切	日 22		水 25	選抜試験(推薦)
21 土			月 23		木 26	選抜試験(学力)
22 日	開校記念日	開校記念日	火 24		金 27	
23 月			水 25		土 28	
24 火			木 26		日 29	
25 水			金 27		月 30	
26 木			土 28		火 31	
27 金			日 29		水 1	
28 土			月 30		木 2	
29 日	昭和の日	昭和の日	火 31		金 3	
30 月	監禁休日	監禁休日	水 1		土 4	
31 日			木 2	追認試験結果締切	日 6	破約書締切(推薦)
備 考	★ 5日 1年・5年及び4年の指導学生は健康診断教育プログラム説明会 ☆ 13日 4年教育プログラム説明会 ◆ 6日 寮生活説明会 3年~5年バイク安全運転教育	★ 4日 1年生オリエンテーション 修了要件チェック表・修了予定確認票点検日 ☆ 5日 2年生修了要件チェック表・修了予定確認票点検日 ◆ 6日 寮生活説明会 (特例)学修総まとめ計画書提出(校内) 1~2年バイク安全運転教育	クリーン週間 教育・心理検査(1年生) ◆ 日 前期寮生総会 ◇ 日 寮防災訓練 ★ 23日 学生会総会 □ 9日 TOEIC・IPテスト ■ 27日 工業英検試験	クリーン週間 ◆ 日 前期寮生総会 ◇ 日 寮防災訓練 □ 9日 TOEIC・IPテスト ■ 27日 工業英検試験	中学校訪問 2年生・新規バイク通学者バイク安全運転教育 ★ 日~ 日 県高校総体 ☆ 日 テクノフォーラム ◆ 日 寮内講演会	☆ 日 テクノフォーラム ◆ 日 寮内講演会

# 平成 30 年度 前期行事予定表

[ 7月1日 ~ 9月30日 ]

  は講義をしない日 
   は授業曜日変更 
   は補講日等 
 ☆★◆◇■□は備考を参照してください。

日	7 月		8 月		9 月	
	曜	本 科	曜	本 科	曜	本 科
1	日		水		土	
2	月		木	学校運営委員会 教員会議	日	
3	火		金		月	
4	水		土	定期試験予備日	火	
5	木		日		水	
6	金		月		木	
7	土		火		金	
8	日		水	試験解説・指導期間	土	
9	月		木		日	
10	火		金	HR 閉寮 成績締切 17:00	月	
11	水	高専大会壮行会	土	HR 閉寮 成績締切 17:00 夏季休業 山の日	火	
12	木		日		水	
13	金	午前・午前授業 午後・放課 九州地区高専大会	月		木	
14	土		火		金	
15	日		水		土	
16	月	海の日	木		日	
17	火		金		月	敬老の日
18	水		土		火	敬老の日
19	木	全曜日授業 教員会議 (前期末試験日程発表)	日		水	
20	金	九州地区高専大会 臨時休業	月		木	学校運営委員会 教員会議(本庭懇話会)
21	土		火		金	学校前までの計画書提出 学位申請(サークル)入力日
22	日		水		土	学校申請(サークル)入力日
23	月		木		日	秋分の日
24	火		金		月	振替休日 閉寮
25	水		土		火	HR(全学年昼校日) ◆ 高専大会等報告会 8:50~ ◆ 秋学期研修期間 ★ 旅行期間
26	木		日		水	◆ 学生会制等 8:50~
27	金		月	成績発送予定	木	
28	土		火		金	履約書締切(学力) 文庫調査報告締切
29	日		水		土	
30	月		木		日	
31	火	前期末試験	金			
備 考	中学校訪問 13日~15日 高専体育大会(バスケット) 20日~23日 高専体育大会(野球) 21日~22日 高専体育大会(卓球、剣道)  西日本高専空手道大会 九州地区高専少林寺拳法大会 九州沖縄地区高専弓道大会		中学校訪問 21日~23日 全国高専体育大会(テニス) 25日~26日 全国高専体育大会(柔道)  全国高専相撲大会( ) 九州地区高専英語弁論大会		中学校訪問 ◆ ポートフォリオ点検日 ★ 旅行期間 2泊3日 4年研修旅行 日帰り 2年秋豊旅行 1泊2日 3年校外研修  ◇ 電気設備年次点検	
	実務実習説明会				◆ 修了要件確認日 9月 日~10月 日(デー々) 学位申請(通例) 9月 日~10月 日(デー々) 学位申請(特別)  ◇ 電気設備年次点検	

平成 30 年度 後期行事予定表(案)

[ 10月1日 ~ 12月31日 ]

は講義をしない日 是授業曜日変更 是補講日等 ☆☆☆◇■□は備考を参照してください。

日	10 月		11 月		12 月	
	曜	本 科	曜	本 科	曜	本 科
1	月	後期授業開始 5年生授業なし	木		土	
2	火		金		日	
3	水		土	文化の日 音楽祭	月	後期中間試験
4	木		日		火	読書受付(社会人)
5	金		月		水	
6	土		火	読書受付(編入学)	木	
7	日		水		金	(読書16時必着)
8	月	体育の日	木	(読書16時必着)	土	定期試験予備日
9	火		金	遠征試験結果締切	日	
10	水		土	保護者会(1~4年)	月	
11	木	体育祭	日	保護者会(1年)	火	
12	金		月	校内授業公開週間	水	
13	土		火		木	
14	日		水		金	
15	月	履修辞退・追加履修締切	木	学生会選挙 教員会議 保護者授業参観日	土	特別研究Ⅱ論文締切 選抜試験(社会人)
16	火		金		日	
17	水		土	編入学試験	月	
18	木	(体育祭予備日)	日		火	
19	金	教員会議	月		水	
20	土		火	全曜日授業	木	教員会議
21	日		水	学校運営委員会(判定)	金	専攻科運営委員会(判定)
22	月		木	教員会議(判定)	土	合格発表(社会人)
23	火		金	(後期中間試験日程発表)	日	閉寮
24	水		土	勤労感謝の日	月	天皇誕生日
25	木		日		火	天皇誕生日
26	金	高専祭準備	月	合格発表(編入)	水	冬季休業↑
27	土	高専祭	火		木	冬季休業↑
28	日	高専祭片付け	水		金	
29	月		木		土	校舎閉鎖(閉庁)
30	火		金		日	
31	水		土		月	
備	中学校訪問 入試説明会(本校: 日) 日 寮生リーダー研修 ◇ 日 後期寮生総会 ◆ 日 実用英検 考		□ 7日 13:00~ 防災訓練 グリーン週間 ~ 日 九州地区ラグビー大会 10日~11日 全国高専デザコン ☆ 日 ロボコン全国大会 ■ 11日 工業英検試験		☆ 日 テクノフォーラム ◆ (従来)学位授与機構 小論文試験(東京、大阪) □ 日午後 大分高専・大分大学 合同研究発表会 □ 日午後 大分高専・大分大学 合同研究発表会	

平成 30 年度 後期行事予定表(案)

[ 1月1日 ~ 3月31日 ]

□ は講義をしない日 ■ は授業曜日変更 ■ は補講日等 ★☆☆◇■□ は備考を参照してください。

日	1 月		2 月		3 月	
	曜	本 科	曜	本 科	曜	本 科
1	火	元日	金		金	
2	水		土		土	
3	木		日		日	
4	金		月		月	☆成績確認日
5	土		火	確約書締切(推薦) 学年末試験 (開書16時必着)	火	☆成績確認日(1年) ポートフォリオ点検
6	日	開寮	水		水	合格者面接
7	月	推薦願書受付	木		木	推薦プログラムの終了予定日
8	火		金		金	運営委員会(卒業判定) 教員会議(卒業判定)
9	水	(開書16時必着)	土	定期試験予備日	土	
10	木		日		日	
11	金		月	建国記念の日	月	
12	土		火		火	
13	日		水		水	
14	月	成人の日	木		木	教員会議(進級判定)
15	火		金	試験解説・指導期間 ◆検査室等準備・清掃	金	
16	水		土		土	
17	木		日	学力検査	日	
18	金		月	臨時休業	月	卒業式(第52回)
19	土	推薦選抜試験	火		火	修了式(第15回)
20	日		水		水	
21	月		木	運営委員会(入試判定) 教員会議(入試判定)	木	春分の日
22	火	運営委員会(推薦判定)	金	★第1次閉寮	金	
23	水		土		土	
24	木	推薦選抜結果通知 (学年末試験日程発表)	日		日	
25	金		月	再試験 合格発表	月	
26	土		火		火	
27	日		水	成績締切(17:00) 最終閉寮	水	
28	月	入学願書受付	木	学年末休業	木	
29	火		金		金	
30	水		土		土	
31	木		日		日	
備	日～日 全国高等学校ラグビー大会 日～日 全国高等学校バレーボール選手権大会 ☆ クラブリーダー研修 (25日放課後～26日)	教育プログラム説明会	◆ 15日午前中 ★ 22日 学生アンケート 達成度チェック表記入 13:00～退席者挨拶 終業式(1～4年)	◆ 15日午前中 ★ 12日 2年 学生アンケート 達成度チェック表記入 22日 3年 学生アンケート 達成度チェック表記入 1年2年 13:00～退席者挨拶 学生との情報交換会(1, 2年) 日～日 (特別)卒業記念の科目成果 要旨等提出 修了条件チェック表・ 修了予定確認票点検日	☆ 4日 成績確認 11:00～ 日～日 校内実習集中セミナー	☆ 4日 成績確認 11:00～ 修了条件チェック表・ 修了予定確認票点検日
考	◆ 日 要祭 □ 9日 TOEIC-IPテスト TOEIC Bridge(1・2・3年)	◆ 日 要祭 □ 9日 TOEIC-IPテスト				

図 23. H30 ポートフォリオ冊子専攻科

## 2.9 都城高専

情報基礎 I（1年全学科・40名・2単位・通年2時間）と情報基礎 II（2年電気情報工学科、物質工学科、建築学科・40名・2単位・通年2時間）という授業で、紙媒体を使用し学生が記録している。（※一例として情報基礎 I の資料を参考資料とする。）

科目名 (英略表記)		情報基礎 I Information Basics I				ポータルページ	
学年・学科	1年・全学科	単位・期間	必修2単位・通年			<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員	中村 博立	連絡先	電子計算機センター内 研究室	オフィスア ワー	大塚 昌 年 曜 日 午後4時20分～	【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。	
【授業目的】		学校や家庭や職場で用いられる情報の活用・発信の手続き、情報の処理・通信の技術の概要の理解と、活用・発信の初歩的技術の修得、情報セキュリティ及び活用・発信における個人の責任や対策の理解を目的とする。				【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、誘電体についてはあまり理解できなかった。	
【履修上の注意】		履修は履修表に記述すること。履修日は記述できず必ず履修日の欄に記入すること。学年次別の履修を前提に各授業について履修する旨を記述すること。一度履修した授業は以降履修なく使用する。後半部分のペーパー演習がある。これらそれぞれの単位の履修単位をそれぞれ下げるために、それぞれ単位の履修にそれぞれ対応することもある。履修を履修システムに反映するためには必ず履修を完了すること。電力供給装置などについては必ずしも履修しない。				【試験の留意】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。	
【事前に行う準備学習や自己学習】		提示する課題に自ら準備学習や準備で取り組むこと。試験では説明や用語記述の時間も多いので、課題以外にも、普段から教材に目を通すなど復習をすること。				【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。	
【達成目標】		1) 情報のデジタル表現を理解し説明やデータ量の計算ができること。 2) コンピュータ及びネットワークのしくみの概要を理解し説明ができること。 3) 情報社会におけるルールやモラルを理解し説明ができること。				ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。	
【事前に行う準備学習や自己学習】		提示する課題に自ら準備学習や準備で取り組むこと。試験では説明や用語記述の時間も多いので、課題以外にも、普段から教材に目を通すなど復習をすること。				<教員が記入する上での注意事項> 教員は、②が付いているところだけを記入すること。	
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 ( A )	標準的な到達レベルの目安 ( B )	未到達レベルの目安 ( C )			ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。	
評価到達目標項目1	情報のデジタル表現を理解し、主要な概念を正しく説明でき、データ量に関して正しく計算できる。	情報のデジタル表現の関連する概念の一部を正しく説明でき、一部のデータ量に関する計算が正しくできる。	情報のデジタル表現の一部の事実を縮約でき、データ量に関する計算の一部の事実を縮約できる。			【自己評価】 A ・ B ・ C	
評価到達目標項目2	CPU、五大機能、ネットワークの動作を理解し、主要な概念を正しく説明できる。	CPU、五大機能、ネットワークの関連する概念を正しく説明できる。	CPU、五大機能、ネットワークの一部の事実を縮約できる。			【自己評価】 A ・ B ・ C	
評価到達目標項目3	情報社会におけるルールやモラルを理解し、主要な概念を正しく説明できる。	情報社会におけるルールやモラルについて関連する概念を正しく説明できる。	情報社会におけるルールやモラルについて一部の事実を縮約できる。			【自己評価】 A ・ B ・ C	
						【自己評価】 A ・ B ・ C	
到達度評価 ( % )							
評価項目	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	総 題	合 計
	総合評価割合	80				20	100
知識の基本的な理解	60					10	70
思考・理解・創造への適応力	20					10	30
汎用的技能							
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習態度と創造的思考力							
成績の評価方法について ・実力養成試験を含む8回の定期的試験(各16%)と、演習・レポート等の総題(20%)で評価する							
評価基準について ・総合評価60点以上を合格とする							
【教科書】 改訂版高専学校情報の科学(飯村博池、敬研出版)、30時間でマスターOJc2016(Windows10対応)(美数出版)							
【参考資料】 情報の科学サポートノート(編著簿件)(敬研出版)、ポイント整理情報モラル4th Edition(敬研出版)							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(前半年) 2-1				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(後半年・実技科)							

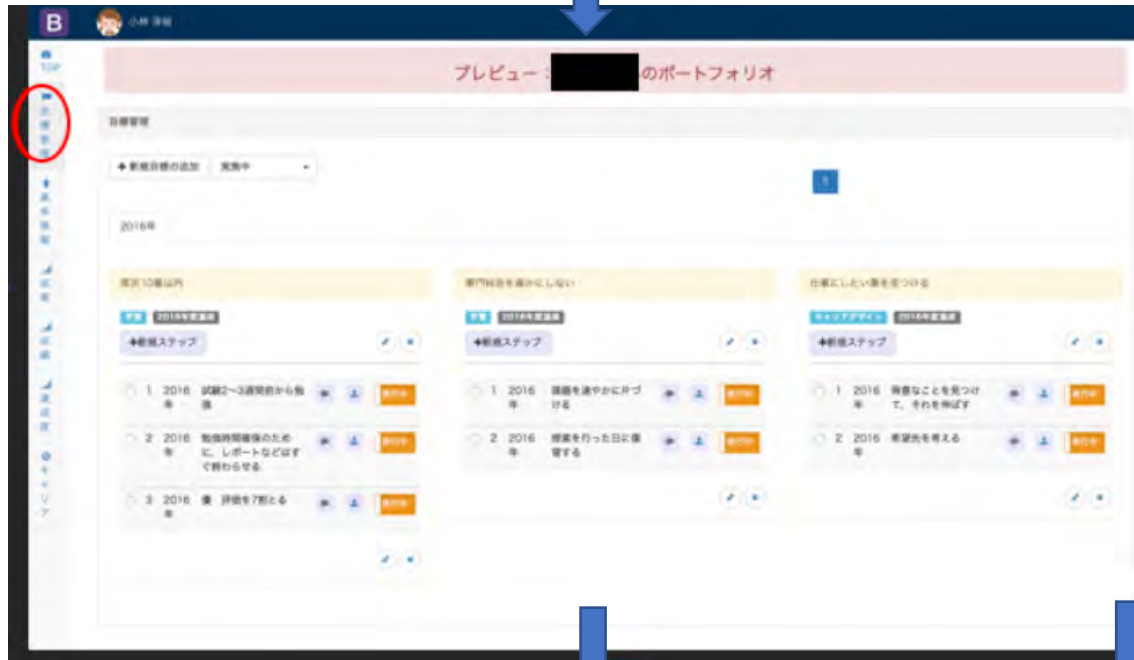
【授業内容】		【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授業要目	内容	時間
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	0.5
記号と名称、パソコン操作、タッチタイプ	数週間以内に、呼び名から記号が書けるようになる。	1.5
情報システムと人間(課4-1)、タッチタイプ	情報システムと人の関わりについて理解し説明ができる。指の担当、平元不注意、タッチタイプの利点と理解ができる。	2
同上	同上	2
情報のデジタル表現(課1-2)、タッチタイプ	ビット、バイト、換算値を理解し説明ができる。	2
情報のデジタル表現(課1-2)	2進数、10進数、16進数の間で正整数を書き直すことができる。	2
情報社会の光と影(課4-2)、タッチタイプ	サイバー犯罪について理解し説明ができる。	2
同上	ネットトラブルについて理解し説明ができる。ゆくりでも、多く関連しても、誤解を生まないで安全に入力ができる。	2
ワープロソフト演習、タッチタイプ	日本語の入力、修正、保存ができる。ローマ字表記の区別について理解し適切なローマ字を入力できる。	2
前期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
情報社会の光と影(課4-2)、タッチタイプ	電子メールの利点と欠点、迷惑メールについて理解し説明ができる。	1
情報セキュリティの確保(課4-3)	認証、暗号について理解し説明ができる。	2
同上	ウイルス、ウイルス対策について理解し説明ができる。	2
表計算ソフト演習	数値や文字の入力、修正、保存ができる。	2
情報セキュリティの確保(課4-3)	ファイバー攻撃、セキュリティ対策について理解し説明ができる。	2
表計算ソフト演習	数式と集計関数を用いた簡単な集計ができる。	2
前期末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
実力養成試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説	1
情報社会における他と他人の責任(課4-4)	ネット社会での生活と関係した責任を理解し説明ができる。匿名性の責任を理解し、著作権の内容を説明ができる。	1
情報、メディア、情報とメディア、インターネットの活用(課題)	情報とメディアの性質を理解し説明ができる。Web検索ができる。	2
コンピュータのしくみ(課1-1)	コンピュータの基本構成と基本ソフトの役割を理解し説明ができる。	2
表計算ソフト演習	文字、音声の基本的表現を理解し量的な計算ができる。	2
情報のデジタル表現(課1-2)	A/D変換について理解し手順を説明できる。	2
表計算ソフト演習	算術のある作表ができる。簡単なグラフ化ができる。条件判定と順応付ができる。	2
情報のデジタル表現(課1-2)	静止画像と動画の基本的表現を理解し量的な計算ができる。	2
ワープロソフト演習	書式設定、文字位置設定、文字修飾ができる。	2
後期中間試験		1
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
インターネットのしくみ(課2-1、2-2)	LAN、WAN、プロトコルを理解し説明ができる。	1
表計算ソフト演習	縦軸、横軸のあるグラフを作成できる。	2
インターネットのしくみ(課2-2)	ルーター、IPアドレス、ドメイン名、名前解決を理解し説明ができる。	2
表計算ソフト演習	数式で計算させてグラフ化ができる。	2
問題解決(課3-1)	モデル化とデータ分析の基本的用語を理解し説明ができる。	2
ワープロソフト演習	段落、半角全角判定、ルビ、段組のある文章を作成できる。	2
学年末試験		(1)
試験答案の返却及び解説	試験問題の解説及びポートフォリオの記入	1
	合計時間	61
【備考】		

図 24. 情報基礎 I のシラバスを利用したポートフォリオ



## 2.10 函館高専

高専機構のポートフォリオに入力し、学生自身が長期目標と短期目標を入力するようにしており、折々で振り返りさせている。



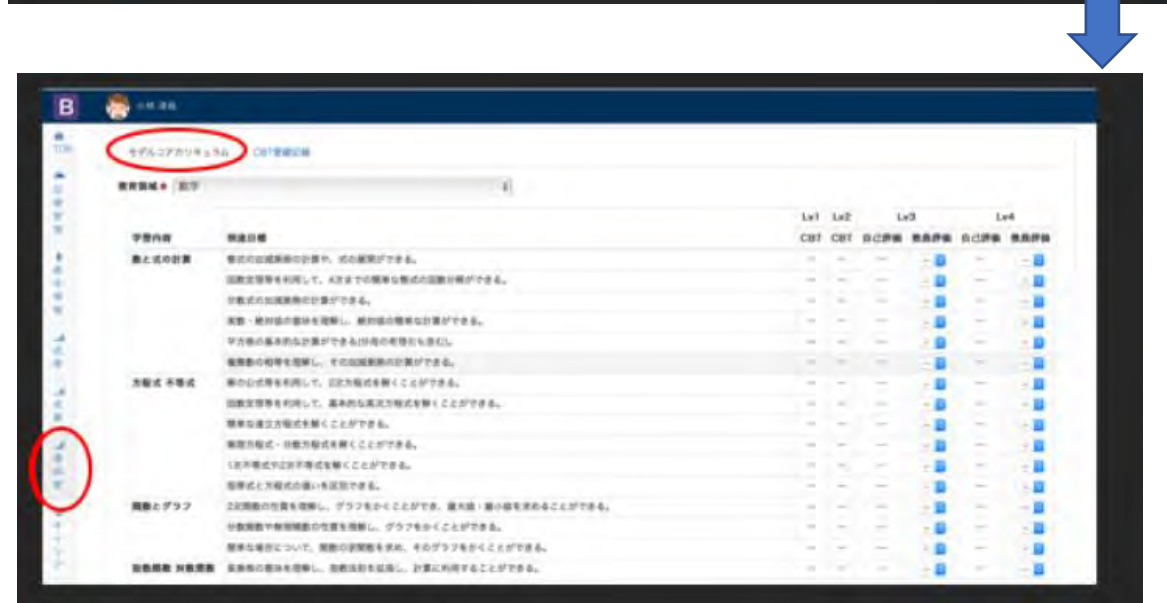




図 25. 高専ポートフォリオシステム画面

## 2.11 徳山高専

キャリア学習履歴管理システム（略称：きやり Pi）にて、全学生に、キャリア教育支援プログラムの一環として入力をお勧めしている。

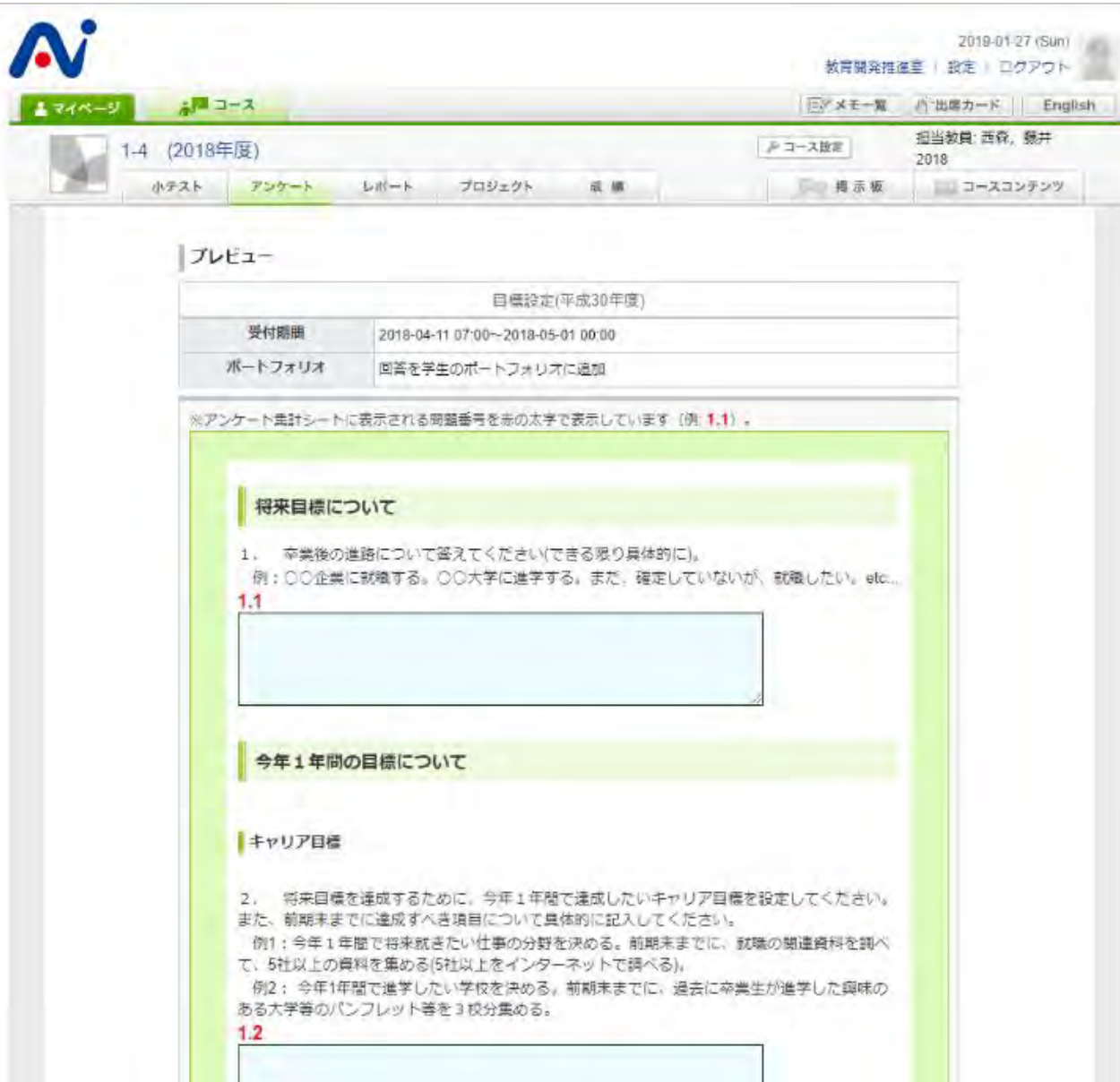


年度	プログラム名	種類	開催日	対象半	ML	ST	詳細
2018	キャリアガイダンス⑧(本科4年生・専攻科1年生)【2018年度】	単立ち支援	2018/04/13	4	0	有効	▶
2018	「進路支援セミナー第1回」(インターンシップに備えての)電話のかけ方・メール・添え状の書き方講座【2018年度】	単立ち支援	2018/04/18	4, 専1	1	無効	▶
2018	「進路支援セミナー第2回」求人票の見方・履歴書作成講座&自己分析【2018年度】	単立ち支援	2018/04/25	4, 専1	1	無効	▶
2018	「進路支援セミナー第3回」エントリーシート【2018年度】	単立ち支援	2018/05/02	4, 専1	1	無効	▶
2018	「進路支援セミナー第4回」エントリーシートⅡ【2018年度】	単立ち支援	2018/05/09	4, 専1	1	無効	▶
2018	講話④: 社会の求める人材 (3年生対象)【2018年度】	社会性	2018/05/10	3	0	有効	▶
2018	講話: 専攻科生のアドバイス(2年生対象)【2018年度】	社会性	2018/05/17	2	0	有効	▶
2018	適性検査(SPI)対策Webテスト【2018年度】	単立ち支援	2018/06/15	4, 専1	1	無効	▶
2018	キャリアガイダンス⑩「学習内容と卒業生の進路」【2018年度】	感性・表現力	2018/06/21	1	0	有効	▶
2018	キャリアガイダンス⑩⑪⑫: キャリアプランの作成I, II, III	単立ち支援	2018/07/05	3	0	有効	▶
2018	講話①: 「高専生活の過ごし方」(5年生)						

図 26. きやり Pi 画面

## 2.12 阿南高専

manaba を使用。manaba 上の活動（アンケート回答、課題提出等）は自動的に記録されている（整理はされない）。



2019-01-27 (Sun)  
教育開発推進室 | 設定 | ログアウト

マイページ コース

1-4 (2018年度)

コース設定 担当教員: 西森, 櫻井 2018

小テスト アンケート レポート プロジェクト 成績 掲示板 コースコンテンツ

目標設定(平成30年度)

受付期間	2018-04-11 07:00~2018-05-01 00:00
ポートフォリオ	回答を学生のポートフォリオに追加

※アンケート集計シートに表示される問題番号を赤の太字で表示しています(例: **1.1**)。

**将来目標について**

1. 卒業後の進路について答えてください(できる限り具体的に)。  
例: ○○企業に就職する。○○大学に進学する。また、確定していないが、就職したい。etc...

**1.1**

**今年1年間の目標について**

**キャリア目標**

2. 将来目標を達成するために、今年1年間で達成したいキャリア目標を設定してください。また、前期末までに達成すべき項目について具体的に記入してください。  
例1: 今年1年間で将来就きたい仕事の分野を決める。前期末までに、就職の関連資料を調べて、5社以上の資料を集める(5社以上をインターネットで調べる)。  
例2: 今年1年間で進学したい学校を決める。前期末までに、過去に卒業生が進学した興味のある大学等のパンフレット等を3校分集める。

**1.2**

図 27. manaba 画面